

# 教育・研究年報

令和4年度改訂

徳島文理大学  
人間生活学部

## まえがき

令和4年度人間生活学部の教育・研究年報を刊行いたします。ご覧下さいまして、年報のあり方、あるいは教員の活動に対しご指導を賜りますことを願っております。

人間生活学部は6学科からなり、各学科が連携し、人間生活学の魅力的な教育・研究を展開させています。学科構成の多様性が人間生活学部の特徴・メリットです。令和4年度を振り返り、多くの出来事の中から各学科の活動や特徴を紹介しましょう。

まず人間生活学科から紹介します。豊かなくらしのあり方を幅広く学ぶ学科をめざしています。教育内容は、生活経営学、食物学、被服学、住居学、コミュニティデザイン、保育・保健・養護学の各分野から構成されています。心理学科と共に、長年の伝統につちかわれた養護教諭の養成に工夫を重ね、模擬保健室を活用し、より実際的・具体的な実習・教育を展開しました。人間生活学科は「人生100年時代における生活の質向上」を探究し、社会と生活の変化に対応して活躍する人材を育成します。

食物栄養学科は、食を通じて健康な生活を支えるプロフェッショナルを育成します。そして管理栄養士国家試験に合格できる学力をつけることを教育の基本にして、冬期講習等、国家試験合格率向上のための工夫を重ねてきました。さらに、栄養や保健、衛生の高度な学識と技術をもち、「人間栄養学」すなわち人を健康にする栄養のプロフェッショナルである管理栄養士を養成し、生活習慣病を予防する栄養教諭の養成にも力を注ぎました。これらの目的のために、栄養学、解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶことができます。

児童学科では、国公立の小学校・幼稚園・保育所・認定こども園等の就職合格率も向上しました。また学生による合唱の発表等、音楽活動にも力を入れました。小学校教諭1種免許状などを取得するとともに、教育情報処理を学び、実践現場でコンピュータ類を有効に活用できる高度な教育的実践力の形成につとめ、小学校で外国の身近な生活や文化に親しませる基礎的な英会話の指導ができるようにします。近年の少子化は教員採用数に影響を与えており、厳しい状況ですが、子どもや保護者の心の理解とサポートのために準学校心理士資格の取得指導にも力を入れます。

メディアデザイン学科は、IT社会にふさわしい情報技術関連のスペシャリストを目指す学科であり、メディアテクノロジーを活用して問題を解決する能力を養成します。総合的に「情報領域」「調査分析領域」「コンテンツ領域」などを学ぶことができるという他大学にはない特色を活かしつつ、地域社会活性化プロジェクトに積極的に参加しました。コンピュータの知識・技術やデジタル制作技術を習得して、地域社会を支える実践的ICT人材を育成しています。年々学生数が増加しており、学科が認知されてきています。

建築デザイン学科では、3次元のモノ作りである3Dプリンタの応用やドローンなど最先端技術を積極的に取り入れ、4年になるまでにコンピュータによる設計ができるようにCAD教育に力を入れています。一方、地域に密着した活動も継続しています。そして人と生活と環境を大切にして、建築の3要素である「強・用・美」をそなえた建築・インテリアを創造する人材を育成しています。平成29年(2017年)から入学者数は募集定員を

コンサルタントに超えており、卒業生は、総合建設業、設計事務所、住宅産業、不動産業などに100%就職しています。

心理学科は公認心理師法の施行（平成29年9月）で注目を集めています。中四国における臨床心理士養成校のパイオニアとしての永年の経験を元に、公認心理師養成に向けてカリキュラム等の整備をしました。教員自身が、第1回公認心理師試験（平成30年9月）に合格して着実に教育体制を整えています。心の問題は学校教育現場においても重要で、心理学を学び養護教諭をめざす人材の育成にも力を入れています。「心の痛みの分かる、暖かく冷静な人に」を目標に心理学科は進んでいます。

このように、各学科が多くの課題に果敢に挑戦していることの一部をお分かりいただけると思います。

令和5年1月末は、新型コロナウイルス感染症が流行しはじめて満3年になりますが未だ収束の兆しは見えません。令和2、3年度は、感染を防ぐために対面授業から遠隔配信授業に切り替えることがありましたが、令和4年度は遠隔配信授業を行わず、対面授業を続けました。しかし学生の中に感染者や濃厚接触者として、学校保健安全施行規則19条により授業を欠席する状況は続いています。

日本の大学を取り巻く状況は大変厳しいものがあります。特に若年人口の減少が続き、志願者の確保がますます難しくなっています。

しかし本学130周年に向けて、上に記したような各学科の取組を一層発展させていけば、我々は本学の明るい未来を必ず見出していくことができるものと確信しています。

人間生活学部長 森田孝夫

目次

まえがき 人間生活学部長 森田 孝夫

第1章 人間生活学部の概要	
第1節 学部の沿革と基本理念	1
第2節 学部の構成	3
第3節 学部運営組織（各種委員会の構成）	5
第4節 学部各種委員会活動報告	8
第2章 学科スタンダード	
第1節 人間生活学科	32
第2節 食物栄養学科	33
第3節 児童学科	34
第4節 メディアデザイン学科	36
第5節 建築デザイン学科	37
第6節 心理学科	38
第3章 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果	40
第4章 学生による授業評価アンケート集計結果	48
第5章 研究授業報告	54
第6章 教員活動状況	
第1節 人間生活学科	56
第2節 食物栄養学科	68
第3節 児童学科	92
第4節 メディアデザイン学科	120
第5節 建築デザイン学科	132
第6節 心理学科	146
編集後記	168



## 第1章 人間生活学部の概要

### 第1節 学部の沿革と基本理念

#### (1) 沿革

本学園は明治 28 (1895) 年、学祖村崎サイ先生が「女も独り立ちできねばならぬ」と唱え、自立協同を建学の精神として、私立裁縫専修学校を創立したことに始まるが、その後、この専修学校が時代の変化・要請と共に拡大発展し、昭和 36 (1961) 年には徳島女子短期大学 (家政科)、次いで昭和 41 (1966) 年に徳島女子大学 (家政学部) が設置された。現在の人間生活学部はこうした歴史的発展のうえに成り立っているものである。

#### 〔沿革の概要〕

昭和 41 (1966) 年	徳島女子大学家政学部家政学科設置
昭和 42 (1967) 年	管理栄養士専攻設置 管理栄養士専攻設置が管理栄養士養成施設として認可
昭和 45 (1970) 年	児童学科設置
昭和 49 (1974) 年	被服学科設置 (昭和 61 年廃止)
平成 5 (1993) 年	家政学専攻科設置
平成 6 (1994) 年	生活環境情報学科設置
平成 9 (1997) 年	大学院家政学研究科食物学専攻・生活環境情報学専攻修士課程設置
平成 10 (1998) 年	大学院家政学研究科に児童学専攻修士課程設置 人間発達学科設置 大学院家政学研究科に人間生活学専攻博士後期課程設置 大学院家政学研究科児童学専攻臨床心理学コースが臨床心理士養成機関に指定
平成 12 (2000) 年	児童学科が保育士養成施設として指定認可
平成 14 (2002) 年	家政学部を人間生活学部に変更 家政学科管理栄養士専攻を食物栄養学科に、生活環境情報学科を生活情報学科と住居学科に改組転換 家政学科家政学専攻を人間生活学科に変更
平成 15 (2002) 年	人間福祉学科設置 人間発達学科を心理学科に変更
平成 17 (2005) 年	大学院家政学研究科を人間生活学研究科に変更 大学院人間生活学研究科児童学専攻臨床心理学コースを改組し、心理学専攻 [博士課程 (前期)] 設置
平成 18 (2006) 年	生活情報学科をメディアデザイン学科に変更
平成 19 (2007) 年	人間福祉学科を人間福祉学部人間福祉学科として独立
平成 21 (2009) 年	住居学科を建築デザイン学科に変更
平成 30 (2018) 年	大学院人間生活学研究科心理学専攻が公認心理師国家試験受験資格を認定される。

## (2) 基本理念

家政学部は昭和41年に設置されたが、その後、科学技術の急速な進歩や産業構造の高度化に伴って、社会構造も複雑化し、その結果、教育の大衆化、生活様式や価値観の多様化、情報化、少子高齢化、さらには心の問題、ヒューマンリレーションの欠如といった諸々の問題が生じてきて、人間生活が大きく変貌してきた。

このような人間生活をめぐる社会的諸事象の変化に即応可能な人材を育成するため、従前のような衣食住を中心とする伝統的な家政学の分野を超えた新しい学部の在り方や内容を発展的・総合的に再検討する必要が生じてきた。そこで、これまでの歴史的・社会的役割とその成果を継承しつつ、有意な教育・研究体制を確立して、より一層の社会的貢献を果たすべく、平成14年に家政学部を人間生活学部として新しくスタートさせ、今日に至っている。

現在、本学部は、それぞれに特色ある目的・内容を持った6学科と専攻科より構成されている。このいずれもが人間の「生」と深く関わったものである。人間は環境（文化的・社会的・自然的環境等）との相互作用によって規定され得る生命体であるが、この観点から言えば、人間の「生」の問題は、取りも直さず生命の保持、健康の維持・促進、人間としての成長と発達、人間らしい生活の営みと行動の在り方、対人関係、文化の習得とその創造などと常に不可分の関係にある。しかし、そこには幾多の解決されねばならない課題も存在しているため、本学部では人間の自立と環境との共生という観点から、これらの課題解決に向けて常に科学し、新しいビジョンの下に創造していくことのできる人材、従って社会の新しい分野を担うことのできる人材の育成を目指している。それだけに本学部は諸科学、つまり人文科学、自然科学、社会科学等が有機的に連関するところに成り立つ特色ある学部であると言える。人間の開発・人間の自立の問題も、こうした関連科学の探究によってこそ保障されるものであると考えられる。

ところで、現代は「知識基盤社会」と言われ、知の伝達、知の創造と発見、知の応用が大切であるとされるが、快適で健全なる人間生活の創造を考えると、「知識基盤社会」にふさわしい人間の教育をこそ重視していかなければならない。このため、本学部では建学の精神に立脚して、次のような人間の育成をめざすものである。

第一は、豊かな人間性を身に付けた人材の育成である。教育の目的は、まさしく人格の完成にある。このため、充実した教育・研究を通じて、倫理観に裏付けられた知性と技能を有する個性豊かな品位ある人間の育成を目指す。このことは「人間の自立」、「知性と人間性の尊重」における根本精神でもある。

第二には、高度な専門的知識・技能の習得を目指すことにある。基礎・基本の習得と幅広い教養教育の確立を前提として、知の時代にふさわしい先端的な知識・技能を広い視野から身に付けた人材、つまり社会から常に必要とされ、しかも地域社会においてのみならず、国際的にも貢献できる実践的な専門家の養成をねらいとする。

第三には、意欲的で創造的な人間教育である。学生のやる気・意欲を喚起し、夢と情熱を持って新しい事柄や未知の分野に柔軟な思考力で挑戦していく教育、従って知識・技能の応用力を高めつつ、学問的なパイオニア精神を培い、豊かな創造力を身に付ける教育を重視する。変化に対応できる人間教育である。

## 第2節 学部の構成

現在、人間生活学部は1～4学年をあわせて1,196名（令和4年5月1日現在）の学生を擁し、それぞれに特色ある人間生活、食物栄養、児童、メディアデザイン、建築デザイン、心理の6学科と専攻科から構成された学内最大の学部である。

ここで各学科の特性について要約的に述べれば、まず人間生活学科では、人間生活に関する衣食住のみならず、保育・保健・家族、さらには家庭経済や消費、環境問題、地域防災などを含めた内容を総合的に学びつつ、より健全なる人間の生き方を総合的に追究していく。学部のなかでは最も伝統ある学科である。食物栄養学科は、化学や生物などの内容を把握し、同時に人体の構造特性や機能等を理解したうえで、生活習慣病の予防をも視野に入れながら、人間の生命や健康に関わる食物栄養の特性などを実験等によって深く追究していく学科である。このため、管理栄養士養成を主たる目的としている。児童学科は、総合的な人間力を身につけた教育・保育の専門家を養成する学科である。乳幼児期から児童期に於いて、子どもの健全なる成長・発展と確かな学力を保障し、かつ、生きる力を育むことのできる専門的力量と豊かな指導性を養う学科である。

さらにメディアデザイン学科は、IT社会にふさわしい情報技術関連のスペシャリストを目指す学科であり、ソフトウェアの開発・ネットワークの構築技術、さらにはインストラクショナルデザインなどを幅広く習得して、常に進展し続けるIT社会に即応可能な人材育成に力点を置いている。平成19年1月のメディアセンターの完成により、最先端の情報施設・設備が整えられたことから、今後さらなる教育・研究の充実が期待される学科である。建築デザイン学科は、21世紀のよりよい住まいの創造、即ち住生活空間をまちづくりや環境共生、インテリアなどの観点から、常にフレッシュな感覚を持って、総合的・実践的に指導する学科である。心理学科は、平成29年9月の国家資格・公認心理師法の施行で社会の注目を集め、複雑化する社会ならびに学校教育現場においてクローズアップされている心の問題に正面から取り組み、心のメカニズムや対人関係のあり方、人間の考え方（思考方法）、そして、カウンセリングの方法などを具体的・実践的に学び、メンタルヘルスに関わる専門的知識・技能を習得している。

専攻科については、平成17年度から従来の家政学専攻科を人間生活学専攻科に名称変更し、これに伴って家政学専攻も人間生活学専攻となり、現在では児童学専攻と人間生活学専攻の2専攻となっている。これらの専攻科では、学部の内容を踏まえた上で、さらに内容の深化・発展を図ることになる。

なお、これらの学科（専攻科含む）で取得可能な免許・資格及び定員については以下の別表のとおりである。



表

学 科 名	取得可能な免許状・資格	入学定員	編入定員
人間生活学科	教員免許高一種・中一種（家庭・保健）、養護教諭一種、二級建築士受験資格（実務1または2年）フードスペシャリスト、社会福祉主事の任用資格、医療秘書、福祉住環境コーディネーター、防災士、上級情報処理士（N）	40	※
食物栄養学科	管理栄養士国家試験受験資格（実務経験不要）、栄養士、栄養指導員・食品衛生監視員・食品衛生管理者の任用資格、教員免許高一種・中一種（家庭）、栄養教諭一種、医療秘書	90	※
児童学科	教員免許小一種・幼一種、中学校英語二種、保育士、レクリエーション・インストラクター、スポーツ・レクリエーション指導者、准学校心理士・社会福祉主事・児童指導員・社会教育主事（任用資格）	100	※
メディアデザイン学科	教員免許高一種（情報）、上級情報処理士（N）、社会調査士、プレゼンテーション実務士、Web デザイン実務士	30	※
建築デザイン学科	教員免許高一種・中一種（家庭）、一級建築士受験資格（実務2年）、二級建築士受験資格（実務不要）、一級・二級建築施工管理技士受験資格、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーター検定	45	※
心理学科	養護教諭一種、認定心理士、社会福祉主事・児童指導員の任用資格、医療秘書 （公認心理師、臨床心理士は大学院修士修了受験資格）	100	※
※印の編入定員については、定員に余裕がある場合にのみ受け入れる。		(計) 405	

専攻科

専攻科	専 攻	修業年限	取得可能な免許状	入学定員	入学資格
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	1年	教員専修免許/高・中（家庭） 養護教諭	8	大学 卒業者
	児童学専攻		教員専修免許/小・幼	6	

### 第3節 学部運営組織（各種委員会の構成）

人間生活学部における運営組織については、教授が参加する学部教授会、全教員が参加する学部教授総会、学部長および各学科長による学科長会議、各学科の教員による学科会議、ならびに役割に応じた各種の委員会（全学的委員会への参加および学部独自に設置された各種委員会）がある。

学部教授総会は第2火曜日に開催することを原則としている。学部教授会は学部教授総会の一部として実施される他、必要に応じて学部長が招集する。

全学的委員会への参加を表1に、学部の各種委員会の構成を表2に示す。大学院等と学部を兼ねている教員もいるため、大学院等の委員会も含めて示している。

なお、学部の「教員養成推進委員会」については、平成17年度に全学的な視点からの教員養成対策委員会並びに教員養成対策室が設けられたことから、従来の「教育実習委員会」をこれに対応させて「教員養成推進委員会」に名称変更した。

学部の各種委員会について、各委員は2年毎に交代することを原則としている。令和4年度の学部委員会は10の委員会から構成されており、それぞれにおいて選出された委員長（委員会によっては副委員長も選出）のリーダーシップの下に、学部教授会での決議事項等を踏まえて、その役割を果たしている。

各種委員会の会議については、委員会活動の課題に応じて適宜開催されるが、その具体的な活動内容については委員長が毎年3月末に学部長に報告することになっている。

表1 令和4年度委員一覧 (全学的委員会)  
2022年度 委員一覧(案)

人間生活学部  
2022年4月21日現在

区分	委員会	各学科委員						備考	
		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理		
全学的委員会	学生指導・支援協議会					川村		○ 学部学生指導委員会委員長とする。(任期2年)(小規模学科は1年) (R1, 2年度:児童学科, R3年度メディア, R4年度:建築)	
	人権教育推進委員会					川村		○ 学部学生指導委員会から1名 (任期2年, 小規模学科は1年) (R1, 2年度:児童学科, R3年度メディア, R4年度:建築)	
	紀要編集委員会			松本 有				○ 教育研究支援課の関係1名(大規模学科:任期2年) (R1, 2年度:食物栄養)(R3,4年度:児童)できれば博士号保有者。	
	全学入試委員会			津守				* 30R1年度:食物栄養学科, R2,3年度:心理学科, R4, 5年度:児童学科	
	大学入学共通テスト委員				長濱			* 30R1年度:食栄, 2,3年度:児童, R4年度:メディア, R5年度:建築	
	ハラスメント防止委員会	防止員		小川					○ 学生部関係 30R1年度:心理, R2,3年度:人間生活, R4,5年度:食栄
		相談員					山田		○ 学生部関係 30R1年度児童, R2,3年度 メディア, R4,5年度:建築
	インターンシップ推進委員会						阿波		○ 就職支援部関係 1名 (任期2年) 30R1年度:児童, R2,3年度:建築, R4,5年度:心理
	就職支援委員会		竹内						○ 就職支援部関係 1名(任期2年) ○ 学部就職支援委員会委員長(R2,3年度:心理, R4年度:人間生活)
	教育開発機構	教務委員会			河口				○ 教務部関係, 学科長輪番, R1,2年度:心理, R3,4年度:児童(主要学科) ○ 学部教務委員会委員長とする。
		一般教育研究部会						新見員	○ 全学共通教育センター・語学センター関係(含む新入生教育) * 29年度:食栄, 30R1,R2,3年度:児童, R4,5年度:心理
		SD推進委員会					森田		SD推進委員会設置要項にもとづき学長が指名する学部長
		FD研究部会				古本			学部教育研究委員会委員長が兼務。(R3:児童, R4メディア)
	教職課程委員会		寺奥		三橋林			貴志	○ 教務部関係 4名 (任期2年:R2,3年度) ○ 教職科目担当 3名(内2名は児童学科, 1名は心理学科) ○ 人生と食栄(31, R2年度:食栄)(R3, 4年度:人生)(R5, 6年度:食栄)
	倫理審査委員会			石堂		山城			○ 教育研究支援部関係2名(任期2年)(食栄・石堂継続) (R2, 3年度:人生, 食栄, R4,5年度:メディア)
	研究者倫理教育委員会						上田		任期2年, 30R1年度:人生, R2,3年度:心理, R4,5年度:建築(逆さ回り)
	選挙管理委員会						笠井		総務関係 1名(任期1年:隔年) R1,2年度古本 * R3,4年度建築
	退学者防止対策検討委員会		池添	中川	岡山	長濱	川村	中嶋	各学科から1名
	広報担当委員会				定國	加治			学部広報委員会の正・副委員長とする(Hp等の作成)。 30R1年度:建築・心理, R2,3年度:人生・食栄, R4,5年度:児童・メディア
	認証評価委員会		衣川	石堂	河口	篠原	森岡	青木	R7年度第4回自己点検評価報告書の作成 R3年度自己点検評価の中間報告書を完成させた
	自己点検・評価委員会			犬伏				前委員長 (原田)	学部自己点検・自己評価委員会の委員長を大規模学科から選ぶ。任期1年。 学部自己点検・自己評価委員会と協同して教育・研究年報を作成する。
	新入生セミナー運営委員会	2022年度実施	高橋池添	栗飯原吉村	那住金子	山城古本	上田川村	原田貴志	○各学科より2名を選出して構成する。(半数を前年度委員とする) ○任期2年。実施委員会(委員長は学部長)委員を兼ねる。
		2023年度実施	池添高橋	吉村栗飯原	金子定國	古本加治	上田笠井	原田貴志	○任期は翌年の実施後のアンケート処理までとする。
	チーム医療促進委員会			坂井隆森川				伊藤	委員長 * 医師, 管理栄養士, 臨床心理士各1名
	実験動物委員会			石堂					喜多委員長(薬学部)
	組み替えDNA委員会			石堂					石堂委員長 *
<p>○上記の委員は、各委員会に出席し、その内容を学部教授会において報告・連絡するとともに、必要に応じて議案を提出するなどして、それぞれの責務において速やかな対応を図るように努める。同時に、学部の関連する委員会とも密接な連携を図る。 * 学科長の意見を参考に学部長が指名する。</p>									

表2 令和4年度委員一覧（人間生活学部各種委員会）

区分	委員会	学科		各学科委員						備考
		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理			
人間生活学部委員会	教務委員会 (学科長)	衣川	石堂	◎河口	篠原	森岡	青木	◎各委員は、所属学科のカリキュラムの実情を十分に把握したうえで学科間のカリキュラム調整を行う。 ◎委員長は全学教務委員を兼ね他学部学科・教務部との調整をする。		
	教育研究委員会 (FD研究部会) (各学科1名)	高橋	近藤	岡	◎古本	上田	中嶋	◎教員の研究発表会を運営する(発表者の選出、計画、実施) ◎学生による授業評価や研究授業等に関する運営全般を行う。 ◎図書購入の申請リスト作成等を行う(年2回)など。		
	入学試験委員会 (各学科1名)	寺奥	坂井隆	◎津守	長濱	森岡	土中	◎委員長は全学入試委員を兼ねる。 (30,R1年度食栄・栗飯原、R2,3年度心理・小坂、R4,5年度児童・津守)		
	自己点検・自己評価委員会 (各学科1名)	竹内	◎犬伏	岡	長濱	山田	原田	◎主要学科委員は自己点検評価書の作成を行う実施委員を兼ねる。 (年間を通じての計画作成・実施など) ◎原則として、年1回(3月頃)報告書を作成する(授業評価、研究授業、研究発表、就職状況、各科スタンダードの達成状況、新入生のイメージ調査の概要、共同研究の概要、社会的活動や業績など)		
	学生指導委員会 (各学科1名)	高橋	小川	松本有	山城	◎川村	中嶋	◎委員長は、学生指導・支援協議会の委員も兼ねる。 ◎学生生活に関する各種調査を実施し、学生の生活指導に役立つよう、報告書を作成する。 ◎クラス担任及びチューターの学生指導に関する内容をまとめたり、必要に応じて問題提起を行う、など。		
	広報担当委員会 (各学科1～2名)	池添	坂井堅 栗飯原	◎定國	加治	山田	福本	◎委員長・副委員長は広報担当委員会の委員も兼ねる。 ◎広報誌(専攻科、大学院含む)の作成を担当する。(入試広報部と連携) ◎ホームページ(専攻科、大学院含む)の作成や修正を行い、常に新しい情報を収集して入試広報部に依頼しHPに掲載する。 ◎入試広報部と連携して高校訪問等の広報活動を企画運営する。		
	教員養成対策委員会	衣川	石堂	河口	篠原	◎森田 森岡	青木	◎学部長及び学科長をもって構成する。 ◎委員長は学部長とする。		
	教員養成推進委員会 (各学科1名)	寺奥	松本萬	◎三橋	山城	川村	貴志	◎委員長は必要に応じて学部の教員養成対策委員会に出席できる。 ◎委員会は教員養成向上のため、学部の教員養成対策委員会及び全学共通教育センターと連携を取り合って、必要事項についての円滑な実施を図る。 ◎各種の校外実習(教育・保育・臨地実習等)を充実させるため、教育実習の手引き等を参考にして、その趣旨の徹底化を促す。 ◎必要に応じてアンケート調査等を実施し、実習における事前・事後指導を含む問題点を明確にするとともに、その改善策を提示するなど。		
	就職支援委員	◎竹内	森川	仁宇	加治	森岡	渡邊	◎委員長は全学就職支援委員会の学部委員を兼ねる。各学科1名。		
	中期目標策定委員会	衣川	石堂	河口	篠原	◎森田 森岡	青木	◎委員長は学部長が務め、委員は学科長が務める。 ◎学園本部企画部の指示にしたがい2020年度から策定する。		
	通路ウォーク委員	池添	吉村	那住・金子	古本	川村	貴志	◎新入生セミナー運営委員会委員が兼務してよい。		
	災害時初期対応者	衣川	石堂 栗飯原 坂井堅	三橋 林 松本	篠原	上田 山田	土中	選出条件:大学から近距離に住み、災害時に大学へ駆けつけられる。		
	保護者会とりまとめ					森岡		◎学科長1年任期 R1石堂 R2河口 R3篠原 R4森岡 R5心理		
	履修ガイド (学科長)	R4年度				篠原		◎学科長1年任期 R1岡部 R2石堂 R3河口 R4篠原 R5建築		
R5年度					森岡					
<p>◎任期中に欠員が生じた場合、残任期間について補充することを原則とする。</p> <p>◎各委員会においては、委員長及び副委員長を選出し、職務が円滑に遂行されるようにする。</p> <p>◎各委員会の委員長は、年間の活動状況(委員会開催の日時、活動の概要、各委員の参加状況等)を別紙の様式にしたがって記載し、毎年学部長および自己点検・自己評価委員会委員長に提出し、「教育・研究年報」に活動状況を報告する(2月中に提出、R3年度は遅滞)。</p> <p>◎全学的委員の交替については、原則として人間生活学科、食物栄養学科、児童学科、メディアデザイン学科、建築デザイン学科、心理学科の順とする。なお、各委員長は、学部教授会で必要に応じて当該委員会での報告等を行う。</p>										

◎ 委員長 ○ 副委員長

## 令和4年度 人間生活学部教務委員会活動報告

全学教務委員会委員長

河口 雅子

令和4年度においては全学教務委員会が2回開催され、各議題への協議がなされた。

- 1 第1回全学教務委員会（令和4年8月2日開催）
  - (1) ディプロマポリシーの見直し状況について
    - ・各学科別ディプロマポリシーの見直し状況について
  - (2) 学修成果の可視化に向けた取組状況について
    - ・専門教育科目とディプロマポリシーとの関連づけについて
    - ・卒業予定者の社会人基礎力を測定（予定）について
    - ・ディプロマサプリメントのシート作成について
  - (3) 中途退学者の防止に向けた取組状況について
    - ・令和3年度学科学年別退学者数について
    - ・令和4年度学科学年別退学・休学等心配な学生について
    - ・令和4年度退学者防止対策検討委員会の開催について
    - ・退学防止に有効と考えられる方策
  - (4) 私立大学等経常費補助金特別補助について
    - ・成長力強化に貢献する質の高い教育『数理・データサイエンス・AI 教育の充実』
    - ・キャンパスの情報処理担当者について
- 2 第2回全学教務委員会（令和5年3月24日開催）
  - (1) ディプロマポリシーの見直し状況について
    - ・各学科別ディプロマポリシーの見直し状況
  - (2) ディプロマポリシーの達成に向けた教育活動・学修のPDCAサイクル
  - (3) 教育課程の変更について
    - ・規定規則の変更
    - ・学科の意向による変更
  - (4) ディプロマサプリメントの発行状況について
  - (5) 中途退学者の防止に向けた取組について
    - ・令和4年度退学者防止対策検討委員会報告

- ・令和4年度学科学年別退学者数について

(6) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度について

- ・文理学「数理・データサイエンス・AI入門」の新設について
- ・リテラシーレベルへの応募（大学・短大）について
- ・応用基礎レベルへの応募（理工学部）について

教育研究委員会委員長  
古本 奈奈代

## I. 委員会の目的

1. 図書（図書館収蔵）購入に関する事務を取り扱う：大学院生・学部生の勉学に資するため図書館の収蔵する図書を各委員から推薦して頂き、委員会がとりまとめて購入申請を行う。
2. 「新任教員の研究紹介」発表会（年1回）を実施する：学部に新たに着任された教員の研究領域、業績、今後の教育・研究の展望を発表して頂く会を実施する。日時・場所の設定、発表者への依頼、抄録集の作成、当日の運営を行う。

## II. 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。図書申請は大学院の図書も含まれるため、大学院担当の教員（各専攻1名）が必ず含まれることとする。
2. 令和4年度委員  
高橋昌江（人間生活学科）、近藤美樹（食物栄養学科）、○岡直樹（児童学科）、古本奈奈代（メディアデザイン学科）、上田泰史（建築デザイン学科）、中嶋英治（心理学科）  
〔◎印：委員長、○印：副委員長〕【敬称略】
3. 担当：図書申請（中嶋委員）  
「新任教員の研究紹介」発表会（全員）

## III. 委員会開催の概要

### 第1回教育研究委員会

日時：令和4年6月7日（火）14:55～15:3

場所：25号館11階 ゼミ室②

出席者：高橋（人間生活学科）、近藤（食物栄養学科）、○岡（児童学科）、

◎古本（メディアデザイン学科）、上田（建築デザイン学科）、中嶋（心理学科）

【敬称略】

### 議題：

1. 図書申請について
  - (1) 学部及び大学院担当：中嶋委員
  - (2) 申請時期：  
第Ⅰ期 6月14日（火）～6月30日（木）  
第Ⅱ期 10月11日（火）～10月31日（月）
  - (3) 予算：学部500万円，大学院70万円の予定
  - (4) 申請依頼：6月および10月学部教授会で告知
2. 新任教員の研究発表会について
  - (1) 発表者：4名
  - (2) 実施方法：従来の対面形式ではなく、オンライン形式で実施することが委員長より提案され、委員会です承された。学部長に了解を得たのち具体的な計画を立てることとなった。

3. その他  
なし

以上について協議された。

IV. 図書購入申請の概要

主に6月と10月のII期で購入申請を行った。人間生活学部全教員からの購入希望図書を集約し、購入申請を行った。

	予算	執行金額
学部図書	5,000,000円	4,999,823円
大学院図書	700,000円	699,930円

V. 活動のまとめ

図書申請と新任教員研究発表会を中心に活動を行った。図書申請については、購入希望冊数は、最終的にほぼ予算通りであった。

新任教員の研究紹介については、オンライン形式が検討されたが、学部長からの助言もあり従来通り対面形式で実施した。本年度は対象者4名であり、9月13日(火)14:30より9704講義室にて実施した。



## 令和4年度人間生活学部入試委員会

入試委員会委員長  
津守 美鈴

### I 委員会の目的

- ① 学生確保に資する方策を検討する。
- ② 人間生活学部における入学試験に関する事項について、学科間の意見を調整し、学部教授会にて承認を得る。
- ③ 全学入試制度検討委員会および全学入試委員会と人間生活学部教授会との円滑な情報交換に資する。
- ④ 学務入試グループと連携を図る。

### II 入試委員会の活動概要

#### (1) 構成メンバー

委員長：津守（児童）

委員：寺奥（人間生活）、坂井（隆）（食栄）、長濱（メディア）、森岡（建築デザイン）、津守（児童）、土中（心理）

全学入試委員会委員：津守（児童）

共通テスト担当：長濱（メディア）

#### (2) 主な作業

##### ・入試要項の確認

各学科に入試要項の校正を依頼、取りまとめ

##### ・地方試験場派遣者の検討・決定

地方試験場派遣者の選出を各学科へ依頼、取りまとめ

##### ・入試問題仕分け作業

##### ・各種入試志願者の情報確認

各種入試志願者の情報確認を各学科に依頼

##### ・各種入試合否判定

各種入試の合格者数、合格得点率などのデータ入力

##### ・全学入試委員会への参加

来年度入試改革の検討

##### ・大学入試センター試験（共通テスト）業務

試験監督割振り、試験会場準備、試験実施および実施後の処理など

##### ・学務入試グループとの連携

総合型選抜入試面談日固定案の検討、共通テスト試験業務：準備、実施他

#### (3) 活動のまとめ

入試委員長および全学入試委員は、年度内に全学入試委員会に出席するだけでなく、複数回の各種入試に対応する必要がある。それに加えて、人間生活学部は学科数も多く、入試業務は多岐にわたったが、入試はミスが許せないため、慎重に業務を進めて行けるように努めた。

## 令和4年度 学生指導委員会報告

学生指導委員会 委員長  
川村 恭平

### I 委員会の目的

全ての学生が学生生活の充実をはかり、実りある大学生活を送れるようにその方策を検討する。学生生活に関する調査を実施し、学生の生活指導に役立つよう報告書を作成する。

### II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。

2. 令和4年度委員

高橋昌江(人間生活学科)、小川直子(食物栄養学科)、松本有貴(児童学科)、○山城新吾(メディアデザイン学科)、川村恭平(建築デザイン学科)、中嶋英治(心理学科) [○印：委員長] 【敬称略】

### III 委員会開催の概要

#### 第1回学生指導・支援委員会

日時：7月28日 メール会議まとめ：活動内容についての検討

1. 全学の学生指導・支援協議会が9月13日(火)に書面会議で開催された。全学の委員会から学部の委員会へ仕事の依頼等は無かった。

2. 本年度の活動について、次の3案について検討した。

- 1) 学生生活の変化を昨年度と比較、把握するため、昨年度と同じ調査を実施する。
- 2) 昨年度の調査を改良して実施する。
- 3) 新しい調査を考案し、実施する。

その結果、「1) 学生生活の変化を昨年度と比較、把握するため、昨年度と同じ調査を実施する。」に決定した。

#### 第2回学生指導・支援委員会

日時：10月26日 メール会議まとめ：アンケート調査の内容等についての検討

1. 2020年度の調査目的、内容、時期、学生への連絡、結果の共有方法について確認した。

2. 2021年度の調査目的、内容、時期、学生への連絡、結果の共有方法について検討した。

### 第3回学生指導・支援委員会

日時：11月8日 メール会議まとめ：アンケート調査の内容等についての確認・決定

1. 2022年度の調査目的、内容、時期、学生への連絡、結果の共有方法について確認した。
2. アンケート調査の目的  
コロナ禍の影響により、遠隔授業や外出自粛を余儀なくされている学生の現在の状況や課題を調査し、今後の授業や生活に対する支援の参考とする。

### 第4回学生指導・支援委員会

日時：11月18日 メール会議まとめ：アンケート調査の内容等についての最終確認・決定

12月1日より12月27日でアンケートの実施

### 第5回学生指導・支援委員会

日時：令和5年1月20日 メール会議まとめ：アンケート集計結果についての検討

1. アンケート集計結果について検討した。
  - ・学部全体の回答率が42%で前年より減少している。学生生活の実態把握に役立つものとなった。
  - ・調査内容は昨年度とほぼ同じなので、3年間で比較できるようにした。
2. アンケート集計結果の公開、周知方法について検討した。
  - 1) 学生に対しては、学部HPで2022年度版「教育・研究年報」が公開された後、学生ポータルサイトから次の内容をアナウンスする。

「2022年度 学生アンケート（人間生活学部）集計結果」について  
人間生活学部 学生指導委員会からの連絡です。  
学部HPで「教育・研究年報」が公開されました。  
その中に「2022年度 学生アンケート（人間生活学部）」の集計結果を掲載する予定にしておりますので記載されたらご確認下さい。  
(年報が公開されているWebページのURL。変更がなければ以下と同じ。)  
<https://www.bunri-u.ac.jp/faculty/human-life/>
  - 2) 教職員に対しては、令和5年3月8日（水）の学部教授総会で資料を配付し、学生指導に役立てて頂くよう依頼した。また、学生部をはじめ、関係部署に配布した。

#### IV アンケート結果と考察

##### Q1 あなたが所属する学科をお選びください

	在籍者数	回答者数	回答率%	構成割合%
人間生活学科	100	61	61.0	12.2
食物栄養学科	239	52	21.8	10.4
児童学科	246	157	63.8	31.3
メディアデザイン学科	96	76	79.2	15.2
建築デザイン学科	190	101	53.2	20.2
心理学科	322	54	16.8	10.8
6学科合計	1193	501	42.0	100.0

##### Q2 あなたの性別をお選びください

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
女性	331	66.1	71.2	65.3
男性	170	33.9	28.8	34.7
合計	501	100.0	100.0	100.0

##### Q3 あなたの現在の住まいをお選びください

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
実家	231	46.1	45.2	47.8
下宿(一人暮らし)	259	51.7	51.8	49.8
学生寮	5	1.0	1.7	1.3
親戚の家	4	0.8	0.8	
その他	4	0.8	0.6	1.1
合計	501	100.0	100.0	100.0

##### Q4 あなたの学年をお選びください

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
1年生	137	27.3	26.9	28.6
2年生	116	23.2	23.6	25.4
3年生	131	26.1	29.9	24.2
4年生	115	23.0	19.6	21.8
4年生	2	0.0	0.0	0.0
合計	501	100.0	100.0	100.0

##### Q5 クラブやサークルへの所属状況をお選びください

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.クラブに所属	101	20.2	22.4	27.1
2.同好会・サークルに所属	78	15.6	17.5	13.8
3.以前は所属していたが、今は所属していない	84	16.8	15.4	16.9
4.今まで一度も所属したことはない	238	47.5	44.6	42.2
合計	501	100.0	100.0	100.0

Q6 2年生以上の学生で、クラブ・サークル等に所属している方におたずねします  
 昨年度と今年度を比較して、活動頻度の状況をお選びください

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.同じくらいできている	55	43.7	34.7	11.9
2.どちらかというが減った	21	16.7	23.3	21.1
3.約半分になった	5	4.0	5.9	11.9
4.かなり減った	14	11.1	19.3	39.2
5.全くできていない	10	7.9	11.9	14.5
6.増えた	21	16.7	2.5	1.3
無回答	0	0.0	2.5	1.3
合計	126	100.0	100.0	100.0

※対象:2年生以上でクラブ、同好会、サークルに所属している学生126人  
 ※ 選択肢「6.増えた」は2022年度の新設項目。

Q7 クラブ・サークル等の活動で困っていることは何ですか？(全学年対象;複数回答可)  
 (2年以上でクラブ・サークルに所属している学生対象;複数回答可)

	選択数	2022年度	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%	選択率%
1.今後の活動の見通しが見つからない			20.3	38.3
2.毎年行っていた行事など実施できない	18	14.3	48.7	66.5
3.活動場所を確保できない	4	3.2	6.6	7.9
4.部員同士で連絡や相談ができない	8	6.3	2.0	4.4
5.部員数が大きく減少した	31	24.6	27.4	15.4
6.困っていない	68	54.0	28.9	42.3
その他	7	5.6	2.0	4.4
合計	136	107.9	136.0	179.3

※ 選択肢「1.今後の活動の見通しが見つからない」は2022年度の削除項目。

Q8 あなたは遠隔授業を受けましたか

	2022年度	
	人数	構成割合%
1.本年度ではないが、受けたことがある	242	48.3
2.本年度受けたことがある	179	35.7
3.受けたことがない	76	15.2
無回答	4	0.8
合計	501	100.0

※ 設問「Q8 あなたは遠隔授業を受けましたか」は2022年度の新規設問。

Q9 あなたは主としてどのような機器で遠隔授業を受けていましたか？(複数回答可)

	選択数	2022年度	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%	選択率%
1.パソコン	381	76.0	80.9	77.7
2.スマートフォン	327	65.3	72.1	72.0
3.タブレット	38	7.6	6.7	0.9
合計	746	148.9	159.7	150.6

Q10 あなたの住まいのネットワーク環境(Wi-Fi、有線LAN、携帯電話(テザリングを含む))はどうか？

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.データ通信量が無制限で、安定してつながるので、不安は無い。	294	58.7	53.4	47.1
2.データ通信量は無制限だが、つながらないことがあるので、やや不安がある。	116	23.2	27.8	30.3
3.安定してつながるが、データ通信量に制限(上限)があるので、やや不安がある。	47	9.4	12.8	15.1
4.データ通信量に制限(上限)があり、つながらないことがあるので、不安がある。	20	4.0	4.6	6.0
5.遠隔授業を受講できる機器の環境は整っていない。	1	0.2	0.1	0.4
6.遠隔授業を受けたことがない。	16	3.2		
その他	0	0.0	0.3	0.0
無回答	7	1.4	1.0	1.1
合計	713	100.0	100.0	100.0

※ 選択肢「6.遠隔授業を受けたことがない。」は2022年度の新設項目。

Q11 あなたが受けていた遠隔授業はどのようなものですか？(複数回答可)

	選択数	2022年度	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%	選択率%
1.GoogleClassRoomによるリアルタイムの授業	351	85.8	96.8	98.1
2.GoogleMeet等によるリアルタイムの授業	283	69.2	84.6	57.5
3.ビデオ配信による授業	129	31.5	28.8	24.0
その他	9	2.0	0.0	0.3
合計	772	182.1	210.1	179.9

※対象:遠隔授業の経験がある学生424人

Q12 遠隔授業は対面授業に比べると印象はどうか？

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.対面授業より大変である	110	22.0	29.2	37.8
2.対面授業より容易である	294	58.7	65.4	55.9
その他	13	2.6	4.9	5.3
無回答	7	1.4	0.6	0.9
合計	424	100.0	100.0	100.0

※対象:遠隔授業の経験がある学生424人

Q13 遠隔授業は、対面授業と比べて学習効果はありましたか？

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.かなり効果があった	41	8.2	11.1	10.2
2.何らかの効果があった	120	24.0	24.8	26.3
3.どちらともいえない	188	37.5	45.0	39.0
4.あまり効果がなかった	63	12.6	14.9	20.7
5.全く効果がなかった	7	1.4	3.9	3.2
その他	0	0.0	0.0	0.1
無回答	5	1.0	0.3	0.4
合計	424	100.0	100.0	100.0

※対象:遠隔授業の経験がある学生424人

Q14 遠隔授業では、教員とのコミュニケーションは取れていましたか？

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.全く取れていない	67	13.4	16.5	16.6
2.ある程度取れていた	325	64.9	77.0	78.2
3.よく取れていた	23	4.6	5.2	4.4
その他	4	0.7	0.7	0.5
無回答	5	1.0	0.6	0.3
合計	424	100.0	100.0	100.0

※対象：遠隔授業の経験がある学生424人

Q15 今後の遠隔授業について、あなたはどのように考えますか？

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.遠隔授業を拡大してほしい	100	20.0	21.0	20.5
2.遠隔授業と対面授業を併用してほしい	278	55.5	59.9	54.7
3.対面授業だけでよい	82	16.4	18.0	22.6
4.遠隔授業を受けたことがないのでよくわからない	21	4.2		
その他	5	1.0	0.8	1.6
無回答	15	3.0	0.3	0.7
合計	501	100.0	100.0	100.0

※ 選択肢「4.遠隔授業を受けたことがないのでよくわからない」は2022年度の新設項目。

Q16 大学の休みの日には主に何をしていますか？（複数回答可）

	選択数	2022年度	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%	選択率%
1.自宅で友人や家族と一緒に過ごす	215	43.0	40.1	44.9
2.自宅で一人で過ごす	280	56.0	58.9	56.6
3.自宅で一人だが、ネットで繋がるゲームや電話で誰かとつながっている	116	23.2	21.7	22.2
4.大学のクラブサークル活動に参加している	60	12.0	10.4	13.3
5.大学で勉強や研究活動をしている	29	5.8	6.5	6.6
6.友人や家族と一緒に出かける	262	52.4	46.3	34.9
7.一人で出かける	156	31.2	33.0	26.3
8.アルバイト	308	61.6	54.4	10.1
その他	6	1.2	1.3	1.1
合計	1432	285.8	272.5	215.9

Q17 今年度になり大学内で新しい友人はできましたか？（複数回答可）

	選択数	2022年度	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%	選択率%
1.学科(授業)が一緒になった	290	58.5	54.8	51.0
2.出身地が一緒だったことがきっかけで	54	10.9	14.4	14.5
3.クラブ・サークルが一緒になった	95	19.2	22.3	23.1
4.マンション等近所に住んでいる	16	3.2	3.6	3.9
5.バイト先が一緒になった	118	23.8	19.6	21.4
6.もともとの友人の紹介	61	12.3	11.9	14.7
7.LINEでつながる友人ができた	35	7.1	7.3	9.6
8.できていない	121	24.4	27.1	7.6
その他	5	1.0	1.3	0.7
合計	790	157.7	162.4	146.3

Q18 今も交流がある徳島文理大学生以外の友人はいますか？(複数回答可)

	選択数	2022年度	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%	選択率%
1.中・高時代の友人と今も交流がある	439	92.2	84.7	82.5
2.文理大学以外のクラブ・サークルで友人がいる	42	8.8	8.7	10.0
3.趣味の集まりでできた友人がいる	71	14.9	15.8	16.6
4.マンション等近所に住んでいることがきっかけでできた友人がいる	11	2.3	1.5	1.9
5.バイト先が一緒になったことがきっかけでできた友人がいる	156	32.8	26.6	25.1
6.会う前にSNS等インターネットがきっかけでできた友人がいる(対面したことあり)	63	13.2	10.5	8.6
7.会ったことはないがSNS等インターネットでつながる友人がいる(対面したことなし)	62	13.0	13.3	11.3
8.宗教等の勧誘でできた友人がいる	0	0.0	0.0	0.3
9.いない	25	5.0	7.9	1.7
その他	2	0.4	0.7	0.8
合計	871	173.9	169.8	158.7

Q19 何か不安なことはありますか？(複数回答可)

	選択数	2022年度	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%	選択率%
1.一日中誰とも話をしない日があり、不安・不満が溜まっている	21	4.2	5.3	8.0
2.起きられるのかなど生活習慣の乱れが心配だ	174	35.1	33.7	34.1
3.コロナ不況で、親からの仕送りが減りそうで不安だ	16	3.2	2.7	3.6
4.バイトをやろうと思っても、選択肢や募集自体が少ない	45	9.1	12.5	15.5
5.大学を続けられるかどうか不安だ	28	5.6	7.6	6.1
6.楽しい大学生活を過ごせるか心配だ	64	12.9	18.1	22.4
7.夜色々と考えて眠れなくなる	84	16.9	19.5	15.4
8.就職活動が不安だ	184	37.1	39.8	1.9
9.特にない	156	31.5	27.6	38.5
その他	5	1.0	3.2	1.7
合計	777	155.1	170.0	147.3

Q20 コロナ感染関連の不安・ストレスはありますか？(複数回答可)

	選択数	2022年度	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%	選択率%
1.スーパー等買い物に出ても、コロナに感染しないか心配だ	66	13.6	11.2	24.4
2.大学構内まで行けても、教室内は密の様な気がして不安だ	50	10.3	14.6	23.9
3.少し咳が出ても、ちょっと体がだるくてもコロナではないかと不安になる	99	20.5	18.5	25.0
4.PCR検査を受けてみたいが費用が掛かり過ぎてできないので不安だ	28	5.8	6.5	7.6
5.抗体検査程度は受けておきたいが費用の面でできないので不安だ	23	4.8	5.3	6.8
6.自分の部屋以外、ドアノブ等に素手で触れなくなった	5	1.0	2.4	3.9
7.特にない	298	61.6	60.7	43.0
その他	13	2.6	2.9	3.9
合計	582	116.2	122.2	138.4



Q21 ストレスを抱えて体調はいかがですか？（複数回答可）

	選択数	2022年度	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%	選択率%
1.頭痛や腹痛食欲不振がある	82	16.7	20.2	13.8
2.教科書や本を読み通す気力がない	74	15.1	16.0	12.6
3.将来の事を考えると動悸が激しくなる	48	9.8	10.9	10.5
4.寝起きなど規則正しくできなくなってきた	111	22.6	24.1	20.2
5.何も考えていないのになぜか涙が	39	7.9	9.1	7.2
6.以前は無かったが、気づくとぼんやり	83	16.9	19.2	17.1
7.体調不良はない	281	57.2	51.8	53.8
その他	7	1.4	1.0	1.5
合計	725	144.7	152.3	136.7

Q22 コロナの感染がないときと比べ、あなたのストレスの度合いはどの程度ですか？

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.とてもストレスや不安を感じている	52	10.4	15.7	19.1
2.少しストレスや不安を感じている	193	38.5	37.6	41.4
3.どちらともいえない	152	30.3	28.5	22.2
4.あまりストレスや不安を感じていない	60	12.0	11.1	9.2
5.ストレスや不安を全く感じていない	42	8.4	6.9	6.9
その他	1	0.2	0.3	1.2
無回答	1	0.2	0.3	1.2
合計	501	100.0	100.0	100.0

Q23 生活面で不安を感じた時や困ったときに、あなたはどのような行動を取っていますか？

	人数	2022年度	2021年度	2020年度
		構成割合%	構成割合%	構成割合%
1.誰かに相談する	237	47.3	44.3	42.1
2.テレビのニュースや新聞で情報収集をする	0	0.0	2.4	3.7
3.インターネットで情報収集をする	88	17.6	16.7	17.4
4.場面によって使い分けている	126	25.1	25.0	21.8
5.何もしない	44	8.8	10.5	13.4
その他	5	1.0	0.7	0.9
無回答	1	0.2	0.4	0.7
合計	501	100.0	100.0	100.0

Q24 生活面で不安を感じた時や困ったときに、相談（話し）相手になってくれる人は誰ですか？（複数回答可）

	選択数	2022年度	2021年度	2020年度
		選択率%	選択率%	選択率%
1.家族親戚	362	73.1	72.1	71.6
2.大学の友人	337	68.1	61.4	64.4
3.大学以外の友人	259	52.3	48.1	44.6
4.大学の先生	54	10.9	11.5	11.4
5.大学の相談窓口	7	1.4	1.0	1.3
6.カウンセリング等の専門家	11	2.2	3.4	2.1
7.相談相手はいない	23	4.6	6.9	6.9
その他	13	2.6	1.4	1.9
合計	1066	212.8	205.8	204.2

Q25 誰かに相談する場合、どのような方法で連絡を取りますか？

	人数	2022年度 構成割合%	2021年度 構成割合%	2020年度 構成割合%
1.直接会っている	175	34.9	33.8	31.2
2.電話など「声」が中心	142	28.3	23.4	27.0
3.SNSやLINEなど「文字やチャット等」が中心	68	13.6	16.8	17.3
4.ZOOMなど「顔が見えるシステム」を活用	3	0.6	0.7	0.7
5.場面によって使い分けしている	90	18.0	18.2	16.3
6.相談しない	22	4.4	6.2	6.5
無回答	1	0.2	0.8	1.1
合計	501	100.0	100.0	100.0

Q26 本学保健センターには、心身の健康をサポートする相談日  
(臨床心理士によるカウンセリングや校医による健康相談)があることを知っていますか？

	人数	2022年度 構成割合%	2021年度 構成割合%	2020年度 構成割合%
1.知っていて利用したことがある	27	5.4	5.8	4.2
2.知っているが利用したことはない	265	52.9	56.2	45.4
3.知らなかった	209	41.7	37.6	49.4
無回答	0	0.0	0.4	0.9
合計	501	100.0	100.0	100.0

Q27 生活面で不安を感じた時や困ったときの大学におけるサポート体制として、  
強化してほしいものはありますか？(複数回答可)

	選択数	2022年度 選択率%	2021年度 選択率%	2020年度 選択率%
1.専門家へ相談できる窓口	86	17.3	20.3	30.3
2.学生支援課からのサポート	109	21.9	23.7	39.2
3.大学教員からのサポート	106	21.3	25.1	39.8
4.学内外で相談できる窓口の情報	72	14.5	14.7	21.4
5.特になし	272	54.6	48.2	
その他	2	0.4	1.1	0.8
合計	647	129.1	133.2	131.5

V 総括

昨年度に続き、今年度もコロナ禍における学生生活に関するアンケート調査を実施し、昨年度と今年度の比較ができるようにまとめました。また、学部全体の回答率が42%を前年度より減少しましたが、コロナ禍の学生生活を理解し、今後の学生指導・支援に役立てることができると期待しております。

本年度のアンケートへのご協力に委員会一同より各学部の先生方、学生の皆様に深く御礼を申し上げます。

## 令和4年度 人間生活学部広報担当委員会活動報告

広報担当委員会委員長  
定國 雅洋

### 1. はじめに

人間生活学部広報担当委員会は、学部6学科から各1・2名の委員により構成され、入試広報部との連携のもと、大学案内やウェブページの更新、各種の広報活動を行っている。令和4年度はメール等での情報交換及び委員会を1回開催し、情報共有を行った。

### 2. 2022年度 第1回人間生活学部広報担当委員会

日時：令和4年12月14日（水）16時20分～17時10分

場所：9号館5階研究室

#### 議題：

##### 1. 広報活動

主に学科ごとのちらしやウェブページ更新等について話し合われた。

ちらしやウェブページについては、学科毎にそれぞれ独自の工夫がなされていることが共有された。一方、大学・学部としての統一感のあるデザイン、チラシの設置場所や更新の頻度等についても検討の余地があるのではないかという意見も出された。

会議の直前に大学ウェブサイトの完全リニューアルの連絡があったこともあり、引き続き情報収集・共有に努めることを確認し合った。

##### 2. その他

委員長より本学部大学院（人間生活学部研究科）の情報に関して、「博士学位論文」および「博士論文の内容の要旨および博士論文審査の結果の要旨」は公開義務があり、今年度も博士論文がホームページ上に掲載されていることが、来年度の委員長への引継ぎ事項として報告された。

3. 各学科のホームページ投稿実績、新聞・テレビ・雑誌等各種メディアでの掲載・紹介実績、その他各学科独自広報活動（純粋な学外実習や社旗貢献活動とは別）について

#### 【人間生活学科】

○ ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数（2022.4～2023.3末時点）

学科の特徴と魅力：学科情報（学費、insta紹介）2，教員採用・就職：4，授業紹介：5 計11件

○ その他学科独自の広報活動

- ・ 学科紹介チラシを作成し、オープンキャンパスやブロック別進学説明会、各種イベントで配布した。

- ・ ブロック別進学説明会に参加する高校出身者が在籍している場合は、学生の現状を個別に知らせるチラシを作成し、出身校の先生に配布した。
- ・ 編入学生用チラシを作成し、編入学募集要項に同封して郵送した。
- ・ instagram の更新を約 30 回行い、フォロワー数を約 300 名へ増やした。
- ・ 人間生活学科オリジナル T シャツ及びクリアファイルの作成を行い、オープンキャンパス等でスタッフが着用したり、資料配布に使用したり、ロゴマークを活用して学科イメージを周知している。
- ・ 令和 5 年 2 月 13 日 徳島県立小松島西高等学校へ寺奥先生と家庭科教員を目指す学生（3 年生）が訪問し、参加体験型の出前授業を行った。

### 【食物栄養学科】

- ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数  
学科からのお知らせ：6 学科の特徴と魅力：5 入学式：1  
オープンキャンパス：7 計 19 件
- その他学科独自の広報活動
  - ・ 学科の特徴と魅力をまとめた A4 チラシを更新した。学科の学び・施設の魅力・資格取得・就職などを伝えるため、高校訪問などの広報に活用した。
  - ・ HACCP 対応の調理室（14 号館）の魅力を伝えるため、A4 チラシをオープンキャンパスなどの広報に活用した。
  - ・ 令和 4 年度に実施した給食経営管理実習の実習内容や、6 つの献立、学生が作成したチラシなどを公開し、学科の特徴や魅力を伝えた。今年度は、ホームページにて、6 つの献立からお気に入りのものを投票してもらい、結果を公表した。
  - ・ 全国健康保険協会 徳島支部との共同企画により、「健康レシピ」として 4 年生 2 名が考案した「もち麦入りかぼちゃドリア」が徳島支部のホームページに掲載された。
  - ・ 令和 4 年度も、「もちっとむぎゆとの会」中心に、牟岐町産もち麦を使用した食物繊維豊富でヘルシーなお弁当作りを地方企業と協力してメニュー開発から販売まで一貫して行い、もち麦の PR 活動を勢力的に行った。

### 【児童学科】

- ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数
  - ・ 「公立小学校・幼稚園教諭・保育士採用試験合格者数」速報をその都度更新（1）
  - ・ 学科情報（行事等）（5） ・ 入学式（1） ・ 卒業式（1） ・ 交流活動（2）
  - ・ オープンキャンパス（3）
 計 13 件
- その他、学科独自の広報活動
  - ・ 児童学科だよりの作成（月 1 回発行）
  - ・ 児童学科の特徴と魅力を伝えるチラシを作成（A4 版カラー両面）
  - ・ 児童学科の先輩からのビデオメッセージをオープンキャンパス時に公開。

- ・ 児童学科独自に各種グッズを作成し、オープンキャンパス参加回数に応じて高校生に配布。
- ・ 児童学科オリジナルデザインのキーホルダー、クリアフォルダー等を作成しオープンキャンパスや高校訪問等で配布。
- ・ 県内の高等学校への児童学科だよりとチラシの配布。
- ・ 県内高等学校への訪問

#### 【メディアデザイン学科】

- ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数  
入学式：1 新入生歓迎会：1 特色ある教育・研究：5 オープンキャンパス：5 他計13件
- その他学科独自の広報活動
  - ・ 学科の特徴と魅力をまとめたA4チラシを作成し、オープンキャンパスでの配布や高校訪問などの広報に活用した。
  - ・ 学科 twitter アカウントを開設し、令和4年4月2日から令和4年12月23日までの間、66 ツイートを公表した。
  - ・ 令和4年7月6日 徳島県からの協力依頼のもと、インターネット上の人権侵害を防ぐためにネット上の掲示板等に差別的なコメントがあれば、削除依頼を行うネットモニタリングを行いました。始めに徳島県の担当者によるモニタリング講習を受講し、その後、各自ネットモニタリングを行いました。
  - ・ 令和4年7月12日 本学と徳島県警察との連携事業である「徳島県警察ネットウォッチャー」の委嘱式が行われた。
  - ・ 令和4年8月23日～26日 情報メディア論（前期集中講義）に参加した受講生がコミュニティFMラジオやケーブルテレビ番組の企画・制作について学んだ他、実際にラジオ番組（5分間）を制作しました。
  - ・ 令和4年10月25日 情報メディア論（前期集中講義）にて受講生チームが課題として作成したラジオ番組が、エフエムびざん（BFM791）「B-STEP TALKING」で紹介された。この際、山城講師と学生3名がライブ出演した。
  - ・ 令和4年11月15日 本学と徳島県警察との連携事業である「徳島県情報発信ウォッチャー」の委嘱式が行われた。

#### 【建築デザイン学科】

- ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数  
学科独自の就活セミナー開催について2、学内行事の紹介3、学外行事の紹介4  
オープンキャンパス1、学科ニュース1、ゼミの紹介2  
計13件
- その他学科独自の広報活動
  - ・ 建築士事務所協会主催の「建築はおもしろい」研究発表会や徳島ビジネスチャレンジメッセに参加するなど、学外で積極的に学科の活動を紹介するイベントに参加した。
  - ・ 小学生を対象にしたサイエンスラボでは、学生自身により小学生と父兄にデザインの

面白さを伝える取り組みを行い、すぐに定員がいっぱいになるほど人気を博した。

- ・学生の在学中の国家資格取得支援として、宅地建物取引士セミナーに関する取り組みを行っていることを、オープンキャンパス、高校生の訪問等を利用して広報活動を行った。また、オープンキャンパス等の説明会においてもパワーポイント等により具体的な取り組み等についても積極的に広報活動を行った。
- ・将来の建築士資格取得にむけての支援として、夏季2級建築士対策セミナー実施についての具体的な広報活動をオープンキャンパス等を通じて参加者に対して行った。
  - その他
- ・オープンキャンパス等では、高校生やその保護者からの質問に対して、学生自身が直接回答できる機会を設けて、話しやすさかもあつてか、有意義な時間を作れた。

### 【心理学科】

- ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数  
学科からのお知らせ：0、学科の特徴と魅力：0、オープンキャンパス：0
- その他学科独自の広報活動
  - ・学科の特徴と魅力をまとめたA4チラシ4種類を更新中。
  - ・各種広報の場において「社会人の学び直し」をPRし、社会人の入学を促している。
  - ・公認心理師認定協会が発行する冊子「公認心理師になるための大学案内」に当学科の紹介が掲載されたことを活用し、各種広報の場で本冊子を用いて、公認心理師及び臨床心理士の合格実績をPRしている。

## I 委員会の目的

教育実習等に関する資質や指導技術を確かなものするための具体的な方策を検討する。また、教員養成に関する資質や指導技術を確かなものとするための具体的な方策を検討する。

## II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。

2. 令和4年度委員

奥寺敦子（人間生活学科）、松本萬寿美（食物栄養学科）、◎三橋謙一郎（児童学科）、山城新吾（メディアデザイン学科）、川村恭平（建築デザイン学科）、○貴志知恵子（心理学科）

〔◎印：委員長、○印：副委員長〕【敬称略】

## III 委員会開催期日等

1. 第1回教員養成推進委員会

日時：令和4年 6月8日（水）16：20～17：00

場所：9号館10階（研究室⑥）

出席者：寺奥、三橋（司会）、山城・貴志（記録）【敬称略】

2. 第2回教員養成推進委員会

日時：令和4年11月22日（火）15：30～16：20

場所：9号館10階（研究室⑥）

出席者：寺奥、松本、三橋（司会）、川村、山城・貴志（記録）【敬称略】

## IV 委員会の活動内容

本年度は、本学の「教務部教務課」「教務部教育研究支援課」「全学共通教育センター」および「教員養成対策委員会」等と連携を取りながら、本学の学生の教員としての資質能力の向上を目指す教育実習・保育実習のあり方、保育・教職実践演習（幼・小）、教職履修カルテに対する取り組み、教育実習・保育実習の最終評価のあり方、保育・教員採用試験対策に焦点を絞り、年2回にわたる本委員会での話し合いを通して、以下のような内容で、検討を行ってきた。

- (1) 教育実習・保育実習のあり方：①県内の実習訪問（直接に訪問する）に際し、実習前の挨拶の電話と実習後のお礼の電話ができていのかどうか、必ず実習期間内に先生方の実習訪問ができていのかどうか（できれば、その際、学生の評価授業の参観もお願いする。）②実習訪問時に、大学側が実習校側と学生の指導に結びつく話し合いができていのかどうか、③県外の実習訪問（直接に訪問はしない）に際し、実習前の挨拶の電話と実習後のお礼の電話ができていのかどうか、【一般に2週間の実習が多いけれど、4週間の実習の場合は、2週間の実習終了の頃、実習校へお礼の電話とあと2週間お世話になることの挨拶の電話をすること。県外の実習訪問は、実習校側との指導に結びつく詳細な話し合いは難しいけれども、最低限の指導に結びつきやすい話し合いを

することが望ましい。】④県内の実習訪問に際し、適切な報告書が提出されているかどうか。【直接に訪問しない県外の実習訪問に際しても、簡単な報告書を提出すること】この4点を念頭に踏まえ、規律面を中心にした指導を周知徹底していくことで合意した。

- (2) 保育・教職実践演習(幼・小)、教職履修カルテへの取り組み：課題として、①学習ポートフォリオとの重複が多い、②記入ができていないかどうかのチェック負担が重い、③担任が確認するか、チューターが確認するかが明確でない学科がある、④学生による記入が進んでいない。特に、1・2年生で記入ができていないケースが散見される等が挙げられた。①については、教務部に相談し、ボランティア活動などの教職キャリアに関する記述は1本化していく、②について、食物栄養学科のように一人しかいない教職担当の負担軽減のために担任も分担する。また、心理学科はチューターでないとカルテが閲覧できない(指導担当が閲覧できない)場合がある。そこで、チューターに指導担当も加え、複数制にしている。このような他学科の工夫した取り組みも参考にしてみることで合意した。③については、各学科で担当をはっきりさせることで合意した。④については、早い時期から、学科所属のすべての先生方に協力してもらい、積極的に学生への声掛けをするなどの取り組みを行うことで合意した。
- (3) 教育実習・保育実習の最終評価：実習の最終の評価点を実習校にゆだねるか、大学側が決めるか、という二者択一の選択が課題とされた。本学は前者であり、合格ラインでの評価点が不十分な場合や大学での成績優秀な学生が実習ではきわめて低い評価点をつけられている場合など客観的な評価とは思えない場合に限り、大学側と実習校側とが話し合いをして、適切な評価点を見出す。(鳴門教育大学、四国大学では、実習校側の評価点を参考にしながら、実習の最終の評価点は、大学側で決めている。)
- (4) 教員採用試験対策：全学共通教育センター実施の講座への参加を中心としている学科と全学共通教育センター実施への参加と併行して、学科独自の対策講座を企画し、指導を行っている学科が見られる。今年度の各学科の取り組み内容は次の通りである。
- 1) 人間生活学科：学科としての対策講座を実施している。中・高の家庭科の受験生に対しては、個別に対応している。全学共通教育センターの講座は、内容次第で受講させている。
  - 2) 食物栄養学科：専門で栄養講座を受講させている。管理栄養士の国家試験が中心だが、栄養教諭・試験対策に特化した指導は週1回実施している。
  - 3) 児童学科：学科独自に3年後期に対策講座(学力)、4年後期に直前講座(学力・面接)を実施している。また同時に、全学共通教育センターの講座も受講させている。
  - 4) 心理学科：学科で週1、2回の対策講座を実施している。また同時に、全学共通教育センターの講座も受講させている。
- このような取り組みは、今後も学科の独自性を踏まえ、発展的に取り組んでいくことが求められる。

但し、教員採用試験対策を検討していく際には、この取り組みを教員としての資質・能力(教職に対する情熱、教育の専門家としての力量、総合的な人間力など)の向上に結びつけるような工夫も必要と思われる。



## 令和4年度 人間生活学部就職支援委員会報告

就職支援委員会委員長

竹内 理恵

1. 開催日時 令和4年6月24日（金）午後3時から4時30分
2. 会場 徳島キャンパス学園長室
3. 出席者 委員長・田村学長、薬学・張、総合政策・齋藤、音楽・熊谷、保健福祉・木野、香川薬学・石田、短大・川道、総務・益田、入試広報・山村、香川就職支援・横山、徳島就職支援・松山、事務局・司会・福井、井内、安藝、山中、中原、正村、人間生活・竹内（敬称略）

当学部・学科での取り組みの現状と課題等について、次のとおり報告した。

### 1 人間生活学科

これまで、人間生活学科では養護教諭や家庭科教員を目指す学生が多かったので、教員採用試験に向けて全学共通教育センターのご協力や学科内の教員が継続的に支援してきた。しかし、最近ほどの県も教員の採用人数が減っており一般企業への就職を余儀なくされる学生もいる。そこで、一般企業や公務員に就職を希望する学生並びに教員を目指す学生への支援を次のように実施した。

- ①1年次：入学時より担任との面談を通して、取得できる資格や教員免許について説明するとともに、基礎学力向上のために全学共通教育センターのe-learningの受講を促した。資格等の取得のための履修指導。
- ②2年次：就職支援部による進路説明、学科教員による就職サイト・インターンシップ登録方法の説明、担任との面談を通して進路の決定に向けての履修指導。
- ③3年次：就職支援部による進路説明、学科教員による就職サイト・インターンシップ登録方法の説明、これにより就職を希望する3年生10名が企業インターンシップに参加した。担任との面談により進路に関する最終確認をし、早い時期から本格的に就職活動を行うように指導した。
- ④全体：就職活動報告会を12/2（金）に実施した。4年生の一般企業の就職内定や教員に採用内定している学生の併せて6名が具体的に行ってきたことを発表し、1～3年生が参加し熱心に聞いていた。

このような支援により、4年生は希望する企業に就職を果たす学生が出てきた。しかし、なかなか就職の決まらない学生がおり、継続的に支援することが必要である。学科としては一般企業や公務員を目指す学生への支援をさらに充実させることが課題と考えている。

また、入学当初は、就職は先のことと考える学生が多いが、就職については入学後の早い段階から考えることが重要である。そのために大学4年間を見通した計画的な支援の位置づけを、今後も検討し取り組んでいきたい。

## 2 食物栄養学科

- ・食物栄養学科では、就職支援部と連携し、就職支援を初学年から継続して行っている。
- ・現状、4年生で就職先を決めている学生は6割程度で、おもな内定先は、給食委託業者やドラッグストアである。家庭科教諭には2名の正規採用が決まっている。
- ・病院、介護施設、保育園といった学生が希望する施設の管理栄養士の求人は不定期であるため12月時点で就職活動を継続している学生もいる。食物栄養学科では、早めに内定が出る給食委託会社やドラッグストアを受け、各人の希望に合わせて施設付きの管理栄養士を受けるとするのがスタンダードな就職活動スケジュールである。
- ・3年生に関しては、給食委託業者や食品会社がすでにインターンシップを開始するなど去年よりも採用が早期化している。学生も積極的に企業説明会やインターンシップに参加している。また、3年後期終了後から臨地実習が開始され、職業観や将来像を深める貴重な機会となっている。この臨地実習の引継ぎ会(11月)には2年生も出席し、日頃の学修が現場で必要とされていることを知る機会になっている。引継ぎ会に参加することによって卒業後、現場で必要とされる知識・技術を再認識してもらっている。
- ・1年生に関しては、就職支援部による文理学での講義のほか、学科の取り組みとして前期に卒業生による職業紹介を開催し、入学後の早い段階から就職について考える機会を提供している。
- ・課題として、管理栄養士としての就職を希望しない学生に対して、学生がより主体的に就職活動を実施する必要がある。そのため、国家試験対策との両立が難しくなることが挙げられる。

## 3 児童学科

### (1) 取り組みの現状

児童学科教員が一丸となり、独自の対策講座を継続的に開講している。学生は、2年生の後期から4年生の採用試験まで継続的に受講できる流れとなっている。ここ数年、先輩の勉強方法や、志などを後輩に引き継ぐことが児童学科の伝統となっている。また、個別、グループ別、県別や校種別に全学共通教育センターと密に連携し、学生のニーズに合った面接、模擬授業、実技指導などのきめ細かい指導を長期的に実施している。それは、学生の教員や保育士になりたいとの熱い思いにこたえての事である。教職以外の進路や私立の教育機関への就職希望者についても就職支援と連携しながら個別にチューターが相談や面接、エントリーシートの点検なども行っている。

その結果、今年は過去最高の教職に関する合格率を果たした。現役公立小学校教員合格者のべ24名(実質20名)、(徳島、高知、愛媛、福岡、和歌山、鳥取)現役幼稚園教諭・保育士合格者のべ6名(4名)、(徳島、香川、高知)であった。

まだ1月から2月にかけての二次募集がある自治体もあるので合格者を期待できる。

小学校臨時教員13名、私立幼稚園・保育所・子ども園13名、大学院2名、その他、現在公務員の二次募集を受審しているものもいる。

例年、進路変更により一般企業や公務員を志望する学生もやや増えていたが今年は

企業への就職は数少ない。日頃から教育職の魅力が各教員が伝えていることと子どもに関わる仕事に魅力を感じてボランティアやアルバイトをすでに行い教職の魅力を感じていることも功を奏したのかもしれない。

## (2) 課題

公立小学校教員採用試験の一次合格率は約 80%であったが、最終合格は 61%とかなり下がった。模擬授業などの実践的なスキルや自己表現を伴う表現のスキルや人間性を高める必要がある。また、幼稚園・保育士の一次合格者は 65%で最終合格は 46%であり、一次試験の専門や一般教養などの対策を計画的にしっかりと講じる必要がある。

また、今後、新規教員等採用数が減る可能性もあると考えられるので、私立での就職も含めて、入学当初、一年時からインターンとして現場で経験できるキャリア教育を講じる必要があると考える。

## 4 メディアデザイン学科

各ゼミで指導するとともに、就職支援部にもご支援頂き、内定獲得に向け取り組んだ。また、就職活動を終えた学生有志が発起人となり、Google Classroomで「先輩による就活相談室」を開設し、1年生～3年生から質問を受け、就職活動を終えた4年生が回答する形で実施した。なお、就職活動に消極的な学生への対策が今後の課題である。

## 5 建築デザイン学科

### (1) 取り組み

◇現4年生対象（在籍数47名→のうち2名留学中）

令和3年度から引き続き「学科独自の就活セミナー」と称して、計6回（24社）実施し、学生への就職支援を行った。

内定状況は、大手ゼネコンに4名、大手住宅メーカー3名、そして各地元（学生の出身地）大手企業にもほぼ希望通り内定した。また設計事務所へも3名更には公務員として市役所（姫路）も1名内定している。

以上、その他学生3名（韓国留学中の1名と、他の2名は就職を拒んでいる）を除き内定した。

◇現3年生対象（在籍数53名→のうち2名休学中）

今年度も、例年同様に「学科独自の就職支援セミナー」の成果がみられるので、この1月18日を最後に計8回34社のセミナーを開催し就職支援を行っております。

3年生の年頭4月～6月には就職に伴う個人面談を実施し、希望職や未だ職種の不明な学生に対しては学科で作製した就職（職種）案内と合わせて関係企業の紹介を行っている。

また、併せてインターンシップの推進を常々図り現在65件（企業）実施している。

#### ◇「学科独自の就活セミナー」

四国 4 県を中心に、兵庫県+中国（広島・岡山県）に亘り建設会社、設計事務所、住宅会社、また材料メーカーなどなど、各職種バランスを考えながら開催している。なお、都度ある大学のセミナーへの出席も声掛けを実施している。

#### (2) 課題

- ①セミナー開催の日時が、学生の時間割の関係上、制約され1回の開催に4社程度しか紹介でない。
- ②指導するに真剣さの欠ける学生がいる。
- ③アルバイトとバッティングで、セミナーの欠席があるのが残念。

## 6 心理学科

### (1) 取組の現状

#### ① クラスルームを活用した求人情報の提供

ア 卒業生等から得られた求人情報を学年のクラスルーム（主に就職活動中の4年生）にアップし、当該学年の学生に周知している。

イ 教員に送付された求人及び同セミナーに関するフライヤー等を学年のクラスルームにアップし、希望者に配布している。

#### ② 就職試験等への準備を踏まえた授業の実施

ア 授業（3年生後期の心理学特講）において、心理職が働く職場の紹介及び小論文への対応についての講義等を行い、就職への意識向上を図っている。

イ 授業（3年生の教育相談、4年生のライフサイクル論等）において、就職支援部の担当者を招いて共同で講義し、「大卒時の就職で人生が決まる」と思い込んで身動きがとれなくなるというパターンを変えるように働きかけている。

#### ③ 模擬面接試験の実施

要望のあった学生に対し、以前の職場で職員の採用に携わった経験のある教員が模擬面接を実施している。

#### ④ インターンシップへの参加奨励

司法・犯罪分野に志向のある学生に対して、法務省のインターンシップに係るアナウンスをしている。本年度は、学部3年生12名、大学院1年生3名計15名の応募があり、少年鑑別所または少年院でのインターンシップに参加した。

### (2) 課題等

3年生のより早期から就職活動への意欲を高めることが必要であり、来期のカリキュラム編成に当たり、心理学特講を前期に移すことを教務課に要望している。

## 第2章 各学科スタンダード

### 第1節 人間生活学科

人間生活学科は、人の相互理解のもとに築く心豊かな生活と健やかで快適な生活環境の構築を求めて知識を深めるとともに、環境との共存を図りながら自己に適したライフスタイルを創造する能力と実践力を身につけ、豊かな教養とグローバルな思考力を持つ教員・社会人の育成を教育目標としている。

教育内容は「生活経営学」「食物学」「被服学」「住居学」「保育・保健・養護学」の各分野から構成され、それぞれ、総論から各論へ、基礎から専門へと学びを深めていく。授業形態は講義、実験、実習、ゼミナールからなり、アクティブラーニングの手法を取り入れるなど多様な手法で展開されている。

また、令和2年度入学生から新カリキュラムをスタートさせ、家政学の学問領域と将来の進路を融合させた教育内容から構成される3つのフィールド（教員養成、ビジネスキャリア、コミュニティデザイン）を設定した。

本学科で取得できる教員免許は、家庭科および保健科の中学校教諭一種・高等学校教諭一種と養護教諭一種に加え、フードスペシャリスト、医療秘書、社会福祉主事任用資格などである。新カリキュラム開始に伴い二級建築士、上級情報処理士、福祉住環境コーディネーター、防災士などの資格が新たに加わった。どの免許・資格も現代社会においては非常に重要な役割をはたす資格であり、学生の興味・関心・適性に応じた個別指導を行う事により、自己の専門性を確立させ、自立した生活者としての幅広い知識と応用可能なスキルを習得させることを目指している。

令和2年度からの新カリキュラム開始に伴い、他学科との連携が強化され、人間生活学科の教育内容はさらに深化したと言える。来る「人生100年時代における生活の質向上」を視座に据え、従来の教育内容に加え「環境」「健康」「福祉」「国際」そして「防災」の領域から生活研究を多面的に追究する学科として歩み続けたい。

- (1) 家庭科及び保健科の中学校一種・高等学校一種、養護教諭一種の教員免許を取得し、社会の変化に柔軟に対応でき、豊かな教養と包容力を持つ教員の養成を目指す。
- (2) 医療秘書・フードスペシャリスト・消費生活アドバイザーなどの資格や知識、及び他学科の講義を受講・受験することで取得可能となる二級建築士や上級情報処理士などの資格と知識を、ビジネス社会において主体的に役立たせる意欲を持つ学生の育成を目指す。
- (3) 地域の課題解決に興味・関心・意欲を持ち、フィールドワーク等を通じて積極的に関わることによって得られた知見を社会において実践し、地域社会へ貢献する気概を持つ学生の育成を目指す。
- (4) 大学院や専攻科への進学を希望する学生への十分な学術研究能力と教育実践力の養成を行う。

## 第2節 食物栄養学科

管理栄養士は栄養を通して「ヒトの健康」を維持管理するプロフェッショナルである。そのために、本学科では栄養や保健・衛生に関する高度な学識と技術をもつとともに、「人間栄養学」を実践できる人間味溢れる管理栄養士を養成する。すなわち、チーム医療の一員として傷病者の健康回復を栄養面からサポートできるプロフェッショナル、地域保健の担い手として地域住民の健康増進と疾病予防のために役立つプロフェッショナルを育成する。また、栄養を通じて「ヒトの健康」を増進するため小学校・中学校において食育を担当する栄養教諭、中学校・高等学校において生きる力を教育する家庭科教員を育成する。いずれにおいても、栄養アセスメントを基盤としたマネージメント・サイクルに適応できるプロフェッショナルでなければならない。

この目的のため、四年間を通して、栄養学を意識した「人体の構造と機能」や「ヒトの健康と疾患」、つまり解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶ。これらに加えて、低学年で食品学や食品加工学、食品衛生学、給食管理、調理学について学び、高学年で個人及び集団に対する栄養教育・指導を行うために、公衆栄養学や栄養教育論を学ぶ。さらに、HACCP 対応給食実習室での給食経営管理実習により実践力を身につける。学内での実験・実習に加えて、三・四年次には、四週間、総計 180 時間におよぶ病院での臨床栄養学臨地実習、保健所での公衆栄養学臨地実習、給食施設での給食の運営臨地実習・給食経営管理臨地実習により実際に管理栄養士が活躍する現場を経験し理解を深める。

社会に出て管理栄養士として活躍するためには、厚生労働省が実施する管理栄養士国家試験に合格し、管理栄養士免許を取得しなければならない。そのために、国家試験に合格できる学力をつけることを教育目標とする。国家試験対策として、①模擬試験の実施とその結果分析、そして事後指導（PDCA サイクルの強化）を行うためにゼミナール形式の少人数指導を行う。②演習科目により講義内容の理解をさらに深める。さらに、③自習室を積極的に利用して学生同士で教え合う環境を整備する。一方、研究職や大学教員を目指す学生の育成にも努め、研究能力涵養のために卒業研究において研究能力の基礎を教育・指導する。さらに大学院人間生活学研究科・博士前期課程・食物学専攻および博士後期課程・人間生活学専攻において、より深い研究能力を修得させる。また、リカレント教育の一環として教員経験者を社会人大学院生として受け入れ、教員専修免許（家庭科・栄養教諭）取得を目指し教育を行う。

### 第3節 児童学科

今日の教育界においては、「いじめ」「不登校」「体力低下」「児童虐待」「子どもの貧困」等が社会的課題となっている。このような状況の中、児童学科では教育学、心理学、保育学、ICT活用力等の学びから、多様な教育・保育ニーズに理論的、実践的に対応でき、さらに、豊かな感性、コミュニケーション能力を持つ教員・幼稚園教諭・保育士等の養成を目指している。4年前に策定した児童学科のキャッチフレーズ「感（豊かな感性を磨きます）夢（夢を叶えます）温（温かいサポートします）」のもとに全職員が一体となって全力を傾けている。

豊かな感性を育てる授業実践では、アクティブラーニングを主として実践し、表現力やコミュニケーション能力を養い、自己肯定感や達成感を持つことを目指している。さらに、実践力を身に付けるために、各種実習、多様なボランティア活動、地域活動への参加も図っている。また、4年前から採用試験現役合格という学生の夢を叶えるための方策として児童学科独自の「対策講座」、チューターによる「ゼミチーム」、学生の「県別チーム」によって現役合格率が75パーセントまで上がってきた。

現在、教育・保育現場の多忙さや保護者への対応力の必要性が報道されるが、「人財」が将来の社会を支える基盤となることや人を育てるやりがいや喜びを学生に伝えていくことが重要であると考え、この点を踏まえ、以下のような児童学科のスタンダードのもと、人材育成を図っている。

(1) 小学校教諭1種免許取得、中学校英語2種免許取得、幼稚園教諭1種免許取得、保育士資格取得

現在の小学校や幼稚園、認定こども園、保育園での多様な課題に柔軟に対応し、専門的知識と子ども個々の思いや心を大切にしながら豊かな教養とやさしさを持つ「子どものスペシャリスト」としての教員・幼稚園教諭・保育士の育成を目指している。また、こうした資格を生かして、児童福祉施設職員や公務員として社会の変化に柔軟に対応できることも目指している。

(2) 准学校心理士資格、レクリエーション・インストラクター、スポーツ・インストラクター資格の取得

子どもや保護者の心の理解とサポートのために准学校心理士資格を取得し、こころの健康や不登校問題等に貢献できることを目指している。また、子どもの健康と楽しい学び、人間関係づくりやコミュニケーション能力育成のためにレクリエーション・インストラクター資格やスポーツ・インストラクター資格の取得により、小学校・幼稚園・保育園のみならず、地域の活動にも貢献できることを目指している。

(3) 教育実習（小学校・幼稚園）・保育実習・施設実習・介護等体験

多様な実習体験を通して、専門的知識を実践的指導力の向上につなげ、さらに、社会人としての豊かな人間性を身に付けることを目指している。

(4) 各種ボランティア活動への参加、「学びサポートセンターきらり」におけるサポート

地域の多様なボランティア活動に参加することにより、コミュニケーション能力、人間関係づくり、地域貢献へのやりがいを持たせることを目指している。また、学科内にセンターを設置、地域の小学校や幼稚園の子どもたちの学習や生活をサポートする中で、支援

方法のあり方を検証し、指導者として必要とされる資質や能力を身に付けることを目指している。

(5) 今日の課題としての情報教育

「教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）」「情報処理」等の開設および及びICT機器を実践に有効活用できる力を育成することを目指している。



## 第4節 メディアデザイン学科

メディアデザイン学科では、デザイン能力を「問題を解決する能力、新しい価値を創出する能力」と捉え、メディアテクノロジーを活用することで新しいデザインを提案できる人材を育成する。具体的には、現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践を行うことのできる能力を習得することを目的とする。ここで言うメディアテクノロジーとは、映像などのデジタルコンテンツの処理、プログラミング、Web サイト、Web アプリケーションの開発、ネットワークの構築・運営・管理、社会調査データなどの統計分析を指す。

また、当学科では、社会で求められている能力「各個人は、人材市場でどの程度の価値を持ち、通用するのか判断できる」、「人材を求める企業は、人材戦略を明確に立案できるようになる」(IT スキル標準 ITSS)も視野に入れ、次のような資格に裏付けられた人材養成を行う。

- 1) IT 専門職：「IT スキル標準」は知識だけでなく実務能力の評価指標であるため、当学科では知識を主体とした資格取得を目標とする。上級情報処理士<sup>㊦</sup>、プレゼンテーション実務士、Web デザイン実務士資格の取得、IT パスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者高度試験、MOS (Microsoft Office Specialist) 試験の合格を目指す。
- 2) 高等学校教諭：平成 15 年度から始まった高等学校「情報」の授業の教育者として、情報社会における IT やセキュリティ、情報倫理、著作権などを学び、人間性豊かなコミュニケーションができる人材を育成する。
- 3) 社会調査士：社会調査士認定協会の認定が始まった初年度（平成 16 年）から、資格を取得できる体制を整えた。調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析方法の妥当性、問題点の指摘、提言ができる実力を養う。

カリキュラムは、①情報領域、②コンテンツ領域、③データサイエンス領域、④共通領域の 4 領域で構成される。

また、講義の中で業界第一線の知識・技術に触れ、外部講師による専門的な経験談を取り入れ、学生のスキル向上を図るとともに、学士力の向上に努める。

## 第5節 建築デザイン学科

日本の建築における課題は、豪雨、台風、地震や津波などの自然災害が多く、安全で優れた建物をつくる技術の向上がますます求められている。また同時に、エネルギーを浪費せず、環境に負荷をかけず、生活に快適さをもたらす建物の室内環境調整の技術やインテリアデザインも大切であり、合わせて、建物に美しさも期待されることも求められている。さらには、高齢社会をむかえ、誰もがスムーズに使える住宅や公共施設のユニバーサルデザインも要求されている。

従って、建築デザイン学科は建築・インテリアデザインの専門家として、このような多くの課題をかかえる社会に貢献する知識や技術をもった、人間性豊かな人材の育成を、教育のねらいとして位置付けている。

人間生活学部にも属するメリットを生かして、人と生活と環境を大切に、建築の3大要素である「強・用・美」をそなえる、建築・インテリアデザインの実現をめざし、課題を解決できる創造力を持った人材を育成している。

教育は、講義とともに、製図、CAD、模型製作、建築材料実験などの実習・演習を展開し、カリキュラムツリーにしたがって系統的におこなわれている。

建築デザイン学科では、次のようなスタンダード（学習到達水準）を設けて教育にあっている。

1. 専門分野の基本的な知識と考え方を身につける。
2. 自己の考えを的確に表現し、円滑なコミュニケーションができる。
3. 都市や地域の歴史・環境・計画についての基礎知識を持たせる。
4. 建物の室内環境調整についての基礎理論を習得させる。
5. 木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の建物の施工や材料について基礎知識を持たせる。
6. コンピュータについて、建築系の実務に必要な基礎知識と自由に操作することができる能力を持たせる。
7. 建築士に必要な実務的知識と設計製図能力を習得させる。
8. 戸建住宅および小規模建物の基本的な建築計画・設計・施工管理ができる能力を持たせる。
9. 中学・高校の家庭科教員に必要な住生活に関する知識の基礎的事項を習得させる。

## 第6節 心理学科

心理学は人間の心の機能（知・情・意）とその表れである行動についての学問であり、人間行動のあらゆる領域をその対象としている。基礎的な生理的反応や知覚の領域から、カウンセリングや心理療法といった対人支援の領域、また、生産性の向上や組織運営のあり方といった産業領域での活用、地域社会や環境との関わりまで含めたコミュニティ心理学など、非常に幅広い学問である。

ヒトは社会的動物であり、人との関わりの中で人間として成長し、人が作る社会の中で生きていく。心理学は人としての基礎教養であり、また、それぞれの職能領域で「こころの専門家」としての活躍が期待されている学問でもある。心理学科においては、「心理学概論」「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「神経・生理心理学」等の基礎的領域から「健康・医療心理学」「産業・組織心理学」「司法・犯罪心理学」「心理学的支援法」等の応用領域へと、幅広い領域の心理学を段階的に学べるようにカリキュラムが編成されている。また、「心理学実験」や「心理検査実習」「心理療法演習」などの体験・参加型授業によって、知識のみでなく、心理学的技能の習得を図っている。

心理学科は、卒業後の就職および進学に関連して資格取得という点から、3つの特徴ある目標指向プロセス（Goal oriented process）をもっている。これはコース編成というよりもキャリア選択に向けての具体的な指針であるので、余裕のある学生は（1）～（3）の複数の目標をもって大学生生活を送ることができる。

### （1）一般企業、公務員等（標準心理プロセス）

人間関係が希薄になっている現代社会において、心理学を専門として学んできたこと自体が一般企業や公務員として好印象を持たれることは間違いないが、一般企業の会社員や一般公務員として社会の中で種々の役割を担うにあたって、心理学全般の基礎的知識・能力を認定するものとして、「認定心理士」と「心理学検定」がある。所定の科目を履修することで「認定心理士」の資格取得が可能である。また、在学中に「心理学検定」の受験が推奨されており、検定資格の取得を目指すことができる。

### （2）養護教諭一種免許取得（養護心理プロセス）

養護教諭は児童・生徒の心身の健康を担う教諭であるが、心理学科では特に「こころ」の健康に貢献できる養護教諭の養成を目指している。教育現場では、不登校やいじめなど心の問題を抱えた児童・生徒への支援が保健室の大きな役割になっており、身体的な知識に加え、心理学の専門性が必要とされている。

### （3）大学院進学と資格取得（臨床心理プロセス）

心の専門家に関する国家資格への社会的な要請は強く、公認心理師法が成立した。本学科では、スタッフならびに実習先確保等万全の態勢で養成を始めており、大学院修士修了が国家試験・受験資格の要件なので、学部・大学院が揃っている徳島文理大学は国家資格を目指すには非常に良い環境だと言えよう。今後、医療や種々の心理相談機関において心理専門職として認められるためには、公認心理師あるいは臨床心理士の資格取得が望まし

い。臨床心理士については、指定大学院卒業が受験資格とされており、本学大学院は臨床心理士養成第1種指定校である。

### 第3章 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果

<b>2022年度 卒業予定者対象大学生生活満足度アンケート集計結果</b>	大学全体
--	------

性別	男性	女性	在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	1012	
	360	519		92	678	101	8	0		回答数	879
卒業後の の進路	就職	進学	未定	あなたの成績について一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	86.9
	755	39	85				434	353	92		

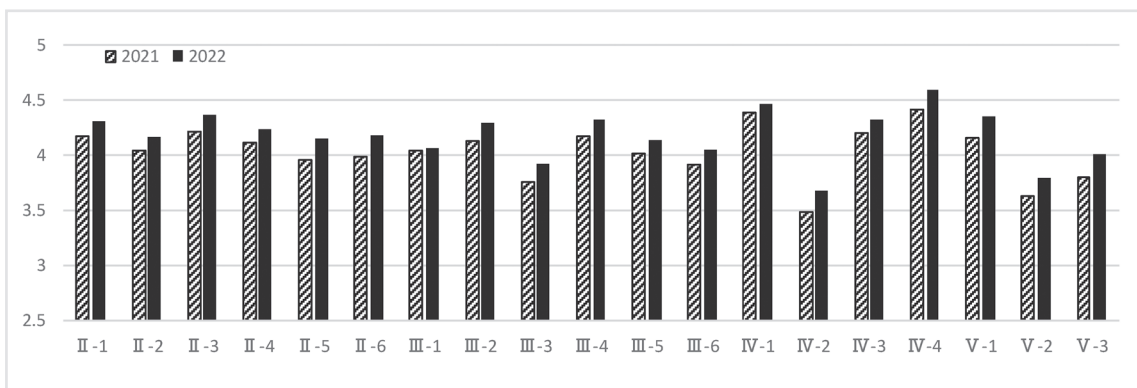
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	414	355	85	21	4	4.31
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	329	409	103	35	3	4.17
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	463	321	59	23	13	4.36
4	教育に対する熱意は感じられましたか	394	351	95	32	7	4.24
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	385	314	119	45	16	4.15
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	382	329	125	33	10	4.18

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	390	278	126	53	32	4.07
2	図書館は利用しやすかったですか	483	231	124	27	14	4.30
3	学内のPCやWiFiサービスは利用しやすかったですか	360	270	111	96	42	3.92
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	445	316	86	26	6	4.33
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	446	242	90	69	32	4.14
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	354	312	144	36	33	4.04

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	547	227	79	24	2	4.47
2	課外活動(部活やイベントなど)に満足しましたか	278	230	242	74	55	3.68
3	頼りになる教員に出会えましたか	479	267	88	26	19	4.32
4	よき友と出会えましたか	644	158	46	19	12	4.60

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	476	283	86	22	12	4.35
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	295	269	213	47	55	3.80
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	359	289	149	46	36	4.01

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2022年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果

人間生活学部 人間生活学科

性別	男性	女性	在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	22	
	2	18		0	20	0	0	0	回答数	20	
卒業後の進路	就職	進学	未定	あなたの成績について一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	90.9
	17	1	2	15	5	0					

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	16	4	0	0	0	4.80
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	12	7	1	0	0	4.55
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	15	5	0	0	0	4.75
4	教育に対する熱意は感じられましたか	14	5	1	0	0	4.65
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	12	7	1	0	0	4.55
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	10	10	0	0	0	4.50

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	10	5	4	0	1	4.15
2	図書館は利用しやすかったですか	16	4	0	0	0	4.80
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	10	8	2	0	0	4.40
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	14	6	0	0	0	4.70
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	13	7	0	0	0	4.65
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	12	8	0	0	0	4.60

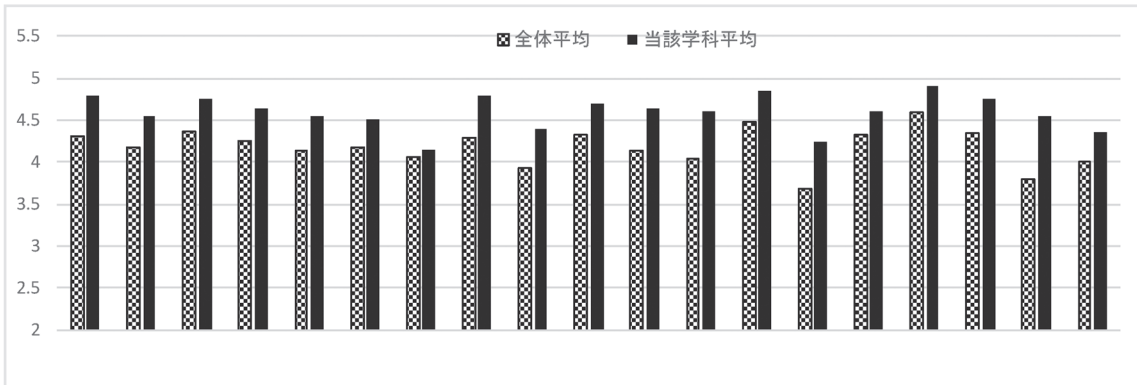
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	17	3	0	0	0	4.85
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	8	9	3	0	0	4.25
3	頼りになる教員に出会えましたか	14	5	0	1	0	4.60
4	よき友と出会えましたか	18	2	0	0	0	4.90

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	15	5	0	0	0	4.75
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	13	6	0	1	0	4.55
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	10	7	3	0	0	4.35

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



<b>2022年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果</b>	人間生活学部 食物栄養学科
--------------------------------------	---------------

性別	男性	女性	在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	74	
	18	56		2	70	1	1	0	回答数	74	
卒業後の進路	就職	進学	未定	あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	100.0
	65	1	8				20	41	13		

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	30	36	8	0	0	4.30
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	20	39	12	3	0	4.03
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	33	31	8	1	1	4.27
4	教育に対する熱意は感じられましたか	25	34	12	3	0	4.09
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	27	31	11	5	0	4.08
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	23	27	20	4	0	3.93

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	28	21	12	10	3	3.82
2	図書館は利用しやすかったですか	41	23	8	2	0	4.39
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	31	22	13	8	0	4.03
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	44	21	8	1	0	4.46
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	40	20	10	4	0	4.30
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	23	28	15	7	1	3.88

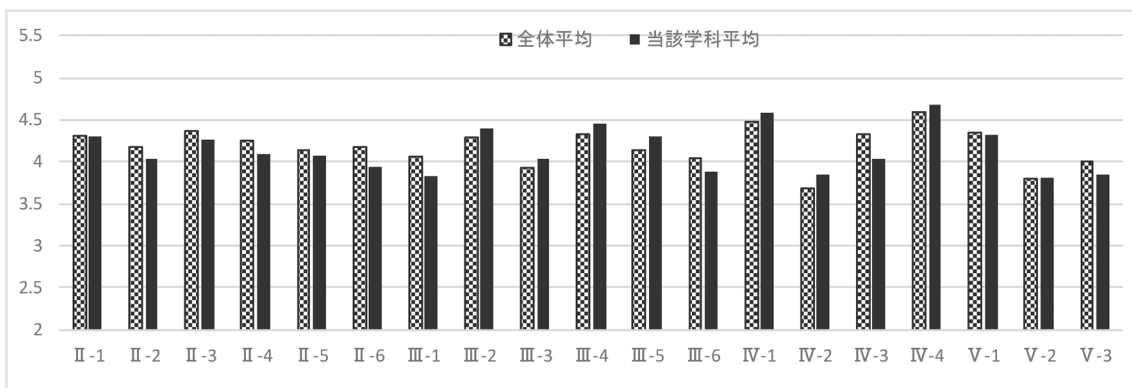
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	47	23	4	0	0	4.58
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	26	19	22	6	1	3.85
3	頼りになる教員に出会えましたか	28	29	11	3	3	4.03
4	よき友と出会えましたか	55	14	5	0	0	4.68

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	37	25	10	2	0	4.31
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	20	30	18	2	4	3.81
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	26	25	13	6	4	3.85

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2022年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果 人間生活学部 児童学科

性別	男性	女性	在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	61	
	21	38		1	58	0	0	0		回答数	59
卒業後の進路	就職	進学	未定	あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	96.7
	51	0	8				44	15	0		

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	42	15	1	1	0	4.66
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	40	18	0	1	0	4.64
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	48	10	1	0	0	4.80
4	教育に対する熱意は感じられましたか	43	13	2	1	0	4.66
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	45	12	2	0	0	4.73
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	35	18	5	1	0	4.47

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	34	20	2	2	1	4.42
2	図書館は利用しやすかったですか	36	16	5	2	0	4.46
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	28	14	9	7	1	4.03
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	32	21	4	1	1	4.39
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	37	12	6	3	1	4.37
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	31	18	9	0	1	4.32

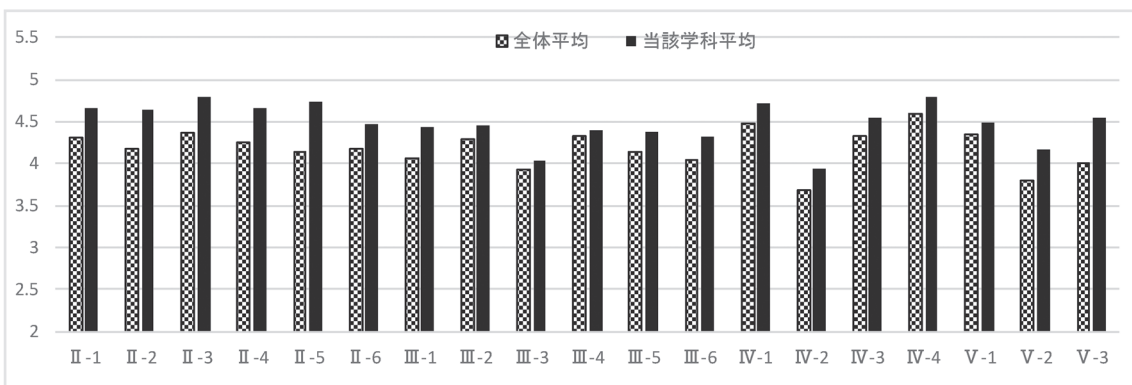
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	45	11	3	0	0	4.71
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	25	16	10	5	3	3.93
3	頼りになる教員に会えましたか	41	12	4	1	1	4.54
4	よき友と出会えましたか	53	3	0	3	0	4.80

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	33	22	4	0	0	4.49
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	27	19	10	2	1	4.17
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	40	12	6	1	0	4.54

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)





2022年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果 人間生活学部 メディアデザイン学科

性別	男性	女性	在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	29	
	19	7		1	25	0	0	0		回答数	26
卒業後の進路	就職	進学	未定	あなたの成績について一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	89.7
	24	0	2				18	7	1		

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	16	8	2	0	0	4.54
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	10	13	3	0	0	4.27
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	13	9	4	0	0	4.35
4	教育に対する熱意は感じられましたか	13	5	7	1	0	4.15
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	9	9	6	2	0	3.96
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	16	5	4	1	0	4.38

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします (全体として)

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	12	5	4	2	3	3.81
2	図書館は利用しやすかったですか	12	4	8	1	1	3.96
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	13	5	4	2	2	3.96
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	15	3	5	2	1	4.12
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	18	4	2	1	1	4.42
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	9	9	5	2	1	3.88

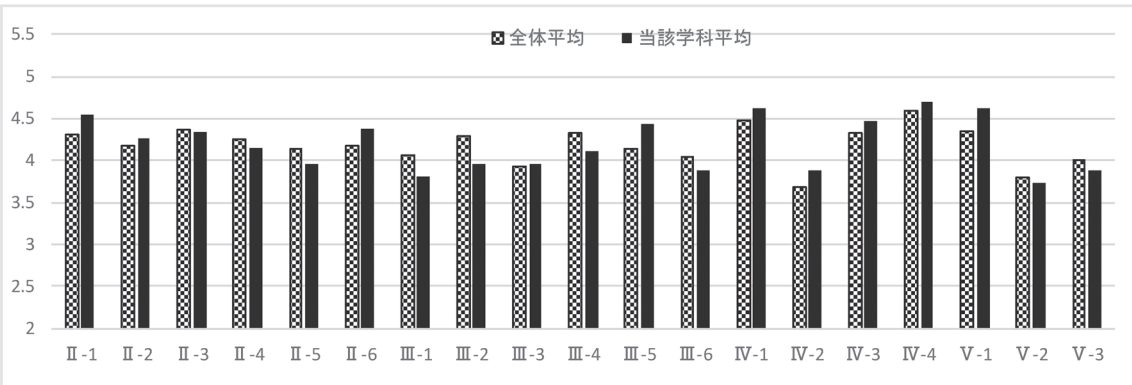
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	18	7	0	1	0	4.62
2	課外活動(部活やイベントなど)に満足しましたか	11	3	10	2	0	3.88
3	頼りになる教員に出会えましたか	17	4	5	0	0	4.46
4	よき友と出会えましたか	21	4	0	0	1	4.69

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	18	6	2	0	0	4.62
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	9	6	8	1	2	3.73
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	9	7	8	2	0	3.88

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2022年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果

人間生活学部 建築デザイン学科

性別	男性	女性	在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	41	
	21	17		0	37	1	0	0		回答数	38
卒業後の進路	就職	進学	未定	あなたの成績について一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	92.7
	37	0	1				15	16	7		

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	16	17	4	1	0	4.26
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	14	17	3	4	0	4.08
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	19	14	1	1	3	4.18
4	教育に対する熱意は感じられましたか	18	17	0	2	1	4.29
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	15	16	2	5	0	4.08
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	20	14	3	1	0	4.39

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします (全体として)

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	19	8	7	4	0	4.11
2	図書館は利用しやすかったですか	18	12	6	2	0	4.21
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	10	10	9	8	1	3.53
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	21	12	2	3	0	4.34
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	19	12	6	1	0	4.29
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	18	14	5	0	1	4.26

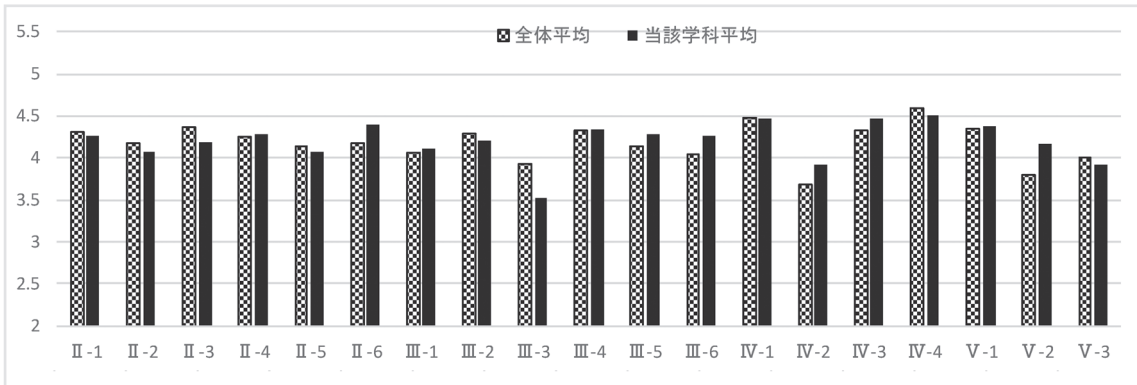
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	25	9	2	1	1	4.47
2	課外活動(部活やイベントなど)に満足しましたか	15	12	6	3	2	3.92
3	頼りになる教員に出会えましたか	24	10	3	0	1	4.47
4	よき友と出会えましたか	26	8	2	1	1	4.50

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	23	11	1	1	2	4.37
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	17	14	5	0	2	4.16
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	15	15	1	4	3	3.92

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2022年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果 人間生活学部 心理学科

性別	男性	女性	在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	82	
	24	50		1	72	1	0	0		回答数	74
卒業後の進路	就職	進学	未定	あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	90.2
	50	7	17				43	26	5		

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	40	31	3	0	0	4.50
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	33	34	6	1	0	4.34
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	40	27	4	3	0	4.41
4	教育に対する熱意は感じられましたか	22	44	4	3	1	4.12
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	26	31	11	3	3	4.00
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	35	32	4	2	1	4.32

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	23	24	15	6	6	3.70
2	図書館は利用しやすかったですか	45	22	4	2	1	4.46
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	34	28	3	8	1	4.16
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	29	35	7	3	0	4.22
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	43	21	6	4	0	4.39
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	29	32	9	0	4	4.11

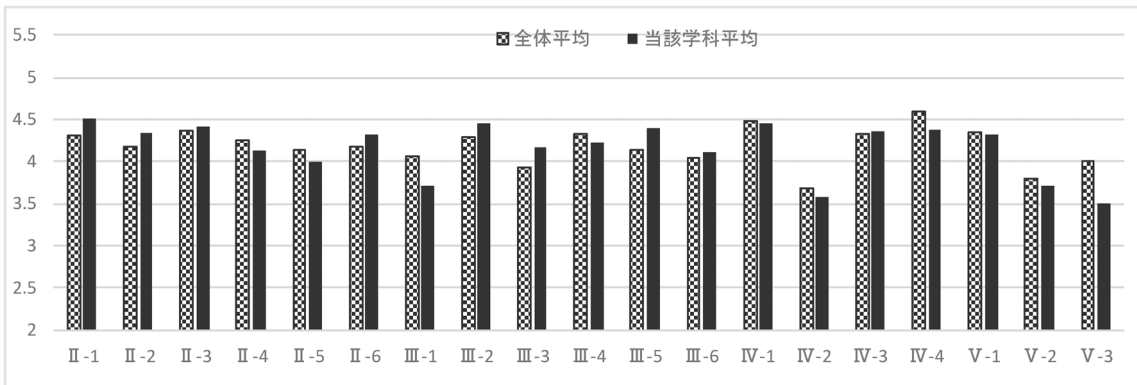
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	46	19	6	3	0	4.46
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	19	23	19	8	5	3.58
3	頼りになる教員に出会えましたか	39	27	5	1	2	4.35
4	よき友と出会えましたか	44	20	6	2	2	4.38

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	36	28	8	2	0	4.32
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	18	29	17	8	2	3.72
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	21	18	16	15	4	3.50

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)





## 第4章 学生による授業評価アンケートの集計結果

授業アンケート集計結果						徳島文理大学	
実施年度	2022年度 後期	対象	人間生活学部 人間生活学科				
対象数	1,386	回答数	966	回答率(%)	69.7	有効回答数	958
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
全体的に読んだ(4点)	517	0.54	3.27				
部分的に読んだ(3点)	330	0.34					
ほとんど読まなかった(2点)	25	0.03					
まったく読まなかった(1点)	24	0.03					
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
とても興味があった(4点)	361	0.38	3.25				
どちらかというに興味があった(3点)	488	0.51					
どちらかというに興味がなかった(2点)	94	0.10					
まったく興味がなかった(1点)	15	0.02					
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問	回答数	比率	加重平均				
わかりやすい内容であった(4点)	584	0.61	3.54				
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	312	0.33					
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	54	0.06					
わかりにくい内容であった(1点)	8	0.01					
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問	回答数	選択率(%)					
専門的な知識・技能	873	91.13					
自立性	352	36.74					
協同性	350	36.53					
考え抜く力	345	36.01					
交渉力	237	24.74					
発信力	208	21.71					
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問	回答数	選択率(%)					
説明内容	720	75.16					
授業の進め方	573	59.81					
教科書・パワーポイントなどの資料	451	47.08					
課題や宿題の内容（量も含む）	383	39.98					
教室の設備	426	44.47					
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問	回答数	比率	加重平均				
優(4点)	506	0.53	3.43				
良(3点)	358	0.37					
可(2点)	92	0.10					
不可(1点)	2	0.00					
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問	回答数	比率	加重平均				
満足(4点)	669	0.70	3.65				
どちらかという満足(3点)	248	0.26					
どちらかという不満足(2点)	31	0.03					
不満足(1点)	10	0.01					

実施年度	2022年度 後期	対象	人間生活学部 食物栄養学科				
対象数	2,797	回答数	2,023	回答率(%)	72.3	有効回答数	1,981

1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	856	0.43	3.14
部分的に読んだ(3点)	842	0.43	
ほとんど読まなかった(2点)	87	0.04	
まったく読まなかった(1点)	87	0.04	

2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか

設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	612	0.31	3.19
どちらかというに興味があった(3点)	1,155	0.58	
どちらかというに興味がなかった(2点)	183	0.09	
まったく興味がなかった(1点)	31	0.02	

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか

設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	922	0.47	3.36
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	873	0.44	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	167	0.08	
わかりにくい内容であった(1点)	19	0.01	

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	1,805	91.12
自立性	652	32.91
協同性	517	26.10
考え抜く力	697	35.18
交渉力	317	16.00
発信力	227	11.46

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
説明内容	1,414	71.38
授業の進め方	1,174	59.26
教科書・パワーポイントなどの資料	863	43.56
課題や宿題の内容（量も含む）	573	28.92
教室の設備	707	35.69

7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	722	0.36	3.15
良(3点)	836	0.42	
可(2点)	415	0.21	
不可(1点)	8	0.00	

8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	1,030	0.52	3.48
どちらかという満足(3点)	886	0.45	
どちらかという不満足(2点)	57	0.03	
不満足(1点)	8	0.00	

実施年度	2022年度 後期	対象	人間生活学部 児童学科			
------	-----------	----	-------------	--	--	--

対象数	2,834	回答数	2,115	回答率(%)	74.6	有効回答数	2,104
-----	-------	-----	-------	--------	------	-------	-------

1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	943	0.45	3.15
部分的に読んだ(3点)	867	0.41	
ほとんど読まなかった(2点)	82	0.04	
まったく読まなかった(1点)	82	0.04	

2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか

設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	1,026	0.49	3.42
どちらかというに興味があった(3点)	955	0.45	
どちらかというに興味がなかった(2点)	110	0.05	
まったく興味がなかった(1点)	13	0.01	

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか

設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	1,496	0.71	3.69
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	571	0.27	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	35	0.02	
わかりにくい内容であった(1点)	2	0.00	

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	1,968	93.54
自立性	1,166	55.42
協同性	1,119	53.18
考え抜く力	1,131	53.75
交渉力	864	41.06
発信力	816	38.78

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
説明内容	1,787	84.93
授業の進め方	1,532	72.81
教科書・パワーポイントなどの資料	1,321	62.79
課題や宿題の内容（量も含む）	1,044	49.62
教室の設備	1,185	56.32

7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	1,275	0.61	3.52
良(3点)	654	0.31	
可(2点)	169	0.08	
不可(1点)	6	0.00	

8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	1,565	0.74	3.73
どちらかという満足(3点)	509	0.24	
どちらかという不満足(2点)	24	0.01	
不満足(1点)	6	0.00	

実施年度	2022年度 後期	対象	人間生活学部 メディアデザイン学科			
------	-----------	----	-------------------	--	--	--

対象数	899	回答数	653	回答率(%)	72.6	有効回答数	650
-----	-----	-----	-----	--------	------	-------	-----

1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	244	0.38	3.15
部分的に読んだ(3点)	336	0.52	
ほとんど読まなかった(2点)	21	0.03	
まったく読まなかった(1点)	21	0.03	

2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか

設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	202	0.31	3.15
どちらかというに興味があった(3点)	355	0.55	
どちらかというに興味がなかった(2点)	79	0.12	
まったく興味がなかった(1点)	14	0.02	

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか

設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	303	0.47	3.36
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	291	0.45	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	45	0.07	
わかりにくい内容であった(1点)	11	0.02	

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	557	85.69
自立性	300	46.15
協同性	187	28.77
考え抜く力	300	46.15
交渉力	119	18.31
発信力	135	20.77

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
説明内容	466	71.69
授業の進め方	441	67.85
教科書・パワーポイントなどの資料	286	44.00
課題や宿題の内容（量も含む）	230	35.38
教室の設備	213	32.77

7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	254	0.39	3.20
良(3点)	274	0.42	
可(2点)	118	0.18	
不可(1点)	4	0.01	

8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	321	0.49	3.44
どちらかという満足(3点)	302	0.46	
どちらかという不満足(2点)	19	0.03	
不満足(1点)	8	0.01	



実施年度	2022年度 後期	対象	人間生活学部 建築デザイン学科			
------	-----------	----	-----------------	--	--	--

対象数	1,635	回答数	988	回答率(%)	60.4	有効回答数	980
-----	-------	-----	-----	--------	------	-------	-----

1. 受講する前(学期はじめ)に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	403	0.41	3.11
部分的に読んだ(3点)	432	0.44	
ほとんど読まなかった(2点)	47	0.05	
まったく読まなかった(1点)	46	0.05	

2. 受講する前(学期はじめ)、あなたはこの授業に興味(学習意欲)がありましたか

設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	475	0.48	3.40
どちらかというに興味があった(3点)	428	0.44	
どちらかというに興味がなかった(2点)	69	0.07	
まったく興味がなかった(1点)	8	0.01	

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか

設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	621	0.63	3.57
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	306	0.31	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	44	0.04	
わかりにくい内容であった(1点)	9	0.01	

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	872	88.98
自立性	313	31.94
協同性	127	12.96
考え抜く力	328	33.47
交渉力	107	10.92
発信力	124	12.65

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
説明内容	691	70.51
授業の進め方	509	51.94
教科書・パワーポイントなどの資料	376	38.37
課題や宿題の内容(量も含む)	297	30.31
教室の設備	228	23.27

7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績(スコア)はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	472	0.48	3.36
良(3点)	389	0.40	
可(2点)	114	0.12	
不可(1点)	5	0.01	

8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	629	0.64	3.60
どちらかという満足(3点)	309	0.32	
どちらかという不満足(2点)	40	0.04	
不満足(1点)	2	0.00	

実施年度	2022年度 後期	対象	人間生活学部 心理学科			
------	-----------	----	-------------	--	--	--

対象数	3,100	回答数	1,810	回答率(%)	58.4	有効回答数	1,778
-----	-------	-----	-------	--------	------	-------	-------

1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	812	0.46	3.19
部分的に読んだ(3点)	753	0.42	
ほとんど読まなかった(2点)	57	0.03	
まったく読まなかった(1点)	56	0.03	

2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか

設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	775	0.44	3.36
どちらかという興味があった(3点)	871	0.49	
どちらかという興味がなかった(2点)	126	0.07	
まったく興味がなかった(1点)	6	0.00	

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか

設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	1,163	0.65	3.60
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	534	0.30	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	69	0.04	
わかりにくい内容であった(1点)	12	0.01	

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	1,622	91.23
自立性	740	41.62
協同性	524	29.47
考え抜く力	761	42.80
交渉力	407	22.89
発信力	360	20.25

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
説明内容	1,410	79.30
授業の進め方	1,227	69.01
教科書・パワーポイントなどの資料	1,084	60.97
課題や宿題の内容（量も含む）	759	42.69
教室の設備	725	40.78

7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	756	0.43	3.25
良(3点)	711	0.40	
可(2点)	302	0.17	
不可(1点)	9	0.01	

8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	1,153	0.65	3.62
どちらかという満足(3点)	587	0.33	
どちらかという不満足(2点)	34	0.02	
不満足(1点)	4	0.00	

## 第5章 研究授業

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	食物栄養学科
授 業 者	坂井堅太郎	科 目 名 (シラバス番号)	応用栄養学 I ( 13940 )
授業協力者		実 施 教 室	9704 教室
実 施 日 時	令和 5 年 1 月 20 日 金曜日 2 講時		
対 象 学 生	食物栄養学科 1 年生		受講学生数： 51 名
教 授 法	講義		
授業テーマ 食事摂取基準の基礎理解（エネルギー必要量）			
<p>研究授業内容自己評価</p> <p>教科書に掲載されている図表（出版社から提供）をパワーポイントに組み込み、さらに重要事項の書き込みを入れて、学生の理解に繋げた。今回の授業で解説した日本人の食事摂取基準に示されているエネルギー出納バランスの考えは難しいので、教科書以外の資料として、上部と下部に蛇口がある桶のイラストを補足プリントとして用いた。また、日本人の食事摂取基準が示している「望ましいBMIの範囲」と日本肥満学会が示しているBMIによる「肥満とやせの判定基準」の違いを解説し、両者の理解が深まったと思われる。また、耐用上限量の設定について、サプリメントによる健康被害が問題になった過去の経緯を紹介した。講義一辺倒にならないよう、教科書の大切な部分に線を引いたり、プリントに書き込んだりするなどの作業を交えながら授業を行い、学生も集中して取り組むことができたと思われる。</p>			
<p>研究授業参観者の意見・感想</p> <p>パワーポイントに教科書のページを表示、日本人の食事摂取基準（2020年版）のポイントを教科書から取込み、重要な所に書き込みをいれてある（国試に出題されている所に下線）。</p> <p>正式：エネルギーと栄養素 略式：栄養素など：などにエネルギーを含む</p> <p>目標量：フレイルの予防・生活習慣病の重症化防止→次回以降の予告をする。</p> <p>（頑張ればできるかもしれない数値設定）</p> <p>教科書に線を引くところを指示し、国試によく出題される所を口頭で指示していた。EBNとして、日本人の食事摂取基準（2020年版）が設定されたことを強調していた。次回以降の授業の予告があり、学生の予習・復習に繋がっている。</p>			
授業参観教員数	1 名		



## 第6章 教員活動状況の調査

### 第1節 人間生活学科

#### 個人情報

1. 氏名：衣川 明美
2. 職位：教授

#### 教育領域

1. 教育の担当専門領域  
被服構成学、被服構成学実習、衣生活論、西洋服装史
2. 授業担当科目  
前期：大学・専門ゼミナールⅠ、衣生活論、被服構成学、  
短大・生活科学論、衣生活論、ブライダルドレスメイクⅠ  
後期：大学・専門ゼミナールⅡ、ファッションビジネス論、卒業研究  
短大・被服構成学実習、ファッションビジネス、  
ブライダルドレスメイクⅡ（4年生2名 履修）
3. 直接に研究指導した学部学生等  
卒業論文（3）名、大学院生：修士（0）名

#### 4. 自己評価

- ①卒業研究は、昨年、専門ゼミⅠ・Ⅱで被服分野の履修を終えた学生3名を指導。  
本学では、ジャケットとスカート、または、パンツのセットアップを制作した学生は  
おらず、今年度初めて3人がスーツと言える作品を完成し、その内の1人は自分で制  
作したスーツを着用し、就職活動に臨んだ。  
高い研究意欲を持ちながら被服制作に取り組んだ者たちであるため経験を重ねること  
により問題意識や考察が深化し、どの学生も強い達成感を得ている。このことを基に  
卒論に取り組んだ。
- ②コロナ禍ではあるが、授業の中で何かファッションに関することで学生が興味を持つ  
課題を見つけないと思案していたところ、毎年、大阪で開催される「OSAKA 手づくり  
フェア」がコロナ禍で2年間中止になっていたが、コロナ感染が沈静化したことから、  
2022年9月9・10日にマイドーム大阪での開催が決定し、このフェアの中で西日本の  
服飾系大学、専門学校が参加する「リメイク&デコ・リメイクチャレンジコンテスト」  
が同時に開催されることになり、兼ねてから何かの形で学生に発表の場を与えたいと  
考えていたのとマッチし、被服構成学の授業の課題としてグループ制作でチャレンジ  
することにした。  
学生はこれまでSDGsを基に、徳島県のゼロ・ウエスト運動をかわきりに色々な場  
面で学んでおり、衣服のリメイクを通し、衣服のあり方、価値観などを見出し、衣服  
に対する興味や制作意欲も増し、学生のチャレンジ精神が開花したように感じる。  
出展数：800作品、内12作品入賞、その内1作品が入賞となる。  
・参加大学：神戸女子、武庫川女子、奈良女子、京都女子、神戸芸術工科、成安造形、  
四天王寺、**徳島文理大学**  
・専門学校：大阪モード、上田安子、マロニエ、大阪文化、神戸ファッション、香蘭  
等

自己評価として挙げるなら、①と②が教育に対する目標であり、十分達成できたと言  
える。

## 研究領域

1. もう一つの洋裁文化、手仕事文化の伝承
2. 職人の暗黙知の継承
3. レプリカ制作におけるシルエットの再現手法
4. デザインにおける素材の適合性の検証

## 令和4年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書  
執筆活動中、令和4年度出版予定（単著）「もう一つの洋裁文化 ～紡ぐ～」（手仕事文化）
2. 学会発表  
なし
3. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
なし
5. 自己評価

執筆中の「もう一つの洋裁文化」で、洋服が工場で作られていなかった時代を論じ語り継がれる「洋裁文化と日本のファッション」を振り返ると、これまで何十年も生きてきて、世の中というのは昨日と今日ではたいして動きがないように見えて案外すごい勢いで変化しているものだという確信に至った。流行の色やデザインは勿論のこと、例えばユニクロのフリース製品、少しさかのぼればインポートのあこがれの的になったDCブランドなど、もっとさかのぼれば「洋服を布から仕立てること」が庶民の生活の一部として必要不可欠な作業だった時代へと行きついた。これをかわきりに、明治から昭和に至る手仕事文化、職人の技を何も感じない、少しは感じているであろう、若者に伝承することが、洋裁経験約50年以上を経た私の役目だと思い立ち執筆活動中である。既製服に対する評価として「感性品質」「サイズ適合」以外の項目については不満足をもつ頻度が高くなっている。多くの人は既製服しか着用していない。また、若者に至っては、お誂えの服など試着したことがないであろう。体に合った服とはどのような工程で仕立てればよいのかなど、研究としては段々と面白くなってきている。次年度に向け完結したい。

## 大学内運営

### 活動報告

教務委員会（学科長）、自己点検・評価委員会（認証評価委員会）、広報担当委員会教員養成対策委員会、中期目標策定委員会、災害時初期対応者、1～4年生チューター

## 社会貢献

1. 学会等への貢献  
日本家政学会四国支部会  
ファッションビジネス学会  
FMC（ファッション素材センター）副理事  
京都工芸繊維大学伝統みらい教員研究センター 組紐・組物学会  
沖縄県名護市明星保育園 理事
2. 教育機関への貢献  
神戸女子大学家政学部家政学科非常勤講師 担当科目：ファッションビジネス論
3. 審議会等委員：なし

## 個人情報

1. 氏名：高橋 昌江
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域  
公衆衛生学、衛生学、栄養学、食品衛生学、薬理学概論
2. 授業担当科目  
前期：専攻科・母子のための薬理学  
大学・専門ゼミナールⅠ、公衆衛生学、食品衛生学、薬理概論、応用生物学  
後期：大学・専門ゼミナールⅡ、衛生学、栄養学、食品学実験  
短大・食品衛生学実験、食品学各論実験
3. 直接に研究指導した学部学生等  
卒業論文（0）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価  
①今年度より新規授業科目および実習科目がスタートし、特に実習に関しては学生と直接コンタクトをとる機会が多く、従来とは異なり戸惑うこともあったが、学生が実習に興味を持ちそれを日常にも生かすことができるよう指導したいと思う。  
②専門ゼミナールⅡでは1名の学生を担当したが、専門ゼミナールの意図を理解してもらうのに手間取った。今後はこの経験を生かしたいと思う。

## 研究領域

1. 表皮形成のメカニズムに関する研究

### 令和4年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書  
なし
2. 学会発表  
なし
3. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
なし
5. 自己評価

研究と教育のバランスをとることが非常に難しく、現在は学生指導にほとんどを費やしているが、研究活動よりも学生指導に重点を置くことが必要であると考えている。

## 大学内運営

### 活動報告

- 1 年生担任、教育研究委員会、生活指導委員会

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

日本研究皮膚科学会評議員

### 2. 教育機関への貢献

なし

### 3. 審議会等委員

なし



## 個人情報

1. 氏名：寺奥 敦子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：家庭科教育、食物学、教育実践
2. 学部授業担当科目  
前期：家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ、調理学、食品学、調理学演習、食品加工貯蔵学実習、  
専門ゼミナールⅠ  
後期：家庭科教育法Ⅲ・Ⅳ、事前・事後指導、調理学実習、専門ゼミナールⅡ
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（3）名
4. 自己評価
  - ①「食品学」「調理学」は講義中心であるが、学生がアウトプットできるよう授業構成を工夫した。また「家庭科教育法」では、現代の名工である古庄紀治氏から本灰汁発酵建ての藍染めを学ぶ機会を設けた。
  - ②若年層の消費者教育の一層の推進が求められている中、全国消費生活相談員協会関西支部長澤村美賀氏を招いて、人間生活学科1年生と家庭科教育法受講者を対象に研修会を実施することができた。
  - ③SPOD フォーラム 2022 やFD研修会で、「支え促す体験授業」や「オンライン授業でもインタラクティブな学びを」、「遠隔授業の強みを最大化する授業設計とは」、「授業改善を研究する-soTL 入門-」などを受講し、授業改善に努め、学生の学習意欲を高める授業設計や評価方法について見直しを行った。
  - ④「専門ゼミナールⅡ」では6名の学生を担当した。全員が個々に課題意識を持って文献検索、調査研究、レポート作成、プレゼンテーションソフトを使っての発表を行うことで、卒業研究に向かう素地を育むことができた。
  - ⑤「調理学実習」では、授業開始20分前からの準備に多くの学生が意欲的に参加するなど主体的・対話的な授業展開ができた。実習後のレポート提出率は100%だった。遊山箱ランチの計画と実施など、新しい内容を工夫し学生が協働的に学べるよう工夫した。また、学生の提出物に必ずコメントを記入し、次回実習時にフィードバックすることにより双方向的な授業となるよう心がけた。
  - ⑥人間生活学科2年生を対象に大学生活に関するブレインストーミングを実施し、その結果をもとに、学科教員でカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの検討を行うとともに、学生に対する年次ごとの指導方策を具体化できた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：家庭科教育 教育実践
2. 研究テーマ：新学習指導要領を踏まえた中・高の実践的な家庭科教育の在り方

## 令和4年度分 研究業績一覧

1. 論文  
なし
2. 学会発表  
なし
3. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
なし
5. 自己評価

家庭科教育において育成を目指す資質・能力を育むための指導の在り方、指導と評価の一体化、小中高の系統性を踏まえた実践的な指導方法について研究した。生涯を見通す時間軸の視点と家族や地域の人々とのつながり、SDGsをはじめ持続可能な社会の構築などの空間軸の視点を踏まえた指導を重視した。また、民法改正、消費者教育、伝統文化の継承など幅広い内容に対して課題意識を持ち、自分事として考え行動することの大切さを身につけた家庭科教員養成に取り組むことができた。

## 大学内運営

### 活動報告

人間生活学科2年担任 チューター生(4年5名 3年7名 1年6名)、  
入学試験委員会委員、教職課程委員会委員、教員養成推進委員会委員、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、高校巡回広報担当、フードスペシャリスト資格担当

- ① 中高の家庭科教員を目指す学生に対し、教員養成対策講座に加え、随時個別に学生の受験対策を支援した。本年度は大阪府に2名、神奈川県に1名の合計3名(食物栄養学科2名、人間生活学科1名)が現役合格した。教職を希望する学生には、学科を問わず、低学年時から指導するよう個別指導を導入した。
- ② フードスペシャリスト資格取得者は4名だった。本年度から、3年次受験を本格化させた。11月から週2回、計12回の対策講座を実施するなど、昨年度より回数を増やし内容を充実させたが、多岐にわたる出題範囲を網羅することが難しく、指導時間不足だと感じた。次年度は対策講座の内容を再検討する。
- ③ 2年生の担任として、30名全員が目的意識を持って学生生活を送れるよう、対面での個人面談3回、記述による実態把握1回、クラスレター発行等による情報提供を実施した。個別相談は随時実施した。学生の自立と自律を促しつつ、充実した学生生活を送れるようサポート体制を構築している。
- ④ 消費者庁が主催する「海外大学等とのオンライン交流事業」(継続2年目)や「とくしま国際消費者フォーラム2022」に学生と参加し、本学で学生が取り組んできた内容について「デジタル社会における『SDGsを見据えた未来につなげる消費』の“実践”」についての学生の発表を支援した。

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

日本家政学会 日本家庭科教育学会

### 2. 地域社会への貢献

- ① 全国高等学校長協会家庭部会「第66回全国高等学校家庭科実践研究会」講演講師  
令和4年8月2日(火) 広島県広島市
- ② 徳島県教育委員会からの依頼による消費者教育校内研修講師  
令和4年8月22日(月) 松茂町立松茂小学校
- ③ 地域連携型出張講義プログラム  
令和5年2月13日(月) 小松島西高等学校
- ④ 全国高等学校長協会家庭部会70周年・家庭科技術検定60周年記念誌寄稿
- ⑤ (一財)徳島アグリクリエイティブ育英会奨学生選考委員
- ⑥ (公財)日本いけばな芸術協会特別会員、徳島県華道連盟役員

## 個人情報

1. 氏名：池添 純子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 地域居住学、住居学
2. 授業担当科目  
前期：文理学、生活と環境、コミュニティ・デザインⅠ、生活空間論、総合科目B（学生災害ボランティア入門）、総合科目D（環境とまちづくり）、専門ゼミナールⅠ、卒業研究  
後期：生活文化論、コミュニティ・デザインⅡ、家族関係学、専門ゼミナールⅡ、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（5）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価
  - ①「生活と環境」、「生活文化論」、「コミュニティ・デザインⅠ」「コミュニティ・デザインⅡ」の各授業では、個々に調べたことをプレゼンテーションにまとめ発表する機会、自分の考えを自分の言葉でレポートにまとめる機会、学外のフィールドワークや他の人と意見交換を行うワークショップなど体験する機会を設け、学生の主体的な学びを促した。
  - ②コミュニティデザイン系の学びを結び付けるツールとして、上勝阿波晩茶協会主催の「桶オーナー制度」に参加し、茶摘みから茶葉のパッキング、晩茶の認知度向上のための地域イベント参加を学生主体で経験させるため、事務局とのやり取り、晩茶づくりや地域イベント参加の引率・フォロー等、全般的な支援を担当した。授業評価アンケート等により、学生が身についた力を確認する予定である。
  - ③「専門ゼミナールⅡ」では4名の学生、「卒業研究」では5名の学生を担当し、それぞれが主体的に選択したテーマについて、文献およびフィールド調査を重ね、実践的な研究活動を行うことができた。
  - ④徳島県の大学・地域連携課題解決フィールドワーク推進事業に「ローカルSDGsの実践による新しいネットワークづくりーかみかつ茅葺き学校を介したつながりー」というテーマで採択され、本学学生の他、徳島大学・阿南高専の学生と共にフィールドワークを実施した。参加学生は昔の里山の豊かな暮らしを体験し、持続可能な暮らしの魅力と課題について考察できた。
  - ⑤持続可能な消費について若者が意見交換を行う場である、消費者庁及び徳島県消費者政策課主催の「海外大学等とのオンライン交流事業」において、発表プレゼン内容及び発表指導、事務局とのやり取りを担い、参加学生は国際的な視点を持ち、消費について考えることができるようになった。
  - ⑥人間生活学科の課題や目指す姿を学科教員間で確認するためのワークショップを開催し、現在のカリキュラムに適合するカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを整理した。

## 研究領域

1. 専門研究領域： 地域計画 農村計画
2. 研究テーマ： ・誰もが最期まで住み続けることができる地域環境の整備  
・事前復興まちづくりにおける環境移行

### 令和4年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書  
なし
2. 学会発表
  - ①池添純子：高齢者の生活機能と防災意識の関連、日本家政学会第74回大会、オンライン、2022
  - ②池添純子：地域包括ケアシステムにおける日常生活圏域の実態と変化、2022年度日本建築学会大会、オンライン、2022
  - ③Junko IKEZOE 他4名：Pre-disaster Community Planning by Local Residents in Tokushima, XXIV The International Federation for Home Economics World Congress 2022, (Atlanta) (オンライン・ポスター発表)、2022
3. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
  - ①科学研究費補助金：若手研究(B) 課題番号：17K12877 「超高齢社会における地域包括ケアシステムに適した日常生活圏域の在り方に関する研究」研究代表者
  - ②科学研究費補助金：基盤研究(B) 課題番号：20H02318 「大災害・気候変動等によるコミュニティ移転の環境移行特性と持続的再定住の計画論」研究分担者
  - ③令和4年度 徳島県 大学・地域連携課題解決フィールドワーク推進事業 「ローカルSDGsの実践による新しいネットワークづくりーかみかつ茅葺き学校を介したつながりー」代表者
5. 自己評価
  - ①地域包括ケアシステムに関する全国調査を取りまとめた成果を日本建築学会大会で発表した。また、事前復興まちづくりに関する昨年度の調査結果を国際家政学会(IFHE)及び日本家政学会で発表し、例年程度の学会参加ができたことは成果である。国際学会の参加は長く期間が空いてしまったが、今後も積極的に研究成果を発信できるよう準備を整えたい。
  - ②コロナ禍の状況においてフィールド調査が困難を極め、研究の進捗状況が遅れている。移動可能であった県内地域でフィールドを持ち、調査を進めることはできた。そのような中でも、5年ぶりに東北へ県外調査を実施でき、震災後10年が経過したからこそ顕著となった課題や現状を知ることができたことは成果である。
  - ③次年度は、科研(分担)の研究チームで、2012年から継続しているこれまでの研究成果をまとめた英文図書を発刊する予定にしており、全体構成や担当箇所の要旨を共有した。いつも時間に余裕を持った準備ができておらず、次年度の課題である。
  - ④日本建築学会四国支部主催の建築文化週間事業で、本学を会場に「徳島で考えるこれからの環境と建築」をテーマとしたシンポジウムをハイブリッド方式で開催し、シン

ポジウムの企画運営全般と当日の司会進行を担当した。豊富な調査研究実績がある講師と徳島で最先端のまちづくりを実践するパネリストとの議論で、今後の研究や教育に活かせる知見を多く得ることができた。

- ⑤超高齢社会における社会的課題や自然災害が頻発する我が国の生活環境等、担当授業の内容と研究テーマがリンクする場面が多く、研究で得られた最新の知見を学生に教授することができた。
- ⑥高齢者の生活支援を目的とする住民団体の顧問を継続し、共同研究として調査を行ったり、月1度のミーディングに参加してこれまでの研究で得られた知見からアドバイスをしたり、研究成果を地域に還元できた。

## 大学内運営

### 活動報告

3年クラス担任、広報担当委員会、新入生セミナー運営委員会、遍路ウォーク委員、退学者防止対策検討委員会、1～4年生チューター、二級建築士受験資格関連事務担当、学科のinstagram更新・ホームページトピックス更新・学科チラシ発行等広報担当

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

- 日本建築学会 常議員
- 日本建築学会四国支部 研究発表会運営委員会委員
- 日本建築学会四国支部徳島支所 幹事

### 2. 地域社会への貢献

- ① 国有財産四国地方審議会委員
- ② 環境省四国環境パートナーシップオフィス運営委員会委員
- ③ 徳島県屋外広告物審議会委員
- ④ 徳島県地方港湾審議会委員
- ⑤ 徳島県都市計画審議会委員
- ⑥ 徳島県耐震改修促進計画検討委員会委員
- ⑦ 徳島県入札監視委員会委員
- ⑧ 阿南市総合計画審議会委員
- ⑨ 徳島市景観審議会委員
- ⑩ 徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員
- ⑪ 徳島市地域密着型サービス運営委員会委員
- ⑫ 生活支援団体「美波のSORA」 顧問 等



## 個人情報

1. 氏名：竹内 理恵
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：看護学 学校保健学 養護実践学 健康教育学
2. 学部授業担当科目  
前期：基礎看護学 看護技術（人間生活学科・心理学科） 保健科教育法Ⅰ 事前・事後指導（養護） 専門ゼミナールⅠ 卒業研究 学校ボランティア実践 養護学特講  
後期：臨床看護学 基礎看護技術（人間生活学科・心理学科） 臨床看護実習 小児保健 教職実践演習 養護実践演習 専門ゼミナールⅡ 臨床看護実習の事務手続き全般
3. 直接に研究指導した学部学生：卒論研究（3）名
4. 自己評価

学生が主体的に授業に取り組めるように、ルーブリック評価を取り入れ、グループ活動や個人の発表等に対する他者評価並びに自己評価を実施した。また、予習のチェックや小テスト等を実施し、学生の自主的学習を促した。さらに、授業をきっかけに学生の学ぶ意欲を育てるために小論文を課題とし、学びへの関心を高め論理的思考力が身に付くようにした。

成果としては、学生の予習をする習慣は次第に付いてきたと考えている。今年度は、学生が自己評価を確実にを行うように授業の中で自己の学びを振り返る機会を作り、全員が発表するようにした。課題とした小論文の完成度には差がみられたが、修正するための指導が十分できていないのでその点を改善したいと考えている。

臨床看護実習では、コロナ禍が続く中病院での実習の日数を減らし、大学の代替実習と併せてを行った。学生の学外で実践的に学ぶ場の確保に今後も努めたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：学校保健学 養護実践学 看護学 健康教育学
2. 研究課題及び概要  
養護教諭には、多様化・複雑化した健康課題を解決する実践的能力が求められる。そこで、養護教諭養成における実践的能力の育成に関する研究と、現場の養護教諭と連携した健康課題を解決するための養護実践活動のあり方の研究をさらに進めていきたい。
3. 令和4年度分 研究業績一覧
  - ・論文  
鎌田克信、竹内理恵、宍戸洲美、数見隆生：養護教諭による「保健教育」実践の理念と方法―実践記録の読み取りから―、日本教育保健学会年報(査読有)Vol130、2022、3、77-90
  - ・学会発表  
1) 竹内理恵、鎌田克信、宍戸洲美、数見隆生：養護教諭の実践に根ざした養護教諭実践理論の構築に向けて（第1報）その2：「健康教育実践」の理念と方法、日本教育保健学会第20回年次大会、東北福祉大学、2023  
2) 貴志知恵子、竹内理恵、長濱太造：性的リスク対処意識向上を進める性教育に関する一考察、日本養護教諭教育学会第30回学術集会、札幌市、2022
4. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
5. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
なし

## 6. 自己評価

これまで大学の業務が非常に多く、研究に携わる時間を十分取ることができなかったが、その中で今年度は、養護教諭が行う健康教育のあり方についての研究を行った。その成果を学会で発表したのもので、今後論文にまとめて投稿したいと考えている。

## 大学内運営

1. 活動報告：自己点検・自己評価委員、就職支援委員、教員養成対策委員、4年生担任、1～4年生チューター、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、養護教諭免許取得のための臨床看護実習の運営及び事務手続き全般、保健室ボランティアの企画運営、養護教諭採用試験対策指導
2. 保健室ボランティア活動の企画・運営  
平成28年度より保健室ボランティア活動の企画・運営をしている。この3年間では令和2年度56回延べ89人、令和3年度60回延べ115人、令和4年度54回延べ97人（前期）の学生が、各学校の活動に参加した。この体験により、学生は自分の養護教諭像を確かなものにし、今後の養護実習や採用試験に向けて意欲をもって学ぶ原動力となった。
3. 養護教諭採用試験対策指導  
教員養成対策講座における指導と個別の対策指導を実施した。また、1～3年生の意識の向上を図るために4年生から体験を伝える発表会を開催した。今年度は1名が現役合格を果たし、平成28年度から7年連続で現役合格の学生を輩出している。
4. 臨床看護実習の運営及び事務手続き全般と代替実習  
これまで臨床看護実習の事務手続き全般（各病院との事前打合せ・依頼状等の作成発送等）と学生への事前指導を主に一人で行っているが、17科目を担当した上で実施しているため非常に負担である。他の研究領域などの業務に支障が生じている状況であり、担当科目を減らすなどの改善を強く希望する。  
また、今年度は一部の病院で日数を減らして臨床看護実習を受け入れていただいた。ただし、全ての病院ではないため大学における代替実習のみの学生もいた。そのため病院との連絡調整、病院訪問と大学での実習の時期が重なった。1、2月の限られた期間に、主に一人で行う業務としては過剰で非常に負担となった。

## 社会貢献

1. 学会等への貢献  
日本養護教諭教育学会会員、日本学校保健学会会員、日本教育保健学会会員、日本健康相談活動学会会員
2. 地域社会への貢献
  - ①全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会第57回研究協議会：研究発表指導助言  
令和4年8月4日：鳴門教育大学
  - ②第7回徳島文理大学養護教諭研修会：企画運営  
令和5年2月4日「養護教諭の学校保健活動に活かせる統計手法の提案と演習」



## 第2節 食物栄養学科

### 個人情報

1. 氏名：石堂 一巳
2. 職位：教授

### 教育領域

1. 教育の担当専門領域：医学
2. 学部授業担当科目  
人間生活学部  
前期：健康管理概論・生化学Ⅱ・生化学実験・公衆栄養学演習  
後期：生化学Ⅰ・臨床栄養学Ⅰ・病理学・食品衛生学演習  
大学院（博士前期課程）  
前期：栄養生理学特論Ⅰ・食品分子生理学特論Ⅰ・食物学特別実習・特別研究  
後期：栄養生理学特論Ⅱ・食品分子生理学特論Ⅱ・食物学特別演習・特別研究  
大学院（博士後期課程）  
通年：生活習慣病領域
3. 直接に研究指導した学部学生等  
卒業論文（10）名、大学院生：修士（2）名、大学院：博士（2）名
4. 自己評価

食物栄養学科1年生が最初に受ける講義として「健康管理概論」を担当している。新入生が「管理栄養士になりたい」というモチベーションを鼓舞する目的で、本学科卒業生である管理栄養士の活躍をDVDで視聴したあと、意見を交換した。また、新入生に本を読む習慣をつける目的で教科書として光文社新書（「がんでは死なないがん患者」（東口隆志著、光文社新書）を採用し、毎回、新聞記事を基にした要約や意見を文章で記載させている。

全ての学年の授業で、対面授業の内容や確認テスト及びその解答をGoogle ClassroomにUpすることにより学生の復習を促している。

令和3年度は懸案であった医療系6学科による「多学科連携講義」を文理学の中で実施することができた。医療系学科の新入生同士が知り合うことにより、交友の幅が広がると同時に、管理栄養士が医療職であることを認識する良い機会になった。

### 研究領域：医科学一般

#### 研究テーマ

1. カスパーゼ特異的阻害剤及び合成基質の開発
2. 海藻抽出成分からの抗炎症作用物質の同定
3. QPRT 結合物質によるアポトーシスの誘導：新規抗がん剤の探索

#### 令和4年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書  
NiCE 生化学（南江堂）

2. 発表

なし

3. 的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

ビタミンB委員会研究奨学金 53,000円

5. 自己評価

学科長として学科運営（四年生の国家試験対策および各学年の退学防止、新入生の獲得）及び各種委員として大学運営（徳島文理大学研究倫理審査委員長、全学研究委員会委員、全学安全保証輸出管理委員会委員、自己点検自己評価委員会委員、人間生活学部実験動物員会委員長、人間生活学部組み換え実験安全主任）を行っている。そのため、研究活動に使える時間が著しく減少している。

**大学内運営：**

健康科学研究所・所長

食物栄養学科長

人間生活学研究科・食物学専攻主任

研究倫理審査委員会委員長

全学研究委員会委員

自己点検自己評価委員会委員

全学安全保障輸出管理委員会委員

発明審査委員会委員

人間生活学部組換え実験委員会委員長

人間生活学部動物実験委員会委員長

**社会貢献：** 日本生化学会評議員 日本病態プロテアーゼ学会理事

American Society of Biochemistry and Molecular Biology 会員

日本分子生物学会会員

日本人類遺伝学会会員

日本ビタミン学会会員

ビタミンB研究委員会委員

## 個人情報

1. 氏名： 犬伏 知子
2. 職位： 教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 食品衛生学

2. 学部授業担当科目

- ・ 人間生活学部

前期：食品衛生学、公衆栄養学演習、公衆栄養学実習(2クラス)

後期：食品衛生学特論、食品衛生学演習、食品衛生学実習(2クラス)

- ・ 短期大学部

前期：食品衛生学Ⅱ

3. 直接に研究指導した学部学生等： 卒論生 2 名， 卒論ゼミ生 9 名

4. 自己評価：

前期の公衆栄養学演習と後期の食品衛生学演習は国家試験科目であり、問題数もかなりあるので、集中してわかりやすく印象に残るように教育する必要がある。

そこで過去の模擬試験内容や、国試の過去問を中心にプリントにして配布し、予習させ、授業中に当てて解説してもらった。

公衆栄養学実習では、国試に繋がる内容を増やし復習も取り入れた。後期の食品衛生学特論の授業では、單元ごとに小テストを行い、大切な内容はパワーポイントで示しながら、授業を進めた。その内容は、クラスルームにも添付し、復習を促した。

## 研究領域、栄養

1. 栄養成分表示の適正化状況の調査
2. 足指筋力と身体組成、栄養素摂取量および食品群別摂取量の関連
3. 乳製品乳酸菌飲料摂取が睡眠の質および体格指標に及ぼす影響に関する検討

## 令和4年度分 研究業績一覧

### 1. 論文・著書

- 1) 小川直子、横山和也、池添純子、犬伏知子：コロナ禍における対面教育と遠隔教育による栄養教育効果の違い～小中学生ラグビー選手を対象として～，日本食育学会誌, 第 17 号, 第 1 号, 31-42(2023)

### 2. 学会発表

なし

### 3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

#### 4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

なし

#### 自己評価：

今年度は2年生の担任であったが、入学式から体調が悪く、大学に来ることが難しくずっと休学している学生がいる。この学生さんには、母親を通して今後どのようにするかを決める必要がある。また2年前期の成績がまだでていない学生さんの今後について話す必要がある。臨地実習も、コロナ禍が続き、中止や延期、オンライン対応のための調整等でも大変であった。論文は、4年生の卒論をまとめたものを学会誌に投稿し、何とか3月中旬に採択された。

#### 大学内運営

##### 1 活動報告

- ① アカンサス会本部役員の前会長を担当
- ② 自己点検・自己評価委員会の人間生活学部代表委員担当
- ③ 入試問題作成委員（化学基礎）の主任担当
- ④ 臨地・校外実習の実習先開拓および実習計画担当
- ⑤ 2年生の担任
- ⑥ 1年から4年生20名のチューター担当
- ⑦ オープンキャンパス模擬授業

#### 社会貢献

##### 1 学会等への貢献

- 日本栄養改善学会会員
- 日本栄養・食糧学会会員
- 日本ビタミン学会会員
- 日本家政学会会員
- 日本健康体力栄養学会会員

##### 2 地域社会への貢献

- ① 徳島県食の安全安心審議会委員
- ② みどりの食料システム戦略徳島県基本計画策定会議委員
- ③ 徳島県危機管理部安全衛生課の講師指導のもと、食物栄養学科2年生を食品表示ウォッチャーとして、市場の食品表示のチェックを行なってもらった。
- ④ アカンサス会本部役員前会長として、学園創立130周年記念行事 ホームカミング計画会議を開催した。（本年度 10回開催予定）
- ⑤ 出張講義（富岡東高校）：食品添加物について話す。
- ⑥ 四国女性研究者活躍推進ネットワーク会議委員

## 個人情報

1. 氏名：坂井 堅太郎
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：基礎栄養学・応用栄養学
2. 学部授業担当科目  
前期：基礎栄養学、応用栄養学Ⅱ、食品加工学、調理学演習  
後期：基礎栄養学実習、応用栄養学Ⅰ、食品加工学特論、応用栄養学実習、給食経営管理演習
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文3年（5名）・4年（6名）
4. 自己評価：  
担当した授業について、授業中に学生自らが授業の内容をまとめるプリントを配布し、学生が習得しなければならない知識について、体系的に身に付くよう工夫した。また、パワーポイントによる授業展開を複数科目で取り入れ、受講学生の理解度を高める工夫をした。  
今年度は、特に遠隔授業が多く行われ、グーグルクラスによるテキスト配信、資料添付、ミーティングによるパワーポイントによる音声授業を取り入れた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：栄養生化学
2. 研究課題及び概要：  
①食物アレルギーの発症機構に関する栄養化学的研究  
アレルギーを引き起こしているヒスタミンが必須アミノ酸の一つであるヒスチジンから合成されていることに注目し、栄養生化学的な視点から栄養管理につなげていく研究を行っている。

### 令和4年度分 研究業績一覧

1. 論文  
なし
2. 学会発表  
1) 旅行先での食物アレルギー対応に関する現状把握：妻木陽子、坂井堅太郎、第69回日本栄養改善学会学術総会、2021年9月
3. 知的財産権の出願・取得状況：なし
4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
5. 自己評価：  
本年度は、授業に使用するパワーポイントの充実と強化に努めた。今後、次世代の授業環境を見据えて、さらに教育・研究の整備を進めていきたい。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

- ①人間生活学部広報担当委員会・委員
- ②災害時初期対応者

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

- ①日本栄養・食糧学会 参与
- ②日本栄養改善学会 会員
- ③日本アミノ酸学会 会員

## 個人情報

1. 氏名：坂井 隆志
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：生理学、免疫学、解剖生理学、栄養学、微生物学
2. 学部授業担当科目  
前期：運動生理学、解剖生理学Ⅰ、食品加工学演習、解剖生理学（短期大学部食物学専攻）、卒業研究  
後期：微生物学、解剖生理学Ⅱ、栄養教育論演習、解剖生理学実験、免疫学、解剖生理学（音楽学部、人間生活学科、心理学科）、卒業研究  
大学院  
なし
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（6）名、大学院生：（0）名
4. 自己評価

これまでで一番担当講義数が多かった昨年度よりもさらに講義数が増えて、特に後期は多忙を極めた。担当した微生物学、解剖生理学、運動生理学はどれも2コマの授業時間の中で教えるには範囲が広く、すべてを細かく教授することは不可能であることから、学生の目標である「管理栄養士国家試験合格」のための講義をすることを第一の目標とした。新型コロナ禍の中で遠隔授業が多く、その影響もあり昨年度に比べて授業準備にかかるエフォートが増えた。また総合選抜入試の取りまとめの仕事が昨年よりもさらに増えるなど、運営業務が忙しく、予定していた研究領域のエフォートを増やすことはできなかった。

台湾からの留学生の博士学位取得の指導を完遂出来た。

## 研究領域

### 専門研究領域

歯薬学分野・基礎医学・病態医化学

### 令和4年度分 研究業績一覧

#### 1. 論文・著作

- 1) Yoshihisa Suzuki, Shiori Fujiwara, Shoko Ueta and Takashi Sakai: Precipitant-Free Crystallization of Lysozyme and Glucose Isomerase by Drying. *Crystals*, 12(2), 129; <https://doi.org/10.3390/cryst12020129> (2022).
- 2) 鈴木良尚、津下英明、藤原汐里、池光直人、上田昭子、坂井隆志：濃縮によるタンパク質結晶化 Protein Crystal Growth by Concentration. *日本結晶成長学会誌* Vol. 49, No. 3 (2022)
- 3) Takashi Sakai, Wen-Ling Lin: Kupffer Cells as a Target for Immunotherapy. *J*, 5(4), 532-537; <https://doi.org/10.3390/j5040036> (2022).

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 科学研究費補助金（挑戦的研究（萌芽））；「メタボリック症候群や炎症性肝疾患の新規治療戦略としてのクッパー細胞移植法の確立」代表（不採択）

5. 自己評価

研究成果をまとめ、論文として発表することが出来た。しかしながら教育領域へのエフォートを取り過ぎ、研究領域がかなり疎かになった感がある。

## 大学内運営

1. チーム医療促進委員会委員（医師）、入学試験委員会委員、新入生セミナー運営委員会委員、人間生活学研究科委員会委員
2. 入試問題作成委員（生物基礎）責任者：一般（I期A、B）および推薦入試問題の作成、問題チェックおよび採点の実施兼取りまとめ役
3. 総合選抜入試の学科窓口として、受験生の面接段取り手配など（15人分）

## 社会貢献

1. 日本生化学会評議員（平成30年11月より）
2. 毎月0～2回ほど（土日祝日のみ）、徳島県赤十字血液センターなどからの依頼で医療業務に従事
3. 毎月1～2回（日曜日）、香川県高松協同病院からの依頼で病棟管理業務に従事
4. 徳島大学大学院講義（eラーニングによる英語の講義）
5. 徳島大学歯学部非常勤講師として歯学部3年次生に講義（1コマ）
6. 徳島大学医学部講師、徳島大学大学院医科学教育部担当客員教授として研究に参加
7. 徳島大学先端酵素学研究所共同研究委員会委員



## 個人情報

1. 氏名：中川 利津代
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：公衆栄養学、公衆衛生学
2. 学部授業担当科目  
前期：公衆栄養学Ⅰ、公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学実習、  
公衆栄養臨地実習代替演習、総合演習Ⅱ  
後期：公衆栄養学Ⅱ、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学演習、総合演習Ⅱ  
通年：ゼミ
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（8）名、大学院生：修士（）名
4. 自己評価
  - ・4年生の担任として個別指導や面談を多数回実施。
    - ・管理栄養士国家試験受験のサポート。ゼミの学生が家庭科教員に内定される。
  - ・1年生から4年生までチューターとして学生20名を指導。
  - ・大阪府教育委員会への大学推薦書（家庭科教員）の作成指導。
  - ・公衆栄養学や公衆衛生学は、教科書を読んだだけではわかりにくい教科である。管理栄養士国家試験問題等を单元ごとに配布し、学習のポイントを示した。
  - ・第36回管理栄養士国家試験において社会と健康の分野の正答率がアップした。
  - ・解けるようになるまで繰り返し説明した。加えて個別で相談に来るように促した。
  - ・公衆衛生実習は、有意差検定や背理法まで統計学の基本を徹底して説明した。
  - ・総合演習Ⅱでは72名の学生が臨地実習や国家試験対策である業者模試を効果的に受けることができるよう指導した。コロナ禍で臨地実習先から中止や期間変更などの申し出があり対応した。特に保健所における実習には丁寧な対応が必要であった。
  - ・臨地実習の巡視、臨地実習関係提出物の取りまとめ、公衆栄養学臨地実習の評価等
  - ・教育実習に行く学生への指導及び巡視
  - ・ゼミ生には、セルフコーチングができるよう目標を立て、タイムマネジメントをできるように指導した。また、ゼミ室で勉強しやすいように環境を整えた。
  - ・学生が考えた牟岐町産もち麦を使用したヘルシーメニューの開発。  
学生は売れる商品づくり（マーケティング）や食品表示法、施策について学んだ。活動を通じて、学生は学校で経験できない体験をした。地域貢献にやりがいを見出したり、コミュニケーション能力がアップしたりとキャリアアップにつながった。

## 研究領域：

研究テーマ：地域貢献を主体とした研究

1. 糖尿病栄養指導における医療機関の管理栄養士の力量と環境要因
2. 牟岐町産もち麦を使っての地域おこし事業への協力
3. 地域貢献事業を通じて得られる学生への教育効果

令和4年度分 研究業績一覧

1. 論文

## 2. 学会発表

医療機関における管理栄養士の糖尿病患者への栄養指導力（力量）と環境要因の関連【第30回日本健康体力栄養学会令和5年3月12日発表予定】

## 3. 知的財産権の出願・取得状況 1) なし

## 4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 補助金の名称：令和4年度県南地域づくりキャンパス事業
- 2) 委託元「四国の右下」若者創生協議会（事務局徳島県南部地域創生防災部＜美波＞ 地域振興担当）

## 自己評価：

1. 医療機関の管理栄養士が発揮する栄養指導力（力量）には、他職種との関係が最も影響力が大きかった。そして、人材育成、チーム医療の重要性が示唆された。
2. 新聞社、テレビ局、FM局等マスコミから取材があり、広報をすることができた。
3. 徳島文理大学の名前を回数多く広報した。

## 大学内運営

- ・徳島文理大学における地域貢献事業として位置づけられている。
- ・牟岐町産もち麦を使つての地域おこし事業を徳島文理大学のホームページに掲載
- ・オープンキャンパスで模擬授業、大学見学での模擬授業で牟岐町産もち麦を使つての地域おこし事業を紹介
- ・牟岐町産もち麦を使つての地域おこし事業に興味を持ち、入学する学生が増えた。
- ・推薦入試面接、総合型選抜入試面接、I期A試験官等担当
- ・大学見学での模擬授業を担当（琴平高校、池田高校）オープンキャンパス模擬授業
- ・退学防止委員会の委員担当
- ・自主活動顧問

## 社会貢献

- ・牟岐町における「もち麦」を使つての地域おこし事業への協力
- ・牟岐の農業守る会・亀井製麺所・牟岐町・徳島県南部県民局と連携してもち麦とむぎゅっと麺もち麦生パスタの販路拡大
- ・フレッシュフーズオオキタと連携し、徳島県のヘルシーメニューとして開発した。フレッシュフーズオオキタで3品（もちっとニコパク弁当、むぎゅっとミルフィーユサラダ、もちっとちーずけーき）商品化された。徳島県の健康づくり推奨店に登録予定。
- ・とくしまSDGsシンポジウム2022、とくしま国際消費者フォーラム2022  
牟岐町産もち麦の特徴（食物繊維豊富）を啓発・周知
- ・徳島県シルバー大学校大学院からの依頼で徳島県立防災センターにおいて「いつ起こるかわからない南海地震に備えて食糧備蓄を考える」と題し講演
- ・徳島大学医学部医科栄養学科 非常勤講師
- ・日本公衆衛生学会会員
- ・日本栄養改善学会会員
- ・日本運動体力栄養学会会員

## 個人情報

1. 氏名：近藤 美樹
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：調理学
2. 学部授業担当科目  
前期：調理学実習 I (2 クラス)、食生活論、調理学演習、卒業研究、  
後期：調理学、調理学実験 (2 クラス)、調理学実習 II (2 クラス)、卒業研究  
その他：総合演習 I および総合演習 II について管理栄養士有資格教員にて分担  
大学院  
博士前期課程  
前期：調理科学特論 I、後期：調理科学特論 II、通年：特別研究  
博士前期課程  
通年：食品機能化学特別講義、食品機能化学特別研究
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 (15) 名 (4 年生 10 名、3 年生 5 名)  
大学院生：修士 (1) 名、博士 (2) 名
4. 自己評価：

これまでと同様に感染症対策のために制限があるなかでの実験・実習となった。ゼミ生の指導は、担当の学生人数も多くかつ二種類の教職履修者がいたこと、さらに自身の空きコマが限定されていたために対応できる時間が非常に限られた。一方、4名の卒業研究は、時間を要したが論文完成に至らせることができた。また、大学院前期課程の学生は研究一年目であったが、研究成果を基に国際学会を経験させることができた。後期課程の学生は欧文論文の掲載に至ったが、職務との兼ね合いで主となる研究が停滞している。次年度は残された時間を計画的に使用し、論文完成に至って欲しい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：調理科学、食品機能学、栄養学
2. 研究課題及び概要；
  - 1) 食品の機能性の評価および機能性成分の同定・定量
  - 2) 調理による機能性成分およびその機能の挙動解析
  - 3) 地域特産物の付加価値化および未利用資源の利活用に関する研究
3. 令和 4 年度分 研究業績一覧

### 1. 論文・著書

- 1) Hiemori-Kondo M, Ueta R, and Nagao K. Improving deer meat palatability by treatment with ginger and fermented foods: a deer meat heating study. *International Journal of Gastronomy and Food Science*, 29, 100577, 1-10 (2022).
- 2) 前川 優樹, 新家 大輔, 岡崎 孝博, 矢野 靖和, 近藤 (比江森) 美樹. ユズ果皮粉末の給餌がキジハタ *Epinephelus akaara* の脂質酸化に及ぼす影響, *日本水産学会誌*, 88 (6), 494-502 (2022).

### 2. 学会発表

- 1) 前川 優樹, 稲井 千紘, 稲木 舞, 近藤 (比江森) 美樹: ツタンカーメンエンドウの紫色の莢に含まれるアントシアニンの抗酸化性. 日本栄養・食糧学会第 76 回大会, 2022 年 6 月 10-12 日, 武庫川女子大学
- 2) 三木 章江, 高橋 啓子, 後藤 月江, 川端 紗也花, 長尾 久美子, 松下 純子, 坂井 真奈美, 近藤 美樹, 金丸 芳: 徳島県の実地料理 地域の特徴—地域

で親しまれてきた料理。日本調理科学会 2022 年度大会、2022 年 9 月 2-3 日、兵庫県立大学（ハイブリッド開催）

- 3) 近藤（比江森）美樹、山口真帆、春木優菜、前川 優樹、新居美香：フキノトウの生理活性物質およびアルカロイドに及ぼす調理の影響。第 27 回 日本フードファクター学会学術集会、2022 年 10 月 22-23 日、芝浦工業大学
- 4) Miki Hiemori-Kondo, Maho Yamaguchi, Yuuna Haruki, Mika Nii : Active compounds of *Petasites japonicus* Maxim. flower bud extract suppress postprandial blood glucose elevation in mice. 22nd IUNS-International Congress of Nutrition, Tokyo, 2022. 12. 6-11.
- 5) Yuuki Maekawa, Miki Hiemori-Kondo : Color reaction of Tutankhamen' s pea upon heating. 22nd IUNS-International Congress of Nutrition, Tokyo, 2022. 12. 6-11.
- 6) Yuu Saruta, Yuuki Maekawa, Miki Hiemori-Kondo : Identification of antioxidant components in purple cauliflower (*Brassicaceae oleracea* var. *botrytis*). 22nd IUNS-International Congress of Nutrition, Tokyo, 2022. 12. 6-11.
- 7) 猿田 優、前川 優樹、近藤（比江森）美樹：藤野菜 紫カリフラワーに含まれる抗酸化成分の同定。第 55 回 日本栄養・食糧学会 中国・四国支部大会、2022 年 10 月 29-30 日、松江テルサ
- 8) 猿田 優、前川 優樹、近藤（比江森）美樹：紫カリフラワーに含まれる抗酸化成分の同定。日本農芸化学会 2023 年度大会、2023 年 3 月 14-17 日、広島大学（ハイブリッド開催）

3. 知的財産権の出願・取得状況：なし

4. 令和 4 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) フキの新機能である血糖値上昇抑制作用の解析及び糖尿病対策への活用に向けた基礎研究：科学研究費補助金（基盤研究 C）、代表、継続
- 2) 令和 4 年度 徳島文理大学 特色ある教育・研究助成：「徳島県特産品「藤野菜」のブランド化に向けた研究-色素成分およびその生理機能の解析-」、代表、交付
- 3) 令和 4 年度 徳島文理大学 特色ある教育・研究助成：「ツタンカーメンエンドウの莢由来アントシアニンの生体抗酸化性の解明」、分担、交付

5. 自己評価

これまで改定に時間を要した論文が受理され、国際学術雑誌に掲載することができた。一方で、当該分野においてレベルの高い国際誌へ投稿した論文については、改定作業に時間を要し、年内の受理に至らなかった。また、昨年同様、後期は教育に対するエフォートが極めて高く、年内の投稿を計画していた論文の執筆が進まず遅延している。次年度は、新天地で論文執筆を進め、完成させて行く予定である。

## 大学内運営

1. 活動報告：教育研究委員会委員、4 年生担任、1~4 年生チューター、臨地・校外実習担当、オープンキャンパス模擬授業、保護者面談、総合選抜試験面接、推薦入試・I 期 A 入試問題作成等

## 社会貢献

1. 学会等での社会貢献：日本栄養・食糧学会代議員・参与、日本農芸化学会参与、日本栄養改善学会代議員、日本フードファクター学会評議員、Journal of Functional Foods 査読、Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry 査読、日本調理科学会誌査読

## 個人情報

1. 氏名：小川 直子
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：栄養教育論
2. 学部授業担当科目  
前期：食物栄養学科3年：栄養教育論Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ（2クラス）、  
食物栄養学科4年：給食運営臨地実習代替演習  
保健福祉学部口腔保健学科3年：食生活指導論  
後期：食物栄養学科2年：栄養教育論Ⅰ、  
食物栄養学科3年：栄養教育論Ⅲ、栄養教育論実習Ⅱ（2クラス）、  
食物栄養学科4年：栄養教育論演習
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文7名（4年生2名、3年生5名）
4. 自己評価：

今期は授業の中でこれまで以上に時間をかけて具体例を増やした説明をすることができた事で、授業評価アンケート結果はいつも以上に評価が高く、学生の提出物や発表内容が例年よりも向上したと感じた。また4年生の国試対策についても、今年も模擬試験結果では全国平均を上回る結果を出すことができた。さらに今年は学生が研究室まで質問に来る事も多かった事から、質問しやすい環境づくりもできていたのだと考えられた。

また今年2名の卒論を仕上げることができた。人を対象とする研究であったためにコロナ禍では思うように進めることはできなかったが、対象であったラグビー選手の貴重な食生活データを卒論としてまとめることができた事は、本人たちの自信にもつながると考えられた。また3年生5名の卒論については、人を対象とした2つのテーマに取り組んだ。この取り組み内容が学生だけでなく私自身も授業等で生かされていることを実感できているため、今後もこのような努力を継続して教育と研究に努力したいと考える。

## 研究領域

1. 専門研究領域：栄養学および健康科学関連、栄養教育・栄養指導
2. 研究課題及び概要
  - 1) 若年女性に対する隠れ肥満予防栄養教育プログラムの開発
  - 2) 女子サッカー選手のパフォーマンス向上のための栄養教育について
  - 3) 咀嚼が食行動や体格指標に及ぼす影響について
  - 4) 小・中学生及び高校生のスポーツ栄養に関する研究
  - 5) ヒトエグサの摂取が体格指標、臨床検査値に与える影響について
3. 令和4年度分 研究業績一覧

### 【論文】

- 1) 小川直子、横山和也、池添純子、犬伏知子：コロナ禍における対面教育と遠隔教育による栄養教育効果の違い～小中学生ラグビー選手を対象として～、日本食育学会誌、第17号、第1号、31-42(2023)

2) 大原栄二、福浦 茜、小川直子：給食経営管理実習における自己評価アンケートを用いた授業改善～CS ポートフォリオ分析による検討～，調理技術教育学，Vol. 4, No. 1, 16-23 (2022)

4. 知的財産権の出願・取得予定： なし

5. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

1) 科学研究費補助金：基盤研究C 申請 不採択

2) 令和4年度 徳島文理大学 特色ある教育・研究助成：「大学生のスポーツ選手に対する栄養教育マネジメント効果の検討」代表，交付

3) 令和4年度 ブランディング研究費 分担， 交付

6. 自己評価：

今年は、3月にヒトエグサに関する研究の成果が学会誌に掲載されたことに続き、大学院生の指導に携わった論文が4月発行の学会誌に共同研究者として掲載された。さらにコロナ禍の栄養教育に関する研究結果を報告した論文を2023年1月に日本食育学会誌に掲載することができた。現在は咀嚼に関する研究結果の論文作成や、スポーツ選手のパフォーマンス向上を目的とした研究結果をまとめて論文化しているところである。さらには若い女性の隠れ肥満の現状とその改善策についての研究も実施中である。以上の研究テーマについて研究結果をまとめ、論文掲載に向けて努力する。そしてこれらの研究結果を授業にも生かしていきたいと考えている。

## 大学内運営

1. 活動報告：(委員) 学生指導員， 徳島文理大学ハラスメント防止委員

(クラス担任) 食物栄養学科1年生担任(53名)，1～4年学生のチューター(25名)

(その他) ・入試面接， 地方試験場(高知会場)の監督業務

- ・オープンキャンパス模擬授業，
- ・徳島県保護者会面談 アカサス会本部長，
- ・アカサス会徳島県支部役員
- ・アカサス会沖縄県支部事務担当 等

## 社会貢献

1. 地域社会への貢献：日本栄養改善学会評議員(2022年10月～)

徳島文理大学附属幼稚園 保護者への食育講演(2022年12月10日9:30～11:00)

その他：日本栄養改善学会，日本栄養食糧学会，日本食育学会，日本食生活学会，

日本健康教育学会，日本病態栄養学会，日本スポーツ栄養学会，日本小児栄養研究会 に所属

## 個人情報

1. 氏名： 栗飯原 乙起 (旧姓：中橋)
2. 職位： 講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 臨床栄養学

2. 学部授業担当科目

前期：分子栄養学、食品機能学、応用栄養学Ⅱ<sup>\*</sup>、臨床栄養学Ⅱ、  
臨床栄養学実習Ⅰ (3 回分)、臨床栄養学臨地実習代替演習、

後期：応用栄養学Ⅰ<sup>\*</sup>、応用栄養学Ⅲ<sup>\*</sup>、応用栄養学実習<sup>\*</sup>、臨床栄養学演習  
<sup>\*</sup>坂井堅太郎先生と共同開講

通年：文理学

大学院 前期：食品学特論Ⅰ

後期：食品学特論Ⅱ

3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文 2名 (4年生1名、修士1年 1名)

去年度から研究指導をしてきた学生が4年生となり、「1,25(OH)<sub>2</sub>D<sub>3</sub>投与によるラット十二指腸及び腎臓のCyp24a1タンパク質発現変動解析」というタイトルで卒業論文を作成することができた。修士1年の学生は「精巢におけるCyp2r1遺伝子発現解析」をテーマとして修士論文の作成を含め、引き続き研究指導を行っていく。

4. 自己評価：講義においては国家試験を意識し、頻出の内容に関しては特に重点的に説明した。後期の応用栄養学実習では学生自身で体重・体組成の管理、食事内容の栄養価計算ができることを達成目標とした。各講義・実習において、ほぼすべての学生が達成目標に到達したと評価している。

## 研究領域

1. 論文・著書

なし

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

科研費 2023年度 基盤研究(C) 申請中

自己評価：今後も卒論生、大学院生と研究をすすめ、研究成果を学会で発表し、論文の作成をしていく。

## 大学内運営

入試問題作成（化学基礎）、1年生担任、1～4年生チューター

## 社会貢献

徳島県栄養士会 理事



## 個人情報

1. 氏名： 森川 咲子
2. 職位： 講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 臨床栄養学
2. 学部授業担当科目  
前期：臨床栄養活動論，臨床栄養学実習Ⅰ，総合演習Ⅰ  
後期：臨床栄養管理論，総合演習Ⅰ，総合演習Ⅱ，臨床栄養学演習，栄養学，臨床栄養学実習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（1）名、その他（5）名  
4年生の論文執筆指導に携わり、「食品中の栄養素がインスリン分泌に与える影響の検討」というタイトルで卒業論文を完成させることができた。
4. 自己評価  
出産・育児休業を経て年度途中からの復職となり、家庭都合で休講してしまうこともあったが、助手の先生方や学生の協力もあり、柔軟に対応できた。前期の臨床栄養学実習Ⅰでは栄養アセスメントや栄養介入について体験学習させることを意識し、講義と連動させ理解させるよう努めた。後期は臨床栄養学実習Ⅱを新規に担当し、各種交換表を使えるようになることを主眼としたカリキュラムにした。大半の学生が糖尿病食や腎臓病食の献立を立案できるようになったと感じており、後期終了後からの臨地・校外実習に対する事前準備がある程度はできたと考えている。

## 研究領域

1. 小児生活習慣病の早期発見・早期予防に関する臨床疫学的研究
2. 2型糖尿病患者の生活習慣療法に関する臨床疫学的研究

### 令和4年度分 研究業績一覧

#### 1. 学会発表

- 1) 森川咲子、藤原和哉、治田麻理子、武田安永、谷内田潤子、堀川千嘉、加藤光敏、前川聡、曾根博仁. 2型糖尿病患者の性格特性と自己管理行動及び血糖コントロールの関連. 第9回日本糖尿病協会年次学術集会, 2022年7月、京都市（ポスター発表）

#### 2. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の交付状況：

生活習慣病治癒をめざすビッグデータ/AI活用包括セルフケアシステム開発と効果検証、基盤研究B、採択、分担

若年女性の「やせ」に関連する要因の解明と「やせ」予防に関するエビデンス確立、基盤研究C、採択、分担

#### 3. 自己評価

小児の体力と体格と代謝指標に関する英語原著論文を投稿中である。学会発表を終えた他の研究テーマについては、論文化を早急に行う。

### **大学内運営**

食物栄養学科3年生担任、各学年チューター、チーム医療促進委員会委員(管理栄養士)、オープンキャンパス模擬授業担当を務めた。

### **社会貢献**

日本糖尿病協会会員として、学術集会におけるファシリテーターとして参画した

## 個人情報

1. 氏名：吉村 英悟
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：食品学
2. 学部授業担当科目

前期：食品加工学演習、食品学、食品学実験、文理学

後期：食品加工学実習、食品学実験Ⅱ、食品学特論

3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文(3)名、大学院生：修士(0)名

4. 自己評価：前年度問題点のあった個所を改善し授業内容を少し変更したり、できるだけモデルコアカリキュラムにそって授業を行うようにした。またできるだけ教科書等で記載が少ない食品の写真等をスライドに映し出しわかりやすく行った。普段の食生活につながるように食品の知識を深められるように授業を進めた。授業における学生の理解度の確認は小テストやレポートなどの課題で行ったが、不十分であったと感じた。次年度にはもう少し資料作りや学生の理解度の確認など授業運営の改善をしていきたいと考えている。

また座学や実験はなるべく管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラムや管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に準じるように工夫はしたつもりであるが、もう少し改善が必要と感じた。特に実験は、日本標準食品成分表につながるような実験内容とリンクするように改善をしていきたい。

## 研究領域：食品学

## 研究テーマ

ごぼうに含まれるイヌリンおよびイヌリン分解物の分析による検討

## 令和4年度分 研究業績一覧

### 1. 論文・著書

論文なし

著書

八訂 VXEIYOKUN：栄養計算ソフト Excel アドインソフト

FFQg：食物摂取頻度調査用ソフト Excel アドインソフト

<https://eiyokun.jimdo.com/>

### 2. 学会発表

なし

### 3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

なし

**自己評価：** 本学に入ってから初年度であると言いきれないが、今後学会発表や論文作成等できるように研究を進めていきたい。

**運営：**

食物栄養学科1年生担任、各学年チューター、オープンキャンパス模擬授業、ライブ配信による「模擬授業」、保護者面談、総合選抜入試面接等、新入生セミナー、

**社会貢献：**

徳島県の連携事業

- 食品加工関連講座の開催に係る支援
- 「六次産業化研究施設」の活用

## 個人情報

1. 氏名：松本 萬寿美
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：給食経営管理、栄養教諭
2. 学部授業担当科目  
前期：給食経営管理実習（3年2クラス）、給食経営管理Ⅱ（3年2クラス）  
事前・事後指導（栄養教諭）（4年、短期大学部食物専攻2年）  
給食経営管理臨地実習代替演習（4年）  
栄養教育実習（4年5名）  
後期：学校栄養指導論（3年、2年、短期大学部食物専攻1年）、  
教職実践演習（栄養教諭）（4年、短期大学部食物専攻2年）  
給食経営管理Ⅰ（2年）、栄養教育実習（4年10名）
3. 直接に研究指導した学部学生  
栄養教諭セミナー 4名（3年3名、2年1名）、卒業研究（4年4名）
4. 自己評価：
  - ・栄養教諭の校外実習が4年の前期及び後期になっており、採用試験に向けての対応が難しかった。また、校外実習の受け入れ校からは実習期間が1週間では短いとのご指摘を受けていた。  
今年度、『学校栄養指導論』の講義を3年から2年に前倒ししていただくことができ、次々年度からは校外実習を3年に繰り上げることが可能となった。また、給食運営の臨地実習と並行することで、学校での2週間という実習が可能となった。  
元々採用数の少ない栄養教諭という職種ではあるが、学生たちは採用試験に向けてしっかり取り組むことができるようになると期待する。
  - ・『給食経営管理実習』では、コロナ感染対策として、授業前の検温や手指消毒に加えて、手作りのフェイスシールドを学生たちに配布し、授業毎に消毒した。  
食堂・講義室には、手作りの簡易パーテーションを設置し、提供実習時の来客対応でも使用できるようにした。
  - ・『給食経営管理実習』のお客様に提供する前のプレ実習では、今まで全員同じ献立を実習していたが、今年度は、学生たちが考えた提供実習用の献立をプレ実習での試作とした。その結果、机上の理論との違いや味の改善に向けて、より深く実習・実践することができた。
  - ・『給食経営管理臨地実習代替演習』では、他の臨地実習や教育実習・就職活動、そしてコロナ対応等によって学生たちの足並みがなかなか揃わず、授業の進捗状況を変更せざるを得なかった。

## 研究領域

1. 専門研究領域：栄養教諭
2. 研究課題及び概要：将来を担う子どもたちの食育を推進する栄養教諭の育成

## 令和4年度分 研究業績一覧

### 1. 論文

なし

### 2. 学会発表

なし

### 3. 知的財産権の出願・取得予定

なし

### 4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

### 5. 自己評価

栄養教諭になった卒業生から、食育についての指導内容等質問が時々来ており、少しでも協力できることがあればと資料を送っている。

今年度、栄養教諭採用試験を受けた学生はいなかったが、来年度に向け意欲を燃やしている学生がいる。勤務体制の都合によりなかなか大学での時間をつくることできないが、教員対策講座の一環として栄養教諭講座を続け、栄養教諭採用に向け指導していきたい。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

#### ① (委員)

人間生活学部教員養成推進委員会委員  
徳島キャンパス教員養成対策委員会委員  
全学共通教育センター学習支援アドバイザー

#### ② (クラス担任) 食物栄養学科2年生担任 (47名)

3～4年学生のチューター (3年4名、4年4名)

#### ③ (その他)

バレーボールサークル顧問

## 社会貢献

### 1. 地域社会への貢献

那賀町新学校給食センター開設委員会 役員

## 個人情報

1. 氏名：前川 優樹
2. 職位：助教

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：調理学、栄養学
2. 学部授業担当科目：なし
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価：前期は栄養教育論実習Ⅰ、公衆衛生学実習、調理学実習Ⅰの助手を担当し、後期は、調理学実習Ⅱ、調理学実験および人間生活学科の調理学実習の助手を務め、補助・個別指導が必要な学生に対応できた。また、担当の先生方と連携を取ることで、円滑な授業運営に貢献できた。去年に比べ、学生と接する機会が多かったこともあり、より積極的に対応することができた。

## 研究領域：食品機能学

### 1. 研究テーマ

ツタンカーメンエンドウの莢由来アントシアニンの生体抗酸化性の解明

### 令和4年度分 研究業績一覧

#### 1. 論文・著書

- 1) 前川優樹、新家大輔、岡崎孝博、矢野靖和、近藤（比江森）美樹. ユズ果皮粉末の給餌がキジハタ *Epinephelus akaara* の脂質酸化に及ぼす影響. 日本水産学会誌. 2022, 88, 494-502.

#### 2. 学会発表

- 1) 前川優樹、稲井千紘、稲木舞、近藤（比江森）美樹. ツタンカーメンエンドウの紫色の莢に含まれるアントシアニンの抗酸化性. 第76回日本栄養・食糧学会大会、2022年6月10-12日.
- 2) 猿田優、前川優樹、近藤（比江森）美樹. 藤野菜 紫カリフラワーに含まれる抗酸化成分の同定. 第55回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会、2022年10月29-30日.
- 3) Maekawa Y, Hiemori-Kondo M, Color reaction of Tutankhamen's pea upon heating. 22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition. 2022 Dec 6-11.

#### 3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

#### 4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

1) 令和4年度徳島文理大学 特色ある教育・研究助成；ツタンカーメンエンドウの莢由来アントシアニンの生体抗酸化性の解明、代表、交付

- 1) 科学研究費補助金（基盤C）；未利用資源の有効活用への展開に向けた紫エンドウ莢の生体抗酸化性の解析、代表（申請中）

#### 自己評価

今期は、論文掲載における研究成果が遅延しており、課題が残る結果となった。しかし、一部成果を学会発表で公表することができた。次年度はより計画通りに進められるように研究を実施し、論文作成を進める予定である。

#### 大学内運営

3年生担任、1～3年生チューター、オープンキャンパス模擬授業、設営、補助

#### 社会貢献

なし



### 第3節 児童学科

#### 個人情報

1. 氏名：河口 雅子
2. 職位：教授

#### 教育領域

1. 教育の担当専門領域：音楽科、音楽科教育法
2. 学部授業担当科目  
前期：音楽A、音楽②、器楽②、卒業研究  
後期：音楽科教育法Ⅰ、音楽①、器楽①、専門ゼミナール、卒業研究、(教育法規)
3. 直接に研究指導した学部学生：15名（卒業論文、卒業演奏、実技指導等）
4. 自己評価（工夫、反省）

学生自らが音楽科の特性や独自性を理解し、音楽の楽しさ、喜びや一体感を体感できるよう授業改善・実践に取り組んだ。毎時間終了後には、「フィードバックシート」で自己の振り返りと学びを確認させ、その内容を次時の授業に活かした。

- ① 授業では「基礎理論」「演習」「実技」の3構成に組み立て、「基礎理論」では音楽の基礎理論の理解するための手立てや、授業後半の確認活動で定着を図った。

また、「演習」「実技」では、音楽の感性を磨くという視点からアクティブラーニング及びグループワークを中核として、楽曲の分析から曲想表現に結びつける等の内容構成を実施し、感性を高める授業の展開を図った。このことから、表現方法を体感でき、一体感を持った授業の展開が図れるようになった。子どもたちの発する声や表情、心が見える教師になってほしいという視点で授業を実践したが、自分を表現する楽しさや喜びを体感できる学生が増え、表現の真の意味の理解が図れるようになってきた。

- ② 採用試験に向けては、公立保育士、小学校教諭等にゼミ生の就職が決定し、学生の夢を叶えさせることができた。1次対策、2次対策の面接指導、論文指導、実技指導等の対面指導以外に、Zoomにおける面接指導等の指導も効果大であった。
- ③ コロナ禍で2年間中止となっていたゼミ主催による「児童学科ニューイヤーコンサート～きらり～」が3年ぶりに実施できた。児童学科の独自性を表現する内容をゼミ生一体となって企画に取り組んだ。3年生・4年生ゼミ生による各「オペレッタ」、ピアノ連弾、創作ピアノ演奏、箏とピアノとしての笛のコラボ演奏、メゾソプラノ独唱、さらに時宜の課題に対応した3・4年合同の合唱やダンスも表現できた。コンサートに向けて全員が一体となって演奏のみならず、企画運営、練習においても大なる成果を残せたと感じている。

#### 研究領域

- 1 専門研究領域  
「言葉・音を音楽にする感性へのアプローチ」「自己表現力の創造」
2. 研究課題及び概要

音楽にまつわる人の認識、思考や感情のメカニズムやプロセスから、旋律、リズム、響き、聴取という要素がいかに関わる中で普遍的認知過程を持ち、感情に繋がっていくかを一つひとつの領域で研究している。言葉や音が人の心の中で豊かな音楽に至るためには、感性を磨くことが重要と考える。こうした研究を基盤とし、幼児期から児童期に係る発達段階でどう感性を磨くか、子どもたちの学びをどう創造し、表現活動に結び付けていくか、こうした点について、様々な教材を収集・選択し、研究を深めてきた。合唱指導においては、合唱曲「百年後—ラビンドラナート・タゴールの三つの詩—」における歌詞・楽曲の分析から表現の創造等を研究し、表現による人間力の創造をテーマとした演奏を目指している。

3. 令和4年度分 研究業績一覧
4. 知的財産権の出願・取得状況：特になし
5. 令和4年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし
6. 自己評価

「言葉・音を音楽にする感性へのアプローチ」「自己表現力の創造」をテーマとして、研究を続けているが、今までに実践・研究してきたものを纏めさらにテーマに結びつけていきたいと考えている。

#### 大学内運営

1. 活動報告（委員会、担任等）
  - ①児童学科長 ②教務委員会 ③教員養成対策委員会 ④中期目標策定委員会
  - ⑤3年チューター(8名) ⑥4年チューター(8名)

#### 社会貢献

1. 学会への貢献
  - 中四国教育学会会員
2. 地域社会への貢献
  - 徳島県教育振興審議会委員
    - ・第2回徳島県総合教育会議
    - ・第1回徳島県教育振興審議会
  - 芸術文化・文化遺産に関する事業（徳島県教育委員会）講師
  - 徳島県女性管理職協議会会長
  - 第89回全国学校音楽コンクール徳島県大会審査員
  - 女声合唱団「Vivac みやび」指導者
    - ・第28回徳島県合唱アンサンブルコンテスト金賞受賞

## 個人情報

1. 氏名：三橋 謙一郎
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育方法論、生徒指導、保育方法論
2. 学部授業担当科目  
前期：初等教育方法論、生徒指導（進路指導を含む）、保育援助論、保育方法演習  
後期：教育方法論、教職概論、保育・教職実践演習（幼・小）、保育方法演習、専門ゼミナール、（教育法規）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（ 6 ）名、その他（ 8 ）名
4. 自己評価  
\*授業では具体的な実践例を取り上げながら、理論的な内容をわかりやすく説明するように心掛けた。  
\*授業での私語対策として、学生の反応に応じて説明の仕方を変える等の工夫に努めた。  
\*教職科目の授業に関しては、教員採用試験との関連を考慮し、教材の精選に工夫を凝らした。

## 研究領域

1. 専門研究領域：教育学、教育方法学、幼児教育方法学、臨床教育学
2. 研究課題及び概要  
・教育的タクトのあり方に関する実証的研究：理論に支えられた教育的タクトのあり方を、現場の授業実践の参観＝分析に基づき、具体的・実践的に追求していく。
3. 令和4年度分 研究業績一覧  
【論文】  
不登校の対応策－体験者のインタビューを通して－・共・徳島文理大学研究紀要第105号・令和5年3月
4. 自己評価  
広島県内、高知県内、徳島県内の現場の授業実践を中心に、授業等の分析＝検討を行い、上述の研究課題を達成するために、研究成果を発刊することで一定の成果が得られたように思う。

## 大学内運営

1. 活動報告
  - ① 人間生活学専攻科長
  - ② 大学院人間生活学研究科児童学専攻主任
  - ③ 全学教職課程委員会委員長

- ④ 全学教員養成対策委員会委員
- ⑤ 人間生活学部教員養成推進委員会委員
- ⑥ 児童学科3・4年クラス担任
- ⑦ 児童学科1・2・3・4年チューター [卒業研究指導を含む] (24名)
- ⑧ 大学院児童学専攻チューター等 [修士論文指導を含む] (2名)

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

- ① 日本教育方法学会常任理事・紀要編集委員会委員
- ② 日本教育方法学会研究奨励賞審査委員会委員長
- ③ 日本特別活動学会理事・紀要編集委員会委員
- ④ 日本特別活動学会実践支援研究委員会委員
- ⑤ 現代学習集団授業研究会副会長
- ⑥ 中・四国保育士養成協議会幹事

### 2. 地域社会への貢献

- ① とくしま教員育成協議会委員
- ② 県・大学等連携による教職員研修講座講師

## 個人情報

1. 氏名：岡 直樹
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：学校心理学
2. 学部授業担当科目  
前期：心理学 A, 教育原理, 子どもの学び支援実習 I, II, III, IV  
後期：子ども家庭支援の心理学, 教育原理, 社会心理学, 道德教育,  
専門ゼミナール, 子どもの学び支援実習 I, II, III, IV, 教育心理学
3. 直接に指導した学生  
子どもの学び支援センターでの指導 20 名,  
チューター担当 28 名（専門ゼミナールおよび卒論指導担当学生を含む）。
4. 自己評価  
授業においては、特にオンライン授業においては、わかりやすくなるよう説明文の工夫や、提示する資料の精選を行った。また、オンライン授業では一方通行になりがちであったが、課題や課題の出し方を工夫することにより、受け身の学習にならないよう配慮した。  
学生の実践的指導力の育成、教育の質の保証の観点から、子どもの学び支援センター（きらきらルーム）において、学習相談の実習を学生に行わせ、その実習に対するケース検討会なども開きながら、学生の心理教育的支援の実践力を育成した。この学習相談の実施についても今年度はオンラインでの学習支援も行った。また、今年度から、小学生に加え、幼児への支援も試行的に行い、幼稚園教諭もしくは保育士を目指す学生の実践的指導力の育成を図った。

## 研究領域

1. 専門研究領域：認知心理学, 学校心理学
2. 研究課題及び概要
  - ① 記憶や学習についてのメカニズムに関する基礎的研究
  - ② 基礎的研究から得られた知見に基づく学習指導法や学習方法についての応用的研究
  - ③ 学習面の心理教育支援、特に認知カウンセリングに関する実践的研究
3. 令和 4 年度分研究業績一覧  
【学会発表】  
金子紗枝子・岡直樹 教職を目指す大学生の力量形成のための取り組み —2020 年度の活動への参加児童とその保護者への調査結果からの考察— 日本学校心理学会
4. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
5. 令和 4 年度分科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

なし

#### 6. 自己評価

研究課題については、特に応用的研究と実践研究にウエイトをおいて研究を継続し、論文投稿や学会発表を行ってきた。また、本学内において実施している学び支援活動（きらきらルーム）を基盤にして、事例研究に取り組むとともに、参加児童、保護者および大学生に実施したアンケート等を分析し、この取り組みについて検証し、支援方法の改善策について検討してきた。さらに、発達障害のある児童については、支援を授業期間後も継続的に行い、事例研究を進めてきている。

#### 大学内運営

- ① 教育研究委員会委員
- ② 自己点検・自己評価委員会委員
- ③ 児童学科2年生担任, 1, 2, 3, 4年生チューター

#### 社会貢献

- ① 一般社団法人 学校心理士認定運営機構 学校心理士スーパーバイザー資格認定委員会副委員長
- ② 一般社団法人 学校心理士認定運営機構 理事
- ③ 日本学校心理士会副会長
- ④ 学校心理学研究 査読者
- ⑤ 日本学校心理士会年報 査読者
- ⑥ 日本学校心理学会 理事

## 個人情報

1. 氏名：松本 有貴
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育心理学、児童心理学、社会性と情動の学習(SEL)
2. 学部授業担当科目  
前期：教育心理学、保育の心理学Ⅰ、保育者論、児童教育相談演習Ⅰ、児童実践教育学特論Ⅰ、児童実践教育学演習Ⅱ、特別研究、卒業研究  
後期：児童心理学、教育相談（カウンセリングを含む）、専門ゼミナール、児童実践教育学特論Ⅱ、児童教育相談演習Ⅱ、特別研究、卒業研究
3. 直接に指導した学生  
学部学生：1年生50名、2年生60名、3年生76名、ゼミナール4年生5名、ゼミナール3年生6名  
大学院学生：修士2名・博士1名（大阪大学大学院連合小児発達学研究所）
4. 自己評価  
一斉講義とともにグループ討論・課題やロールプレイを用いた演習を行い、学生の主体的学修を促進した。ゲスト講師として小学校教諭を招待し学生の実践への意欲を高めた。先行研究や動画を取り入れた授業、論作文やパワーポイントを使った発表の取り組みを行った。評価は多視点による基準を設置して行った。

## 研究領域

1. 専門研究領域：ユニバーサル予防教育、ウェルビーイング教育、社会性と情動の学習(SEL)、子どもの認知行動療法、神経生理心理学
2. 研究課題
  - ① 認知行動療法（CBT）に基づく学校予防教育の効果比較研究
  - ② マインドフルネス子育て支援による保護者のメンタルヘルスの向上の研究
  - ③ 教員・指導員による発達障害の不安へのCBTを用いた支援の研究
  - ④ ウェルビーイング教育の研究
  - ⑤ 発達障害に対応する保護者プログラムの研究
  - ⑥ 子どものSEL介入が保護者と教員に及ぼす影響
3. 令和4年度分 研究業績一覧
  1. 論文・著書
    - ① ちばエコチル調査つうしん 2022 9月号 キット先生の豊かな心をはぐくむ子育て「サポートネットワーク」千葉大学予防センター
    - ② ちばエコチル調査つうしん 2023 3月号 キット先生の豊かな心をはぐくむ子育て「子どもの発達をサポートする」千葉大学予防センター
    - ③ Kato K., Matsumoto Y., & Hirano Y, (2022). Effectiveness of school-based brief cognitive behavioral therapy with mindfulness in improving the mental health of adolescents in a Japanese school setting: A preliminary study.

Front. Psychol. 13:895086. doi: 10.3389/fpsyg.2022.895086

④渡辺・小林・長谷川・児島・松本・澤海 (2022) デジタル社会における感情の発達と教育 学会企画シンポジウム7 教育心理学年報 61, 279-290

⑤瀧澤・松本 (2022) SEL プログラムを学校に導入する ソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL) 非認知能力を育てる教育フレームワーク第2章 福村出版

## 2. 学会・研究会

①高橋・南谷・松本 (2022) 思春期理解のためのマインドフルネス子育て支援プログラム」ファシリテーター養成講座の実践 日本発達心理学会第34回大会

②日本SEL研究第13回大会運営委員長

## 3. 知的財産権の出願・取得状況

特になし

## 4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金

科研基盤 (C) 18K02440 (H30・R1・R2) 研究代表者 石本雄真

科研基盤 (C) 20K03406 (R2・3・4) 研究代表者 松本有貴

科研基盤 (C) 21K03104 (R3・4・5) 研究代表者 南谷則子

科研基盤 (B) 21H03263 (R3・4・5・6) 研究代表者 細川陸也

科研基盤 (B) 22H00993 (R4・5・6・7) 研究代表者 渡辺弥生

## 5. 自己評価

科研基盤 (C) 20K03406 の研究代表者として計画した課題に取り組んだ。また、科研基盤 (C) 2 研究、基盤 (B) 2 研究の研究に研究代表者と連携して計画課題を進めた。理化学研究所脳神経科学研究センターより引き継がれた早稲田大学、総合研究機構社会的養育研究所の活動に参加した。大学院博士課程学生、修士課程学生の研究論文の指導ができた。

## 大学内運営

- ① 人間生活学部学生指導・支援委員会
- ② 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ③ 徳島文理小学校スクールアドバイザー
- ④ 児童学科：2年生担任、チューター (24名)、学生指導・支援担当

## 社会貢献

- ① 日本SEL研究会副代表理事
- ② 日本教育心理学会ハラスメント防止委員会面接委員
- ③ 早稲田大学社会的養護研究所養育者支援連絡協議会メンバー
- ④ 内閣府「子ども・若者支援地域協議会及び子ども・若者総合相談センター整備機能向上事業」アドバイザー
- ⑤ 一般社団法人日本レジリエンス教育研修センター理事
- ⑥ 令和4年度徳島県被災児童保育ボランティア養成講座講師
- ⑦ 令和4年度徳島県子ども・若者支援地域協議会講習会講師



## 個人情報

1. 氏名：岡山 千賀子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：児童学・子育て支援・レクリエーション
2. 学部授業担当科目  
前期：児童学原論、レクリエーション活動援助法Ⅰ、レクリエーション論、家庭科  
教育法Ⅰ、レクリエーション概論、レクリエーション実技①、レクリエーション実技②  
後期：家庭、レクリエーション活動援助法Ⅱ、レクリエーション実技・レクリエーション概論、専門ゼミナール、卒業研究、スポーツ・レクリエーション特講（集中）  
大学院：児童教育相談演習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学部学生： その他（1）名
4. 自己評価  
\* 学生指導：1年生学年主任として教育に尽力した。  
\* 就職対策：4年生4名に就職指導を行った。  
\* 採用試験対策：過去の試験問題や実技について適宜授業内で紹介し、教科では、実際の試験問題に取り組む時間を設定した。保育・教育対策講座（3・4年生対象）を担当した。  
\* 授業実践：実践力を身に付けるために、積極的にボランティア活動を推進した。事例解釈や実技を授業に取り入れたり、保育現場への見学・実践等を取り入れた。  
\* 最新の情報と資料を準備し、適宜ビデオやメディアを取り入れた。  
\* アクティブ・ラーニング：自著した「講義ノート」を活用し、その中で古文や新聞記事などを取り入れ、学生に自ら取り組み、考える力を付けるよう努力した。  
\* 児童研究「with children」担当。  
\* レクリエーション公認資格課程認定校講座担当として、資格取得申請に関する指導をした。「スポーツ・レクリエーション指導者」資格課程の指導を行った。（令和4年度は、44名の学生が受講した。）

## 研究領域

1. 専門研究領域：社会科学分野・児童学・家族領域
2. 研究課題及び概要；  
「子育て支援員の保育者効力感に関する研究」継続。子育て支援員の保育者効力感を上げるための課題に取り組む。  
レクリエーション・インストラクター資格・スポーツ・レクリエーション指導者資格者に必要な技術と知識に関する研究。
3. 令和4年度分 研究業績一覧  
【論文】

#### 4. 自己評価（成果、反省）

日本レクリエーション協会理事。日本レクリエーション協会からの依頼で講習会および全国公認資格認定委員の活動に取り組んだ。NPO 法人徳島県レクリエーション協会会長として、第77回全国レクリエーション大会 in 徳島 2023 の準備をした。

#### 5. 学位取得：博士（学術）甲11号

### 大学内運営

#### 1. 活動報告

- ①県内外高校へ出張講義・遠隔授業
- ②保護者会担当・ボランティア推進係（学科内）
- ③児童学科1年生学年主任・担任49名、児童学科1年チューター2名・2年チューター6名・3年チューター7名・4年チューター4名
- ④学内ボランティア担当

### 社会貢献

#### 1. 学会等への貢献：

- ①日本レクリエーション協会理事・同協会公認指導者資格課程認定校連絡協議会 監事・同協会全国公認資格認定委員
- ②徳島県レクリエーション協会会長、(レクリエーション・コーディネーター)
- ③日本消費者教育学会会員（中・四国支部役員）
- ④日本家政学会中国・四国支部機関幹事 第67回日本家政学会中国・四国支部研究発表会実行委員長及び優秀研究発表表彰選定委員長

#### 2. 地域社会への貢献：

- ①徳島県教育委員会生涯学習政策課、「学校を核とした地域の教育力強化推進委員会」、委員長
- ②徳島県教育委員会生涯学習政策課、「放課後児童健全育成委員会」、委員長
- ③徳島県県民環境部「徳島県放課後子ども総合プラン推進委員会」委員長
- ④徳島県県民環境部人権教育啓発推進委員
- ⑤徳島県県民環境部「子どもの事故防止委員会」委員
- ⑥徳島県立近代美術館協議会 委員長
- ⑦徳島県スポーツコミッション推進委員
- ⑧徳島県スポーツ王国とくしま推進会議委員
- ⑨徳島県あいらんど推進協議会理事
- ⑩徳島県スポーツ協会理事
- ⑪徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議委員
- ⑫徳島市都市計画マスタープラン策定市民会議委員
- ⑬徳島市総合計画・総合戦略推進委員会委員
- ⑭徳島市中心市街地活性化協議会委員
- ⑮小松島市みなとまちづくり計画検討会議委員
- ⑯徳島市身体障害者連合会理事

- ⑰徳島市パラスポーツ講習会コーディネーター
  - ⑱徳島県あすたむらんど徳島外部有識者委員会委員
  - ⑲NPO 法人徳島県レクリエーション協会、公認指導者（徳島県シルバー大学院講座講師）
  - ⑳徳島県立総合大学校まなびーあ登録講師
  - ㉑徳島県保健福祉部長寿こども政策局、「子育て応援の匠」
  - ㉒徳島県ウォーカー実行委員会委員
  - ㉓社会福祉法人 ハート福祉会評議員
  - ㉔社会福祉法人 悠林舎 福祉サービス評価機関評価委員
- \* その他、県・市町村における子育て支援、放課後児童健全育成指導等に関する講演会活動など



## 個人情報

1. 氏名：津守 美鈴
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：国語科、国語科教育法
2. 学部授業担当科目  
前期：国語科教育法Ⅰ、文学・文学A、児童文学、保育内容（言葉）A  
後期：国語（書写を含む）、保育・教職実践演習、専門ゼミナール、保育内容（言葉）B  
卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生：専門ゼミナール（9名）、卒業論文（5名）
4. 自己評価

学科に配置されたタブレットを有効活用するなどICT機器も有効に活用できる方途を探ろうとしたが、環境等が整わず活用することができなかった。そのため、他の方法も用いながら学修者参加型を意識した授業づくりに努めたが、その分教材研究や授業準備等に追われた感があった。

教員採用試験の講座については、ゼミ生だけでなく、小学校教員や保育士志望者をめざす学生等に対し、できる限りの時間を使って面接練習や論文指導、模擬授業練習をするなどの指導・支援をしたことが、多くの合格者を出すことにつながったと考える。後期は、3年生を中心とした児童学科独自の「対策講座」を計画・実施するなど来年度4年の学生に対しても、夢が実現できるよう、全力で支援をしていきたい。

卒業論文指導については、例年は3年生からテーマの確定と章立てをさせたり、卒業研究に関してしっかりとしたイメージや意欲を持たせたりするため、4年生が3年生を対象として卒論中間及び最終発表会を実施してきたが、本年度は状況を踏まえて実施を見送った。本企画は意義があると考えられるので、次年度こそ環境を整えるなどの工夫をしながら、実施できるように努めたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：教育方法、国語科教育
2. 研究課題及び概要

「主体的で対話的な深い学修のできる大学授業の可能性」

本学のいくつかの授業において、グループワークをできる限り導入し、協働・参加型の学修形態を試行してみるなど、実践的に可能性をさぐってきた。また、一人一台のタブレット等を用いてのグループワークを実施し、その効果の実践的な検証も行えるように試みようとした。しかし、本年度は、残念ながらなかなかうまくいかず、これと言った結果が得られなかった。今後は、「深い学び」につながる「対話（話す・聞く）」において、「能動的に聴く」ことの研究のために、全国的な理論・実践研究会に参加させていただき、知見を深めてきたい。

3. 令和4年度分 研究業績一覧
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

6. 自己評価

教育領域の自己評価にも記述したとおり、どうしても正課の授業や正課外の講座等、また、担任・チューター生への学生指導に費やす時間と労力が非常に大きいため、じっくりと研究に取り組むことが非常に困難な状況があると感じる。特に、本年度は、新型コロナの被害を一番受けている3年生を担当しているが、友だちづくりもうまくいかなかったため休みがちになっていった学生等問題を抱える学生も多く、その指導にも時間と労力を費やした感がある。

## 大学内運営

1 活動報告

- ① 児童学科3年主任76名、1年チューター2名、2年チューター6名、3年チューター9名、4年チューター6名
- ② 人間生活学部入試委員長
- ③ 入試作問委員
- ④ 全学教員養成対策委員会委員
- ⑤ 書道部顧問

## 社会貢献

1 学会等への貢献

国語教育実践理論研究会（KZ R）会員

2 地域社会への貢献

- ① 徳島県子どもの読書活動推進協議会委員長
- ② 徳島県令和4年度教科用図書選定審議会副委員長
- ③ 令和4年度用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクール審査員
- ④ 徳島県図書館サポーター養成講座講師
- ⑤ 国立大学法人徳島大学総合科学部非常勤講師

## 個人情報

1. 氏名：仁宇暁子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：図画工作科教育法、図画工作、美術A、保育内容
2. 学部授業担当科目：  
前期：図画工作科教育法2年、保育内容表現B2年、図画工作①1年、卒業研究  
後期：図画工作②1年、専門ゼミナール3年、美術A（総合政策学部、音楽学部、薬学部、人間生活学部 1、2、3、4年）芸術と人間（総合政策科）2、3年、卒業研究4年
3. 直接に研究指導した学部学生：6名（卒業制作、卒業論文指導）、その他9名
4. 自己評価

保育内容（表現B）、図画工作科教育法の今年度の授業は、すべて対面で行われた。図画工作①②及び美術Aでは、教科書として「アートのスイッチが入る感性トレーニング〜ほんの少しの制限で心が自由になる〜」を使用した。昨年度までは、描く・見ることの実践中心の授業であったが、教科書を効果的に使用することによって、画材の基本的な使用方法や技法、鑑賞の仕方や授業の組み立てのポイントなどを実践とともに描く意味や理論も学生に身に付けさせることが出来たように思う。模擬授業や模擬保育は、学生が主体的に活動し、感性を揺さぶる授業を行うことができるよう個別指導に時間をかけて対応した。現場で役立つための厳しい指導の中、学生は思った以上に事前の準備や試作をいくつも作り、模擬授業や模擬保育で素晴らしい成果を上げた。

一年間を終えて、どの授業も学生が美術に対する苦手意識が軽減し、楽しんで自己表現できるようになった。また、今年度もクラスルームで授業の振り返りを毎回行うことで、個別にアドバイスや返答を丁寧に行い学生の意欲を引き出すきっかけになったように思う。

## 研究領域

1. 専門研究領域：  
美術教育（感性トレーニングによる心と形の関係性について）  
芸術（絵画、桜の花びらをモチーフにテンペラ溶剤を使用した抽象絵画の研究、インスタレーションと抽象画）
2. 研究課題及び概要：
  - ・図画工作科における、「感性トレーニング」が子どもの心と表現に及ぼす効果
  - ・創造の一過程としての石膏デッサンの可能性
  - ・桜の花びら、藍染、キャンバス作品による「命の尊さ」の平面表現、インスタレーションによる空間表現
3. 令和4年度分研究業績一覧  
【論文・個展】：

## 第 69 回形象派美術協会展出品

【著書】：「アートのスイッチが入る感性トレーニング~ほんの少しの制限で心が自由になる~」日本文教出版 2022 年 4 月

### 4. 自己評価

「感性トレーニングによる人の心の変化と表現の効果」について著書を完成することが出来た。今後はそれをいかに活用して「人の内にある芸術に触れ、より多くの人々がウェルビーイングな生活ができるか」を芸術関係や理学療法、絵画療法などの分野の方達と連携しながら幅を広げながら追求する必要がある。

## 大学内運営

### 1 活動報告（委員会委員、担任等）

- ・人間生活学部 就職支援委員会担当
- ・児童学科広報担当
- ・児童学科オープンキャンパス担当
- ・全学共通教育センター講座・児童学科対策講座
- ・児童学科 4 年生担任 62 名、チューター生 23 名（1 年生 5 名、2 年生 6 名、3 年生 6 名、4 年生 6 名）

## 社会貢献

1. 学会への貢献等：学会に該当しないが、美術団体としての貢献は、日本形象派美術協会 審査委員長並びに研修委員長を務めた。
2. 学校への貢献：
  - ・国立台北教育大学と児童学科の交流締結 5 年目、作品で交流を行った。
  - ・徳島市教育委員会主催のコンクールなどの審査委員を務めた。
  - ・全国教育美術展 地方審査委員を務めた。
3. 地域への貢献：
  - ・全国公募展「AWA 現代アート展」の審査員を務めた。
  - ・三好市で 2 歳から 100 歳までを対象に「元気になる絵画ワークショップ」を月に 1 度行った。
  - ・徳島市の公民館で地域の住民や不登校の児童生徒を対象に絵画ワークショップを毎月 3 回開催した。
  - ・とくしま動物園の写生大会などの展覧会審査員を務めた。



## 個人情報

1. 氏名：川端恵子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：幼児教育
2. 学部授業担当科目  
前期：保育内容（環境）A、保育内容（人間関係）A、事前・事後指導①  
乳児保育、児童文化  
後期：保育内容（環境）B、保育内容（人間関係）B、専門ゼミナール、事前・事後指導②、保育・教職実践演習、幼児理解
3. 直接に研究指導した学部学生：7名
4. 自己評価
  - ・保育内容の指導において「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載内容がしっかりと理解できるように留意するとともに、幼児期の特性や小学校以降の学び方との違いについての理解や認識が深まるように努力した。
  - ・学生の理解度を考慮したり応答的に授業を進めたりすることに配慮した。また、授業後の学びや感想、ワーク等の提出物により理解が不十分だと感じた内容については再度振り返り説明を加えるなどして確実な学びとなるように配慮した。
  - ・ビデオ・スライドなどを活用し視覚を通して学ぶことや、グループで学習し発表する機会を設けることで、楽しい授業を目指した。
  - ・幼稚園の現場での経験を生かし、実際の幼児の姿や事例を多く取り入れ理論と関連付けた授業を展開することに努めた。学生が実習で経験したことを事例に仕上げ、考察を基にディスカッションした経験は有意義であったと考えている。
  - ・特に、4年生の授業では実践的な内容を中心とし、保育現場で応用できるよう配慮するとともに、保育の現場で求められる保育者としての資質を高めることに意識において授業内容や演習内容に留意した。模擬保育の後、現場で行われているような協議会の形式を模擬的に取り入れて学んだこともリアルで好評だった。
  - ・理論面においては新たに学ぶことや研究すべき事項も多々あった。教材研究は私自身の向上につながっており、次年度にもより良い授業を目指して取り組んでいきたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：保育内容
2. 研究課題及び概要
  - ①「幼児期における道徳性・規範意識の芽生えについて」

近年の生活環境の変化が、子どもの成長・発達においてどのように影響を及ぼしているかについて研究を深めていきたい。とりわけ、道徳性・規範意識等が培われることについては、担当科目の保育内容（人間関係）と重なり興味深く感じている部

分であり、今後研究を深めたいと考えている。

②「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等について理解を深め、各幼児教育施設での教育・保育の在り方について引き続き研究していきたい。

3. 令和4年度分 研究業績一覧

4. 知的財産権の出願・取得状況： なし

5. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況： なし

6. 自己評価

幼児期における道徳性・規範意識の芽生えについて、著名な研究者の考えを参考にしながら私自身の実践を基にした理論を深め、学生への指導に生かしていきたい。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が定着しつつある中、保育の現場では幼児に対しての虐待や事故のニュースも耳にしている。このことを踏まえ、質の高い保育ができる保育者を育成すること、使命感や情熱のある保育者の育成に特に力を入れて授業に臨むことができたと感じている。

## 大学内運営

1. 活動報告

- ① オープンキャンパス担当
- ② 児童学科2年Aクラス担任
- ③ 1年チューター2名、2年チューター5名、3年チューター9名、4年チューター7名
- ④ 幼・保採用試験対策へのサポート

## 社会貢献

1. 学会等への貢献

日本保育学会会員

2. 地域社会への貢献

- ① 徳島県幼児教育推進体制構築事業調査研究実行委員
- ② 徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー
- ③ 徳島県幼稚園等新規採用教諭研修会委員
- ④ 令和4年度就学前人権教育研究大会指導助言（10/31）
- ⑤ 令和4年度鳴門市幼稚園教育研究協議会講師（11/2）
- ⑥ 令和4年度幼稚園教諭免許法認定講座講師（11/2）
- ⑦ 保育士試験（言語）審査員（6月・12月）

## 個人情報

- 1 氏名：土岡 大介
- 2 職位：准教授

## 教育領域

- 1 教育の担当専門領域：健康・スポーツ，スポーツ科学，運動方法，幼・児童体育
- 2 学部授業担当科目  
前期：体育②（児童 3ABC）健康スポーツ A（建築 1，心理 1A，心理 1B，児童 1B），児童保健学特論Ⅱ，児童保健学演習  
後期：健康スポーツ B（理学療法 1B，食物栄養 1A，総合政策 1A，総合政策 1B，口腔保健 1，人間福祉 1，保育 1），児童保健学特論Ⅰ
- 3 直接に研究指導した学部学生
- 4 自己評価

対面授業が再開され、実技の取り扱いについては感染対策をしながら従来通りに戻りつつある。しかし、学生が実際にスポーツに取り組む様子や放課後の運動系部活動の実施状況もここ数年低調であり、すぐに疲れてしまう学生が多く、また年間を通じて活動している部活動も減少していると実感している。授業ではこれまで通り運動不足な生活状況を想定し、ケガや体調不良者が出ないように強く配慮すると共に、運動強度や活動時間を調整しつつ、時間をかけて到達目標へと導くように内容を工夫・調整した。授業内でもコンディショニングにかかる時間を増やし、日常生活の中においても習慣化できるよう安全に実施できるストレッチや簡単なトレーニングの内容を随時紹介し、継続的にコンディショニングに取り組んでもらうことによって、徐々に運動不足の解消に繋げていく取り組みを続けている。特に今年はスポーツを通じて他者との積極的な関わりもつことを苦手とする学生が多く、その導きに苦慮する場面も多々あった。今後の授業課題として様々なスタートモデルの作成を更に進めていきたいと考える。

## 研究領域

- 1 専門研究領域  
健康・スポーツ科学，運動方法学(バレーボール)，指導者養成
- 2 研究課題及び概要：
  - ・幼児を対象とした体力・運動能力の向上に関する研究（継続）
  - ・バレーボール競技力向上・公的資格を持つ指導者育成に関する研究（継続）
  - ・バレーボール競技人口の拡大・普及発展に関する研究（継続）
- 3 令和4年度分 研究業績一覧
  - ・「フォーメーション（基礎）」令和4年度公益財団法人日本スポーツ協会，全国大学生対象公認バレーボールコーチ1養成講習会，日本体育大学，2023.3
  - ・「第25回全国ヤングクラブバレーボール優勝大会パンフレット」，製作編集責任者，日本バレーボール協会，同指導普及委員会，全64ページ，2022.9
- 4 知的財産権の出願・取得状況
- 5 自己評価

スポーツ庁，JOC，JSP0 正加盟の中央競技団体である公益財団法人日本バレーボール協会の指導普及委員会副主事として，他の中央競技団体や各都道府県バレーボール協会とも連携し，公認指導者資格を持つ指導者の育成に努めている。スポーツを取り巻く環境も少しずつ従来の活動に戻りつつあるが，全国のスポーツ活動や大会，研修・講習会を含め，未だに実施・開催様式を模索しながら段階的な再開に向けての努力が続いている。現在もスポーツ分野に関連した講演・講習会など，昨年に引き続いて遠隔配信での開催が推奨さ

れ、対面でしか実施出来ない内容についてのみ、集合研修としているのが現状である。遠隔配信形式による講習会などを企画・運営する体制も徐々にまとまった体制となり、公的なスポーツ指導者資格を認定することができた。しかし、遠隔での講習会などにおける実技などの取り扱いについては、まだまだ不完全な要素が多く、JSPO 日本スポーツ協会とも連携し、その質的保証について議論を継続している。他の中央競技団体とも連携を深めながら、遠隔・対面の両輪での講習会内容の充実を図っていきたい。また、今後も継続して専門的な知識・指導方法を身につけた指導者の育成を進めると共に、指導者を育成・指導する資格である「公認講師」資格取得者の増員を進めていきたいと考える。

## 大学内運営

### 1 活動報告

- ・教員採用試験対策講座担当(体育実技)
- ・全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ・防火・防災管理委員会委員 7号館責任者, 6号館 AED 管理責任者
- ・大学院人間生活学研究科児童学専攻入試問題作成
- ・スポーツ推薦入試・高校訪問担当, 入試面接担当
- ・附属幼稚園特設保育体育あそび教室講師(平成15年より毎年約35回実施)
- ・男女バレーボール部部长, 女子バレーボール部監督, 週5~6日指導
- ・女子バレーボール部の公式戦(県, 四国, 中国四国, 西日本)遠征合宿引率
- ・バレーボール強化練習会・合宿の受入, スポーツOCの実施
- ・6号館体育館の使用申請責任者・管理業務, 火元責任者
- ・8号館トレーニングセンターでのトレーニング指導, トレーニングマシン管理
- ・体育科カリキュラム作成に関わる業務・用品申請管理
- ・学内体育設備管理 等

## 社会活動

### 1 地域社会への貢献

- ・徳島県国際スポーツ局スポーツ振興課 競技力向上プロジェクト推進委員
- ・徳島県あわスポーツ医科学強化プロジェクト推進委員
- ・公益財団法人 日本バレーボール協会 国内事業本部指導普及委員会副主事
- ・公益財団法人 日本バレーボール協会 公認講師認定審査員
- ・JSPO 日本スポーツ協会 公認コーチ認定審査員(バレーボール専門科目)
- ・日本ヤングクラブバレーボール連盟理事, 事務局
- ・第25回全国ヤングバレーボールクラブ優勝大会運営開催統括, 参加者数2037名
- ・全日本大学バレーボール連盟女子強化委員
- ・西日本大学バレーボール連盟学識理事
- ・西日本大学バレーボール学連女子選抜対抗戦, 四国選抜女子チームコーチ
- ・第77回国民体育大会バレーボール成年女子競技, 徳島県指導スタッフ
- ・四国大学バレーボール連盟副会長
- ・四国地区大学体育連盟理事
- ・四国大学総合体育大会実施委員会委員
- ・徳島県バレーボール協会参与, 一貫指導体制推進委員
- ・徳島県大学バレーボール連盟会長
- ・国立大学法人 鳴門教育大学・大学院 学校教育研究科(非常勤)
- ・国立大学法人 徳島大学 教養教育院(非常勤)

## 個人情報

1. 氏名：林向達
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報教育、教育学
2. 学部授業担当

前期：教育方法・技術論、情報処理、保育原理

後期：教育方法・技術論、情報科学、情報ネットワーク論、保育原理、専門ゼミナール

3. 直接に研究指導した学部学生：

学部：3年生7名（専門ゼミ）、4年生3名（卒業研究／チューター指導）

4. 自己評価：

講義等は対面授業形式に戻り、オンラインの授業支援システムをそのまま活用継続している。コロナ禍で学校教育全体の在り方を見直す議論も起り、教職現場の厳しさについても世論が共通認識を持つようになってきた。そのような中で教員養成を行なうことの難しさについて意識しながらも、変化を取り入れながら基本的な事柄を大事にする授業を行なった。

専門ゼミナールでは、地域連携の催事をゼミ活動として全員参加する形で進めた。対外的なやりとりや、催事の企画運営などを通して、社会との関わる態度を実践的に学ぶことを目指した。

卒業研究は、一名が世界の教員の働き方の教育に関するテーマで論文執筆を行なった。様々な文献資料を読みこなすことの難しさを感じながらも、論文を完成させた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：教育工学、教育情報化史、教育課程論
2. 研究課題及び概要：デジタル教材開発、教育と情報の歴史資料収集と整理
3. 令和4年度分、研究業績一覧

① [学会発表] 林向達「電子マネー決済シミュレーション教材の開発」日本教育工学会 2022年春季全国大会（2022年3月19日）

② 「令和時代の学校 ICT 論」（「所報 2022」神奈川県教育文化研究所 14-20 2022年5月31日）

5. 自己評価

当該年度は、前年度から「ネットワーク基盤を利用するツールを利用した電子マネーシミュレーション教材」で東京学芸大学附属小金井小学校 ICT 部会の小池翔太教諭との協力を継続した。また、徳島新聞社主催のプログラミング教室でも教材利用した実践を行なった。

た。また教育データに関する議論に対応するため文献調査等を行っていた。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

- ①児童学科1年生学年担任
- ②入学前教育担当

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

- ・文部科学省 ICT活用教育アドバイザー（2022年4月 - 2023年3月）
- ・文部科学省事業「教育データ標準に関する連絡協議会」委員（ICT CONNECT21 受託）
- ・文部科学省事業「学習指導要領コード利活用に関する調査研究・専門家分科会」委員（ICT CONNECT21 受託）
- ・学習ソフトウェア情報研究センター「学習デジタル教材コンクール」審査委員
- ・その他、外部委託業務あり

### 2. 地域社会への貢献

- ①徳島新聞社「小学生プログラミングコンテスト」審査委員
- ②徳島新聞社「小学生プログラミング教室」（2023年2月19日開催）講師

以上

## 個人情報

1. 氏名：那住 公子
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：英語科・英語科教育法・小学校英語教育
2. 学部授業担当科目  
前期：英語 A①(薬学 1 年、児童 1 年)、外国語科教育法  
後期：英語 A②(薬学 1 年、児童 1 年)、児童英語活動指導法、小学校英語、英語科教育法、専門ゼミナール、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生：7 名（専門ゼミナール）、2 名（卒業研究）
4. 自己評価

昨年度より授業の「振り返り」は、毎時間、遠隔授業、対面授業にかかわらず classroom で行っている。紙媒体よりも classroom で行う方が利便性も高く、学生の質問にも丁寧に答えられるので、これからもこの方法を続けたい。

一般教養科目の英語 A に関しては、これまで同様、児童学科と薬学部では、使用テキストを買っている。児童学科は、小学校や幼稚園など児童を接する時に使用できる英語を多く取り入れているテキストを採用し、薬学部においては理系の英語を扱っているテキストを採用している。

「コミュニケーションのための英語」の重要性を学生にも理解してもらうため、授業では、ペア活動やグループ活動を取り入れている。また多くの英語科目（英語 A、小学校英語、外国語科教育法）において、実技テストを実施した。英語 A においては音読テストを実施し、外国語指導法と小学校英語の授業では、Show and Tell を実施した。

昨年度に比べ、本年度は言語コミュニケーション学科の「英語科教育法」の授業が増え、それぞれの学部や学科に必要な英語は何かを考えて授業を計画するため、教材研究や授業準備に膨大な時間がかかるが、大切なことなので今後も続けていきたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：英語教育、フォニックス、リフレクティブ・プラクティス
2. 研究課題及び概要

### ① 「リフレクティブ・プラクティス」

大学の授業で実践している「振り返り」や全学授業アンケートを活用して、授業がよりよいものとなるように研究をしていきたいと考えている。

### ② 「フォニックス」

アナリティックフォニックスだけではなく、新たにシンセティックフォニックスについて知る機会を得たので、授業でも活かしていきたい。

### ③ 「英語教育」

小学校教員を養成する児童学科の英語科担当者として、さらに中学校英語教諭免許取得のための授業担当者として、どのようなことが必要か研究していきたい。

本年度も研究大会への対面での参加は、かなわなかった。今後とも書物等を読んで研修・研究していきたい。

### 3. 令和4年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書：特になし
2. 学会発表：特になし
3. 知的財産権の出願・取得状況：特になし
4. 令和4年度分科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし
5. 自己評価

中学校英語免許取得をめざす学生の英語検定対策講座の開設を前期は4コマおこなうことができたが、後期は2コマしかできなかった。授業数が前期より後期にかたよっていることも要因の一つであるが、本年度からあたらしく言語コミュニケーション学科の英語教育法を担当することになり、授業準備に時間がかかったことも事実である。今年も毎日の授業準備や英語検定対策、学生指導などを研究に優先させ、形ある研究は残せなかった。日々の実践のことを研究にまとめられるような方法を考えいくべきだと考えている。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

- ① 児童学科3年Bクラス担任
- ② 1年チューター生3名 2年チューター生8名 3年ゼミ生7名  
4年ゼミ生5名、
- ③ 児童学科オープンキャンパス主担当
- ④ 児童学科新入生セミナー担当
- ⑤ 全学共通教育センターの学習支援アドバイザー
- ⑥ 児童学科小学校採用試験対策へのサポート
- ⑦ 児童学科中学校免許取得希望者対象者への英語検定対策講座とサポート

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

徳島大学英語英文学会会員  
鳴門教育大学英語教育学会会員  
四国英語教育学会会員  
全国英語教育学会会員

### 2. 地域社会への貢献

令和4年9月20日 阿南市中学校英語弁論大会審査員



## 個人情報

1. 氏名：定國 雅洋
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：算数科，算数科教育法，生活科，生活科教育法，道德教育
2. 学部授業担当科目  
前期： 算数科教育法（児童3年），生活科教育法（児童2年）  
教育方法・技術論（食物栄養・心理 他），教育方法・技術論（人間生活 他）  
後期： 算数科（児童2年），生活科（児童1年），道德教育（児童3年）  
教育学特講 I（児童3年），専門ゼミナール（児童3年）  
教育方法・技術論（保育科），卒業研究
3. 直接研究指導した学部学生：7名（専門ゼミナール） 7名（卒業研究）
4. 自己評価
  - ・ すべての授業において情報通信技術を用い，教師と学生，学生同士の双方向型の授業を指向した。今年度は，新規に iPad を導入，設定し，教科教育法を中心に活用した。加えて昨年度から利用している授業支援システムに加え「ロイロノートスクール」を用いるなどし，学生自身が GIGA スクール時代の学校教育に対応できる力を培えるよう努めた。今後，活用の範囲を一層広げていきたい。
  - ・ 専門ゼミナールでは，教育の情報化，小学校プログラミング教育等について学生の一人一台端末環境における情報活用能力向上を図った。加えて，IoT デバイスを導入することにより，より具体的な学びにつなげることが出来た。
  - ・ 教員養成課程で求められている「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」についても，実践することが出来た。

## 研究領域

1. 専門研究領域：教科教育（算数科），情報教育
2. 研究課題及び概要  
「一人一台端末環境時代の情報活用能力の育成」  
学習指導要領や中教審答申「令和の日本型学校教育」等の主旨を踏まえつつ，地域の小学校と連携しながら，小学生の情報活用能力の育成について，研究をすすめてきた。今年度は，一人一台端末環境時代における学校放送番組の活用のあり方等について，単元設定や授業デザイン等についての支援をするなかで，そのあり方や具体的手法等に関する知見を蓄えることができた。
3. 令和4年度分 研究業績一覧：なし
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価  
小学校段階で求められる情報活用能力の育成について，学校現場と連携しながら，よりよい実践につながる研究を心がけている。そのために，現場で必要とされている ICT 環境

整備や教員研修等についても、実情を踏まえながら引き続き研究を深めていきたい。  
今後、研究課題についての取組を論文にまとめることができるよう努めたい。

## 大学内運営

### 1. 活動報告（委員会委員，担任等）

- ① 広報委員会委員
- ② 児童学科4年担任（51名）
- ③ チューター（22名）1年（8）名，2年（0）名，3年（7）名，4年（7）名
- ④ 小学校教員採用審査対策支援

## 社会貢献

### 1. 学会への貢献

コンピュータ利用教育学会（CIEC）会員

### 2. 学校への貢献

- ・小松島市南小松島小学校研修講師

### 3. 地域への貢献

- ・令和4年度徳島県放送教育夏季研究大会 指導助言
- ・第52回放送教育研究会四国大会（徳島大会），第52回徳島県小学校放送・情報教育研究大会，子供の学びを深化させる EdTech 活用推進事業Ⅲ公開授業 指導助言
- ・徳島新聞社「小学生プログラミングコンテスト」審査委員

## 個人情報

1. 氏名：金子 紗枝子
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育心理学，認知心理学，学校心理学，保育心理学
2. 授業担当科目  
前期 【短期大学部】 保育内容（言葉）A，保育の心理学 I，教育心理学，教育相談（カウンセリングを含む）  
後期 【学部】 幼児理解，保育の心理学 II，教育心理学  
【短期大学部】 保育の心理学 II
3. 直接に指導した学生：チューター担当 21 名，子どもの学び支援センターでの指導 20 名。
4. 自己評価  
今年は授業のほとんどの回を対面で行ったが，学生が学習しやすいよう引き続き Google Classroom を通じて課題や資料の配布を行った。授業評価アンケートの結果はおおむね好意的であった。今後は新型コロナウイルスの状況や学生の状況なども鑑みつつ，対面でのグループワークも積極的に取り入れていきたい。

## 研究領域

1. 専門研究領域：認知心理学，教育心理学，学校心理学。特に認知心理学の知見を踏まえた学習方法について研究している。また学習に困難を抱える子どもへの支援活動の実施や，その活動が支援実施者へ及ぼす影響についても検討している。
2. 研究課題及び概要  
① 「テストに取り組むこと」が学習を促進するという現象について，学習者の能動的な情報処理（検索）の観点から，そのメカニズムの解明と教育活動への利用について研究している。  
② 認知カウンセリング（認知心理学の知見をふまえた学習支援活動）について，より良い支援方法，および支援者として参加する大学生の教職意識や力量の形成に及ぼす影響について検討している。
3. 令和 4 年度分研究業績一覧  
【学会発表】  
瀧澤悠・松本有貴・山根隆宏・石本雄真・澤田葉月・金子紗枝子・細川陸也 多様な場で感情と社会性を育む SEL 実践—SEL の可能性を探求する (1) — 日本教育心理学会第 64 回大会 2022 年 8 月 10 日～9 月 10 日 オンライン開催（シンポジウム 話題提供者）
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和 4 年度分科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況  
科研費（若手研究）「主体的な学習はなぜ効果的なのか—誤検索効果を用いた検討」

#### 研究代表者

科研費（若手研究）「誤情報記憶による学習促進：応用のための研究」研究代表者  
科研費（基盤研究（C））「学習におけるエラーの記憶の役割」研究分担者

#### 6. 自己評価

研究課題①については、今年度は学会等での成果発表ができなかったが、来年度中の発表を予定している。

研究課題②については、これまでの活動内容を学会のシンポジウムで発表し、参加者から多くのコメントを得ることが出来た。得られたコメントは、今後のきらきらルームの活動や研究に活かしていきたい。

#### 大学内運営

児童学科1年生担任

1-4年生チューター

学科内子どもの学び支援センター「きらきらルーム」支援員

#### 社会貢献

##### 1. 学会への貢献

特になし

##### 2. 地域社会への貢献

令和4年度地域子育て支援ネットワーク研修会 講師（「心理面・学習面における子どものつまずきの理解 ～心理学を活かして～」6月27日

徳島県社会福祉審議会 委員（児童福祉専門分科会）

## 第4節 メディアデザイン学科

### 個人情報

1. 氏名：篠原 靖典
2. 職位：教授

### 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 総合領域 情報学 知能情報処理
2. 学部授業担当科目  
前期  
メディアデザイン通論、専門ゼミナールⅠ、Webプログラミング入門  
情報システム演習Ⅰ、プログラミング入門、卒業研究  
  
後期  
情報セキュリティ論、専門ゼミナールⅡ、Webプログラミング応用  
情報システム演習Ⅱ、プログラミング応用、応用データベース、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生： 卒業論文 (3) 名
4. 自己評価：
  - ・Web 教材やパワーポイント等の資料や教材を用意し、内容の理解度を伸ばすように工夫した点が評価される。
  - ・学外の企業や徳島県内の行政機関行政などと連携し、地域貢献事業に積極的に参加し課題発見型授業を実践することができた。さらに、その実績は高く評価された。
    - ・遠隔講義において教育の質を担保し、一定の成果を得ることが出来た。

### 研究領域

1. 専門研究領域：  
総合領域 情報学 知能情報処理
2. 研究課題及び概要  
「ニューラルネットワークを用いた画像の領域分割に関する研究」  
「電子書籍開発」 「インターネットを利用したインタラクティブ学習」
3. 令和4年度分 研究業績一覧  
論文・学会発表
4. 令和4年度分  
科学研究費補助金

各種助成金等の申請  
交付状況

#### 5. 自己評価

- ・専門的知識を用いて学内の共同研究をサポートした。
- ・行政との連携による地域再生・活性化事業において、役割を果たすことができた。

### 大学内運営

#### 1. 活動報告：

- ・メディアデザイン学科長
- ・大学院生活環境情報学専攻 専攻主任
- ・自己点検・評価委員会（認証評価委員会）
- ・教務委員会委員
- ・教員養成対策委員会委員
- ・情報センター副所長
- ・防火・防災管理委員
- ・中期目標策定委員
- ・災害時初期対応者
- ・履修ガイド編集委員
- ・保護者会とりまとめ
- ・1年生～4年生チューター
- ・本学入試監督・面接
- ・大学入学共通テスト監督

### 社会貢献

#### 1. 地域社会への貢献

- ・e-とくしま推進財団 評議員
- ・徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会 副部会長
- ・徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会委員
- ・とくしまOSS普及協議会 幹事
- ・徳島県警察との連携事業「ネットウォッチャー」事業実施
- ・徳島県警察との連携事業「情報発信ウォッチャー」事業実施
- ・徳島県個人情報保護審査会委員
- ・人権啓発映像コンテンツ審査委員

## 個人情報

1. 氏名：古本 奈奈代
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：社会調査・統計解析 プレゼンテーション論
2. 学部授業担当科目：  
前期：メディアデザイン通論，プレゼンテーション技法，社会調査論，社会調査研究Ⅰ，専門ゼミナールⅠ，卒業研究  
後期：生活と情報B，社会調査研究Ⅱ，プレゼンテーション演習，プレゼンテーション論，専門ゼミナールⅡ，卒業研究，看護研究Ⅱ（看護学研究科）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（2）名
4. 自己評価：
  - ① 講義全般においてスライド教材作成、補助教材プリントの作成により学生の理解を助けるように努め、授業評価アンケートにおいて成果が確認された。
  - ② 社会調査士資格認定校として社会調査関係の認定科目を指導し、特に「社会調査研究Ⅱ」においては少人数グループによるフィールドワークを実施し、報告書をまとめることにより資格取得希望者全員が資格を取得することができた。
  - ③ 学外の企業や徳島県内の行政機関行政などと連携し、地域貢献事業に積極的に参加した。課題発見型授業を実践することができたと同時に、その実績は高い評価を得た。
  - ④ 人間生活各研究科後期課程において研究指導を行い、論文博士（学術）1名を輩出した。
  - ⑤ 遠隔講義において最大限教育の質を担保する工夫を行い、一定の成果を得ることが出来た。

## 研究領域

1. 専門研究領域：数学 数学一般（確率論・統計数学）
2. 研究課題及び概要：
  - ① ランダムデータの統計的処理とその応用に関する研究
  - ② 教育従事者における自己評価とその再教育に関する研究
3. 令和4年度分 研究業績一覧：  
論文  
①色彩環境が学習活動にもたらす影響-学習空間と用紙の色彩について：徳島文理大学紀要第105号  
  
学会発表
4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

5. 自己評価:

- ① 調査分析の専門家を認定する社会調査士資格取得者を輩出することができた。
- ② 調査分析に関する専門的知識を用いて他学部他学科の研究をサポートした。
- ③ 徳島県が推進する地域再生事業に対する大学の役割を遂行することができた。

**大学内運営**

1. 活動報告:

- ① 人間生活学部教育研究委員会
- ② 全学FD委員会
- ③ 本学入学試験
- ④ オープンキャンパス
- ⑤ 担任・チューター

**社会貢献**

1. 地域社会への貢献:

- ① e-とくしま推進会議委員
- ② 徳島県総合計画審議会委員
- ③ 徳島県環境審議会委員
- ④ 徳島県科学技術県民会議委員
- ⑤ 徳島県新事業分野開拓者認定審査委員
- ⑥ 徳島県地域情報化表彰審査会委員
- ⑦ とくしま障がい者雇用促進県民会議委員
- ⑧ 徳島県地域情報化表彰審査会委員



## 個人情報

1. 氏名：加治 芳雄
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報学基礎、ソフトウェア、情報ネットワーク、データベース、知能情報学
2. 学部授業担当科目  
前期：情報通信ネットワーク論、情報データベース、情報処理Ⅰ、メディアデザイン通論、情報システム論A、オペレーションズリサーチ、プログラミング論B、専門ゼミナールⅠ  
後期：プログラミング論A、情報数学、コンピュータネットワーク論、コンピュータネットワーク演習、情報システム論B、専門ゼミナールⅡ
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 2名
4. 自己評価：  
これまでの反省を活かして授業改善等に取り組んだ。昨年度同様、授業で説明した内容等の振り返りができるよう、講義時の説明をGoogle Classroomのストリームに記載するとともに、講義資料としてパワーポイントによる資料を作成した。また、プログラミング系の演習科目等も遠隔で演習できるよう工夫した。

## 研究領域

1. 専門研究領域：生体医工学、生体情報工学、認知科学、知能情報学
2. 研究課題及び概要
  - 1) 脳波を利用した脳機能解析
  - 2) 医用福祉分野への応用に関する研究

## 令和4年度分 研究業績一覧

### 1. 学術論文

- 1) Shoichiro Fujisawa, Masaki Okegawa, Kenji Sakami, Jyunji Kawata, Yoshio Kaji, Mineo Higuchi, Shin-ichi Ito, Jiro Morimoto : On the stimulation and visibility by blinking light emitting block for low vision, Human Factors in Accessibility and Assistive Technology, Vol. 37, pp.1-7. 2022
- 2) Shoichiro Fujisawa, Jyunji Kawata, Jiro Morimoto, Yoshio Kaji, Mineo Higuchi, Masayuki Booka : Relationship between tire pressure and ride comfort of manually self-propelled wheelchairs, Human Factors in Accessibility and Assistive Technology, Vol. 37, pp. 152-157. 2022

### 2. 学会発表

- 1) 由村 慶介, 芥川 正武, 榎本 崇宏, 七條 文雄, 加治 芳雄, 木内 陽介 : 定常状態視覚誘発電位(SSVEP)の検出率と基礎律動の関連性検討, 電子情報通信学会技術研究報告(ME とバイオサイバネティクス), Vol.122, No.130, 1-5, 2022年7月.

- 2) 藤澤正一郎, 十鳥峻輔, 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 坊岡正之 : 凹凸面を走行する車いすの振動と乗り心地について, 2022 年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, pp. 196-199, 2022 年 8 月.
- 3) 加治芳雄, 山本由和, 河田淳治, 森本滋郎, 藤澤正一郎 : 簡易測定装置を利用した認知機能の調査, 2022 年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, pp. 200-201 2022 年 8 月.
- 4) 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 360° カメラ映像を用いた視線入力型電動車いすの制御, 2022 年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, pp. 202-204 2022 年 8 月.
- 5) 森本滋郎, 村川昂弘, 藤田浩基, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 脈拍に基づく感情推定の試み, 2022 年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, pp. 644-646 2022 年 8 月.
- 6) 近藤紀文, 堀尾誠, 中川えんじゅ, 森本滋郎, 加治芳雄 : 平面配置スピーカと前後音量バランスを用いた音楽鑑賞時の主観評価実験, 令和 4 年度 電気・電子・情報関係学会 四国支部連合大会 講演論文集, p. 178, 2022 年 9 月.
- 7) 藤澤正一郎, 坂見健二, 西森翔矢, 熱田好古, 森本滋郎, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 伊藤伸一 : 弱視者の移動を支援する点滅光の開発, 第 23 回システムインテグレーション部門講演会 (SI2022) , pp. 1328-1332, 2022 年 12 月.
- 8) 十鳥峻輔, 多田碩家, 谷口蒼真, 三原諒也, 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎, 坊岡正之 : 手動式車いすの振動と乗り心地の検証, 第 23 回システムインテグレーション部門講演会 (SI2022) , pp. 1333-1335, 2022 年 12 月.
- 9) 森本滋郎, 村川昂弘, 藤田浩基, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 介護ロボットのコミュニケーションシステムにおける感情推定の試み. 第 23 回システムインテグレーション部門講演会 (SI2022) , pp. 1342-1344, 2022 年 12 月.
- 10) 西森翔矢, 熱田好古, 森本滋郎, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 坂見健二, 藤澤正一郎, 伊藤伸一 : 照度の違いによる点滅光の視認性について, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-22-100, 2022 年 12 月.
- 11) 多田碩家, 十鳥峻輔, 谷口蒼真, 三原諒也, 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎, 坊岡正之 : 車いすの走行時の振動と乗り心地について, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-22-101, 2022 年 12 月.
- 12) 森本滋郎, 堀尾誠, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 脈拍を利用した感情推定の試み, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-22-103, 2022 年 12 月.
- 13) 加治芳雄, 山本由和, 河田淳治, 森本滋郎, 藤澤正一郎 : 暗算負荷時における認知機能の調査, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-22-104, 2022 年 12 月.

- 14) 堀尾誠, 森本滋郎, 加治芳雄, 河田淳治 : 接触型高速予測式体温計のアルゴリズム開発, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-22-107, 2022年12月.
- 15) 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 360度カメラの視線入力電動車いすへの応用, 電気学会 制御研究会「ヒューマンサポートシステムのための情報・制御技術, および制御一般」, CT-22-108, 2022年12月.

### 3. 知的財産権の出願・取得状況

記載事項なし

### 4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

記載事項なし

### 自己評価

学会・研究会などで成果を発表できた。今後も継続して努力したい。

### 大学内運営

#### 活動報告

- 1) 4年生学年担任、チュータ担当(1年6名、2年5名、3年8名)
- 2) 広報委員
- 3) 入試業務
- 4) オープンキャンパス：模擬授業担当(4回)

### 社会貢献

1. 学会等への貢献
  - 1) 電子情報通信学会四国支部学生会顧問(2015年4月～)
2. 地域社会への貢献
  - 1) SMART 運営委員 (2007年4月～)



## 個人情報

1. 氏名：山城 新吾
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域  
総合領域 科学教育・教育工学 教育工学  
総合領域 情報学 情報学基礎 メディア情報学
2. 学部授業担当科目  
前期： インストラクショナルデザイン インストラクショナルデザイン演習 コンピュータグラフィックス論Ⅰ コンピュータグラフィックスⅠ メディア基礎論  
メディア制作論 専門ゼミナールⅠ メディアデザイン通論 卒業研究  
後期：メディア基礎演習 メディア教育演習 メディア教育論 専門ゼミナールⅡ  
コンピュータ基礎演習 情報科学 卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生  
卒業論文（2）名、大学院修士（1）名
4. 自己評価：  
全授業で視聴覚教材の提供や学生による課題遂行・レポート提出・プレゼンテーションを推進した。その他、「メディア基礎演習」でティームティーチング実施、「インストラクショナルデザイン演習」で学生によるeラーニング教材制作と実践を行った。

## 研究領域

1. 専門研究領域  
総合領域 科学教育・教育工学 教育工学  
複合領域・社会・安全システム科学・社会システム工学・安全システム
2. 研究課題及び概要  
「課題」防災教育・啓発プログラム・教材の開発  
専門職種に応じた研修設計・研修教材の開発  
「概要」インストラクショナルデザインの知見を活かし、防災教育分野や各種の専門職に対応した研修の設計・研修教材の開発を行っている。
3. 令和4年度分 研究業績一覧  
論文・著書  
中野 晋, 山城 新吾, 金井 純子 「令和元年東日本台風による長野市内の小中学校の浸水被害と教育継続」  
土木学会論文集 F6 (安全問題) 2022 年 78 巻 2 号 p. I\_153-I\_164

## 学会発表

令和元年東日本台風による長野市内の小中学校の浸水被害と教育継続

中野（徳島大学）、山城（徳島文理大学）、金井（徳島大学）  
土木学会安全問題討論会’22 令和4年11月10日（木）オンライン  
知的財産権の出願・取得状況

（なし）

令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

（なし）

自己評価：

防災教育関係について全体を見直し中。また、社会情報関係などの研究を始めるため、  
現在準備を進めている。

## 大学内運営

### 活動報告

- ・人間生活学部 学生指導委員会 委員
- ・人間生活学部 教員養成推進委員会 委員
- ・人間生活学部メディアデザイン学科 2年生担任・1,3～4年生チューター

## 社会貢献

- ・2022年7月～9月 小松島市お散歩アプリ（仮称）の開発業務に係る  
公募型プロポーザル選定委員
- ・2022年9月12日 徳島市保育所長・園長研修  
「保育現場における防災について」
- ・2022年9月26日 徳島県立城西高等学校出張講義  
「スマホで学ぶ写真撮影の基礎」
- ・エフエムびざん「B-STEP TALKING」2022年10月25日ライブ出演  
集中講義「情報メディア論」紹介
- ・2022年10月30日徳島市多家良地区自主防災訓練講師  
「災害時における車中泊避難」
- ・2023年2月17日徳島県立障がい者交流プラザ防災講座講演  
「災害時における車中泊避難について」

## 個人情報

1. 氏名：長濱 太造
2. 職位：講師

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：統計科学，マルチメディア
2. 学部授業担当科目  
前期：メディアデザイン通論，コンピュータ概論，情報処理論，生活と情報A，情報処理，専門ゼミナールⅠ  
後期：応用統計学，社会調査法，情報解析，CGアニメーション，コンピュータグラフィックス演習Ⅰ，基礎ゼミナールB，専門ゼミナールⅡ
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名、大学院修士（0）名
4. 自己評価：
  - ・全ての授業において、Google ClassroomでPower PointやExcel、テキストファイル等の指導案を配布し、受講者の理解がより深まるように工夫している。
  - ・学習内容が定着するよう、授業のひとまとまり毎にレポート提出や小テストを実施している。
  - ・コンピュータグラフィックス系の授業では、コンテストを開催して受講者のモチベーションが向上するよう工夫している。
  - ・社会調査法で反転授業を導入・改良し、教育効果に手応えを感じている。
  - ・基礎ゼミナールBでは、メディアデザイン学科1年生全員を対象に本学図書館で課題解決型アクティブラーニングを実施し、教育効果に手応えを感じている。

## 研究領域

1. 専門研究領域：統計科学，教育工学，マルチメディア
2. 研究課題及び概要：
  1. アクティブラーニングと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響
  2. コンテンツ工学を活用した地域コンテンツに関する研究
3. 令和4年度分 研究業績一覧：  
学術論文・著書
  1. 「短期大学部商科における簿記指導のあり方について ―検定指導から会計学の学びへの考察―」，徳島文理大研究紀要 第104号 71-77，（田尾公生，川道映里，長濱太造）
  2. 「アクティブラーニングと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響」，徳島文理大研究紀要 第105号，（長濱太造，溝口隆一）（掲載予定）
  3. 「ニーチェ++」，ふくろう出版 2023.01.20 pp.109\_131，（編著者 溝口隆一，著者 長濱太造，他3名）

## 学会発表

1. 「アクティブラーニングと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響」2022.09.15，徳島文理大学 第15回「特色ある教育・研究」全学発表会，

(長濱太造, 溝口隆一)

2. 「性的リスク対処意識向上を進める性教育に関する一考察」2022. 12. 03, 日本養護教諭教育学会 2022 年学術集会, (貴志知恵子, 竹内理恵, 長濱太造)

4. 知的財産権の出願・取得状況：該当なし

5. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：：該当なし

6. 自己評価：

・「アクティブラーニングと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響」の目的は、本学図書館で課題解決型アクティブラーニング（AL）を実施し、ALによる学習と学生の講義への取り組み方が、学生の「基礎的・汎用的能力」の変化に及ぼす影響を共分散構造分析等で客観的に示すことで、学生が「基礎的・汎用的能力」を獲得するための効果的なALの活用方法を検討することである。昨年度の成果を踏まえ、今年度はメディアデザイン学科の正規の授業として1年生後期の「基礎ゼミナールB」として実施した。副産物的な成果ではあるが、本学図書館を舞台に次のような企画を実行し、成果を上げた。

- ・気分は本屋 折本で書籍紹介と図書館の利用者増加を目的とした企画
- ・「徳島文理大学図書館AL案内版」公式LINEアカウントの作成
- ・四コマ漫画による施設紹介
- ・あなたに贈るレターブック 新しいジャンルの書籍との出会い創出する企画
- ・1分おすすめ本紹介 ～耳で知る本～ 図書館Twitterで本紹介動画を発信
- ・図書館意見展示企画
- ・図書館からAIを知る触る 図書館で作画AIを体験できる企画

## 大学内運営

1. 全学FD研修会 講師 「課題解決型アクティブラーニングの実践報告」
2. アカサス会本部役員
3. アカサス会徳島県支部役員
4. アカサス会高知県支部事務局
5. 大学入試共通テスト委員
6. 退学者防止対策検討委員会
7. 人間生活学部入学試験委員
8. 人間生活学部自己点検・自己実現委員
9. オープンキャンパス 模擬授業講師5回担当
10. 3年生担任, 1・2・4年生チューター
11. 入学試験 監督・面接

## 社会貢献

1. 第7回徳島文理大学 養護教諭研修会 講師 「養護教諭の学校保健活動に活かせる統計手法の提案と演習」
2. 第57回徳島県高校放送コンテスト審査員 (徳島県高等学校文化連盟)
3. 住んでみんなで徳島で！ワンストップ情報発信強化事業選定委員 (県庁)
4. 阿波の狸 奉賛会世話人



## 第5節 建築デザイン学科

### 個人情報

1. 氏名：森田 孝夫
2. 職位：教授

### 教育領域

1. 教育の担当専門領域：建築計画学、都市計画学
2. 学部授業担当科目  
前期：建築計画論、都市計画論、住宅政策論、生活施設計画、住宅設計製図Ⅱ、卒業研究  
後期：住居学、景観論、人間工学、インテリアデザイン基礎、専門ゼミナール、卒業研究  
大学院授業担当科目  
博士前期課程：住生活環境学特論Ⅰ・Ⅱ、地域・市場調査演習Ⅱ、住居学特論  
博士後期課程：住生活環境学特別講義、住生活環境学特別研究、生活習慣環境学域
3. 直接に研究指導した学部学生、大学院生：  
卒業設計（1）名          修士論文（0）名

### 4. 自己評価：

#### <専門科目・基礎分野>

令和3年（2021年）度は、新型コロナウイルスの影響を受けて、大学内の授業が遠隔配信授業になることが多かった。遠隔授業の方法は、Google クラスルームの利用である。これには多様な機能があるが、スライド画面の表示とレポート課題の作成だけでは、限界があった。また住宅設計製図の授業には限界があった。それに対し令和4年（2022年）度は遠隔授業がなく、対面授業を通じた。ただしGoogle クラスルームを使えば繰り返し資料を提示できるので、授業資料を載せて参照できるようにした。

2020、2021年度の教育方法や教育成果を冷静に自己分析し、評価する必要がある。

#### <専門科目・設計分野>

住宅設計製図とインテリアデザイン基礎の製図は、遠隔配信授業の失敗を繰り返さないように、感染防止対策をたてて製図室において実習を行った。そして設計力にはどうしても個人差があるので、個人指導ノートをつくり、丁寧に個人指導を行った。後期のインテリアデザイン基礎では、地域公共図書館のインテリア設計を課し、大学図書館を生きた教材として活用した。その次に重要な和室のインテリアの課題がある。和室は日本の室内意匠の基本であるが、自宅に和室がない学生が増え、教え方がひじょうにむずかしい。

#### <卒業設計>

近年、大学教育の質保証が重要な課題になっている。私は、教育の質保証のひとつはたとえ選択科目であっても卒業研究をすることだと考えている。建築デザイン学科では主に卒業設計をするが、卒業設計は、自ら課題を見だし、調査を行い、課題の解決のための建築デザインの提案が期待される。その教育効果は大きいので、多くの学生が取り組むように奨励したい。

## 研究領域

1. 専門研究領域： 建築計画、都市計画
2. 研究課題及び概要  
研究課題：フランスの地方都市の復興とル・コルビュジエの役割  
研究概要：1965年に死去した建築家ル・コルビュジエは、1960年代インド・チャンディガールの計画に没頭していたが、同時期にとりくんだフランス中西部のフィルミニ市における都市計画と建築設計も忘れてはならない。ル・コルビュジエの建物を世界遺産に登録する運動が始まると、ル・コルビュジエの再研究が次々に出版され、その中にフィルミニ市に関する出版がある。2022年度も、フィルミニ市におけるル・コルビュジエの活動に関連する文献の翻訳作業を続けたが、学術論文をまとめるに至らなかった。
3. 令和4年度分 研究業績一覧  
なし
4. 知的財産権の出願・取得状況  
なし
5. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況  
なし
6. 自己評価  
大学内運営の業務が増し研究活動や建築学会活動に見るべきものがない。

## 大学内運営

- 1) 副学長
- 2) 人間生活学部長
- 3) 大学院人間生活学研究科長
- 4) 大学院人間生活学研究科人間生活学専攻主任

## 社会貢献

1. 学会等への貢献：
  - 1) 日本建築学会会員
  - 2) 国画会絵画部会員
2. 社会活動  
とくになし
3. 文化活動
  - 1) 第23回国画13の視点展（ギャラリー向日葵、4月25日－5月1日、京都市）
  - 2) 第96回国展（国立新美術館、5月4日－5月16日、東京都）
  - 3) 第56回関西国展（京セラ美術館、8月10日－8月14日、京都市）
  - 4) 森田孝夫展（ギャラリー恵風、8月30日－9月4日、京都市）
  - 5) 第26回国画会京滋奈作家展（京都府立文化芸術会館、1月24日－1月29日）

## 個人情報

- 1 氏名：森岡 英之
- 2 職位：教授

## 教育領域

- 1 教育の担当専門領域：住宅施工、住宅構造Ⅰ、住宅構造Ⅱ、図学、住宅材料学Ⅰ、住宅材料学Ⅱ、住居安全論、住宅管理、専門ゼミナール
- 2 学部教授担当科目

前期：文理学・・・1年生	後期：住宅構造学Ⅰ・・・1年生
図学・・・1年生	住居安全論・・・3年生
住宅構造学Ⅱ・・・2年生	住宅材料学Ⅰ・・・3年生
住宅施工・・・3年生	専門ゼミナール・・・3年生
住宅材料学Ⅱ・・・4年生	住宅管理・・・4年生
- 3 直接に研究指導した学生
  - ・2年生1名、3年生2名、4年生2名計5名に対し、「建築士資格試験講座：施工・構造」の特別授業を実施した。
- 4 自己評価
  - ・「施工」は、特に建築専門用語を理解させることと、工（構）法やモノの組合せ、また仕組みを学ぶために、映像や見本（サンプル）による指導に時間を投じた。そのほか例年通り、要点に絞った内容のミニテストに力を注ぎより具体的な学習により理解度を高めた。

また、3年生全員を対象に、純木造（CLT 構法）の4階建てアパートの建設現場、また文理大学高松キャンパス建設現場に見学に出向き、建設産業への魅力や関心をより深める授業の一環として実施した。
  - ・「図学」は、三次元のモノを二次元に表現する作図法に要点をしぼり、実践的な課題を実施することにより理解度を高めた。
  - ・「材料学Ⅰ」は、建物を建てるための仮設、土工、躯体から仕上げに至るまでのすべてに用いる主要な材料の映像や見本（サンプル）など個々の使い方、また重要な点を要点的に指導した。なお、実験は、コンクリート技師6名を実験室に招き、骨材のふるい試験から圧縮強度試験までを実施した。
  - ・「材料学Ⅱ」は、材料の持つ力学的性質を理解させるため、コンクリートのひずみ実験を実施した。また、2級建築士程度及び2級建築施工管理技士程度の演習問題を実施した。
  - ・「構造学Ⅰ・Ⅱ」は、構造部材（骨組）の構成や関連付け（納まり）の理解、各種構造の性能が理解できるような映像、そのほかサンプルなどを用いて理解度を高めた。また、要点を絞った内容のミニテストを実施してより理解度を高めた。

更には、2級建築士程度及び2級建築施工管理技士程度の演習問題も実施した。
  - ・「安全論」は、特に「建物の火災について」を要点に絞って指導をした。
  - ・「住宅管理」は、長寿化が進み、且つ高度な文明が発達した現代、住環境も急激に変化して、それに伴う住宅管理も専門的になってきて、一個人では解決できない状況にな

ってきた昨今である。従って授業は一人で処理・調整などに手が届くメンテナンスや、集合住宅の管理、居住地の管理に重点をおいた内容として理解を求めるようにした。

#### 研究領域

- 1 専門研究領域：特になし
- 2 研究課題及び概要：特になし

#### 大学内運営

- 1 活動報告
  - ・学科長
  - ・チューター

#### 社会貢献

- 1 地域社会への貢献
  - ・コロナ禍により活動が出来なかった。
2. 10月12日、日本で初の木造集合住宅（徳島県営住宅）の建設現場へ学生（3年生）を引率した。
4. 3年生全員を対象とした、学科独自の「就職セミナー」の開催を8回33社にわたり実施した。

## 個人情報

- 1 氏名：川村 恭平
- 2 職位：教授

## 教育領域

- 1 教育の担当専門領域：  
工学： 建築学 建築環境・設備 情報工学  
家政学： 住居学
- 2 学部授業担当科目  
前期：CAD演習Ⅰ、住生活論（製図を含む）、住居意匠学  
後期：住生活論（製図を含む）、日本建築史、コンピュータ演習Ⅰ、CAD演習Ⅲ、専門ゼミナール
- 3 直接に研究指導した学部学生4名  
卒業研究の指導0名
- 4 自己評価  
授業については紙媒体も含めIT機器の活用などに努めた、しかしながら授業者としてITの活用（特にPowerPoint）の使用した授業の工夫・改善の必要があると痛感した。授業者は多くのデータ（通常の授業の3倍程度の情報量）に対して授業を受ける学生側の準備ができていないことがある、結果として流れた授業になった。

## 研究領域

- 1 専門研究領域：  
工学 建築学 建築環境・設備  
家政学 住居学
- 2 研究課題及び概要：  
日本の住居形式と熱環境（伝統的な住まい方）についての研究  
3Dプリンタの活用による建築模型の製作方法の研究  
ドローン（無人航空機）による建築分野での活用方法の研究
- 3 令和4年度分 研究業績一覧
- 4 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
- 5 自己評価  
研究については、本学25号館の東側全面ガラス窓の熱環境、特に日射について実測調査を行い熱環境の分析と対応策の検討をおこなった。  
また、本学で実施している避難訓練を学生の側からみた自主避難マニュアルを作成し、卒業論文の資料とした。  
25年度徳島県立光慶図書館の3D復元（徳島県立文書館）および村崎女子職業校の3D復元と卒業論文の指導  
26年度は千秋閣3D復元と卒業論文の指導  
27年度はフランクロイドライトの落水荘の再現に関する卒業論文の指導  
28年度は3Dプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建築

物の再現に関する卒業論文の指導

29年度徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施

30年度は3Dプリンタによる建築模型の製作及び間取り作成用のパーツを試作し、住宅会社における試用を開始している。また、高等学校家庭科の住居分野における間取り作成ツールを製作し、実際の高等学校の授業で使用している。

また、卒業研究で展示用の大学全景模型（1/300）の2号館を作成した。

31年度は特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。

令和2年度、3Dプリンタの活用において、県内設計事務所、住宅産業等とのコラボによる住宅模型の製作のノウハウが確立できた。

また、令和2年トクシマビジネスチャレンジメッセに文理大学としてオンラインによる展示・出品を行った。令和3年度 徳島県建築士事務所協会で「建築はおもしろい」において研究発表を指導した。令和4年度 徳島県建築士事務所協会で「建築はおもしろい」において研究発表を指導した。トクシマビジネスチャレンジメッセに文理大学として展示・出品を行った。

## 大学内運営

### 1 活動報告

人間生活学部教員養成推進委員

人間生活学部学生指導委員

保護者会保護者面談（徳島&遠隔）

建築デザイン学科2年生担任（44名）

## 社会貢献

### 1 学会等への貢献：

日本環境学会（大阪市立大学）

### 2 地域社会への貢献：

19年度徳島県のLOHASな徳島入門講座でecoな生活、ecoな住まいのテーマで講演

20年度徳島県緑化マイスター講習会で講演

21年度徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究

22年度徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究

23年度Yes21においてボランティアによる住宅間取り相談

24年度とくしまエコみらいハウスの評価助言指導

24年度徳島県立光慶図書館の3D復元作業（徳島県立文書館）

25年度徳島県立光慶図書館の3D復元 徳島県立文書館および村崎女子職業校の3D復元の完了

- 26年度 千秋閣の3D復元の完了および徳島県との地域連携として高開の石積みの擁壁の測量を行った。
- 27年度 徳島県との地域連携の2年目として高開の石積みの擁壁の測量を行った。この際ドローンの積極的な活用を行った。
- 28年度 3Dプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建築物の再現に関する指導、さらにドローンの建築現場における活用を行った。
- 29年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
- 30年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において廃校となった種野小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
- 31年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。
- 令和2年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作し、ノウハウを確立した。
- 令和2年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに文理大学としてオンラインによる展示・出品を行った。
- 令和3年度 徳島県建築士事務所協会で建築はおもしろいにおいて研究発表を指導した。
- 令和4年度 徳島県建築士事務所協会で建築はおもしろいにおいて研究発表指導した  
徳島県ビジネスチャレンジメッセに文理大学として展示・出品を行った。





## 個人情報

1. 氏名：上田 泰史
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 建築環境学、建築設備、建築環境マネジメントシステム
2. 学部授業担当科目

前期：家庭電気・機械	1年生	後期：住居環境学	3年生
食物栄養	1年生	住生活環境学Ⅰ	2年生
人間生活	2年生	住宅設備Ⅱ	3年生
福祉住環境論	2年生	専門ゼミナール	3年生
住生活環境学Ⅱ	3年生	住居衛生学	食物栄養2年生
住宅設備Ⅰ	2年生		4年生
環境保全論	4年生		
文理学	1年生		

3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名

4. 自己評価：

- ・「家庭電気・機械」は受講生が多く、出欠を取る時間がかかった。学生カードでの出欠登録等の改善が必要である。講義中心であったが学生に発言の機会を設けるアクティブ・ラーニングの要素を今後増やす予定である。
- ・「福祉住環境論」では、建築士と住福祉環境コーディネーターとの建築における共通認識を高める重要性を強調した。資格試験問題を活用した講義や教師自身の要介護の親類の状況を踏まえた実践的な話も行った。
- ・「住生活環境学Ⅰ」と「住生活環境学Ⅱ」では、住居環境の要素である温熱・空気・光・音・水等のうち、2年生の「住生活環境学Ⅰ」で音、温熱を中心に講義し3年生の「住生活環境学Ⅱ」で光、空気、水を取り上げた。動画やディスカッションも交えて学生が自から考えて学べるような授業とした。
- ・「住居環境学」では視点を「人と住環境」から人間の生理と関連付けた内容を中心に講義を行った。毎回、関連動画を見せ、設定したテーマについて小グループでディスカッションを行い、内容を発表させて学生が自ら調べて考えてまとめてプレゼンする演習の機会提供を行った。
- ・「住居衛生学」では受講生が4名と少人数であったので対話形式として学生が住居衛生に関心を持てるように身近な事例を織り交ぜて講義した。学生が将来やりたい職業にこの授業から活かせる内容を考えさせる指導を行った。
- ・「住宅設備Ⅰ」では、給排水衛生設備を講義し、「住宅設備Ⅱ」では空気調和設備を講義した。建築計画をする上で建築と設備とのかかわりを重点的に講義した。「住宅設備Ⅰ」は、講義中心であったが、「住宅設備Ⅱ」は、関連動画視聴や2級建築士試験問題演習や、毎回小グループでのディスカッション・発表を行った。学生との対話を心がけて、グループ討議の重要性を強調した。
- ・「環境保全論」では、テキストではなく教員自らの業務内容から環境保全の教材を準備し、講義を行った。学生が環境問題を題材にして、あるべき「環境」の状況と現実

- の「環境」との乖離を「問題」と認識させ、問題解決する内容が「課題」であることを指導した。その際、問題と課題の区別をつけて、具体的な解決策を考えさせた。
- ・「文理学」では、1年生担任として出欠確認を行い、村崎ホールでの講義には同席して講師のお話を聴講した。学生の出席カードについてチェックを行い、このカードを書く意義について都度、指導を行った。

## 研究領域

1. 専門研究領域： 建築環境学、建築設備
2. 研究課題及び概要

研究課題：地域社会のゼロカーボン化に向けた建築サプライチェーンマネジメントの取組み調査

研究概要：ある建築会社の自社建設現場施工のCO<sub>2</sub>発生量割合(自社範囲スコープ1・2)4%に対して、建設資材を製造等のサプライチェーン上流のスコープ3のCO<sub>2</sub>排出量割合が65%と高く、サプライチェーン上流で排出されるCO<sub>2</sub>削減が大きな課題である。

「ゼロカーボン化」への四国地域の主要建築会社の取組を把握し、四国地域建築業界のゼロカーボン建築サプライチェーンを調査分析する研究を行う。

3. 令和4年度分研究業績としての論文等は無し。
4. 知的財産権の出願は無し。
5. 令和4年度分科学研究費補助金等は無し。
6. 自己評価：令和4年度新任教員として赴任し、講義準備のため研究時間を取ることが困難であった。特色ある教育・研究に応募し、令和5年度は研究に励む所存である。

## 大学内運営

1. 活動報告
  - ①オープンキャンパスでの学科説明、模擬授業を担当
  - ②人間生活学部倫理教育委員会委員
  - ③人間生活学部教育研究委員会委員
  - ⑤保護者会保護者面談（リアル徳島、リモート広島）
  - ⑥建築デザイン学科1年生担任（47名1名退学）

## 社会貢献

1. 学会等への貢献：
  - ①（公社）日本技術士会会員
  - ②（公社）日本技術士会近畿本部環境研究会幹事
  - ③（公社）日本技術士会四国本部会員
  - ④（公社）日本技術士会全国大会実行委員として奈良全国大会運営
  - ⑤ 京都大学技術士会幹事
  - ⑥ 日本食糧農業工学会員
  - ⑦ 環境情報科学会会員
  - ⑧（一社）日本能率協会専任審査員
  - ⑨新技術開発（株）技術士受験対策講師（環境部門）
  - ⑩（一社）日本要員認証協会会員（環境・品質マネジメントシステム）

## 個人情報

1. 氏名：山田 幸
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 建築設計全般、コンピュータ（CAD）、建築関連法律
2. 学部授業担当科目：  
前期：住宅設計製図Ⅲ、建築法規、西洋建築史、CADⅡ  
後期：住宅設計製図Ⅰ、コンピュータ演習Ⅱ、専門ゼミ
3. 直接に研究指導した学部学生：  
卒業論文（0）名、その他（0）名
4. 自己評価

住宅設計製図Ⅲ 学生を6名ずつ9グループに分けて、グループごとに草案批評を行うようにした。グループワークとすることで、同じ課題に対して他の学生が考えている事やその案に対しての教員の指導内容を聞くことができ、個人指導よりも多くの内容が学べたと考える。

CAD演習Ⅱ 講義を3段階に分けて、第1段階ではCADの操作を学び、あとの2段階で、住宅設計製図Ⅲで自分が設計した図面をCAD化する内容とした。手書きで製図した図面をすぐにCAD化することになり、取り組み易かったのではないかと考える。

建築法規 建築基準法は、随時変更、強化されている。学生にとっては始めて学ぶ法律だが、変更の過程も説明することで、法律の趣旨、目的、成立過程も一緒に学習でき、建築基準法が生きた法律として意識できるように考えた。

西洋建築史 高校の時の覚えるだけの歴史ではなく、社会精神の反映としての建築、構法の発達としての建築を、時代の流れと一緒に学べるように意識して講義を行った。

住宅設計製図Ⅰ 製図法を学ぶだけでは無く、建築家がどのように考えて設計を行っているかを同時に学べるよう、教科書の図面の模写だけでなく、著名建築家である故宮協壇氏の住宅作品の模写を行った。模写するに当たって事務所OBの話の聞いたり、スケッチから図面になる課程を経験できるように、多面的な図面模写を行った。

コンピュータ演習Ⅱ CAD演習Ⅱで作成したCADデータを使って、3Dモデリングを行った。学生のCAD能力にばらつきがあるため、適宜個人指導も交えつつ、学生の能力に応じた指導をこころがけた。

専門ゼミナール 設計を志す学生のために共同住宅の設計を指導した。大学グラウンドの近くで現在工事が進んでいる、awaもくよんプロジェクトの見学を踏まえ、同じ地域でそれぞれ違う敷地を与えて自由に共同住宅を設計する内容とした。ここでもグループワークで他の学生の設計案や教員の指導を聞き、自分の計画に反映できるように考えた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：建築設計、建築再生、建築法規
2. 研究課題及び概要
  - 大規模木造建築の設計法の研究
  - 保有耐力法等による最新耐震設計技術の動向の研究
3. 令和4年度分 研究業績一覧
  - 論文
    - 特に無し
  - 学会発表
    - 特に無し
4. 知的財産権の出願・取得状況
  - 特に無し
5. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
  - 特に無し

## 6. 自己評価

本学に赴任して最初の年であったが、県内の建築関係者と接触する機会を積極的に持った。

とくしま木造建築学校運営協議会が主催する「もっけんフォーラム」に参加し、「awaもくよんプロジェクト」の見学会を開催するきっかけとなった。

建築学会四国支部徳島支所の活動に参加し、幹事として運営にもかかわるようになるなど、初年度としては、積極的に活動を行えたと思う。

木造技術や材料への見識が豊富な徳島県にあって、今後とも学内外の活動を続けたいと考えている。

## 大学内運営

### 1. 活動報告

- ① 広報担当として、広報活動、学科ホームページの更新等の広報活動を行った。

## 社会貢献

日本建築学会 四国支部徳島支局幹事

木造住宅の耐震診断と耐震補強を考える会 副会長

古材文化の会会員

## 個人情報

1. 氏名：笠井 敬正
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育担当専門領域：構造力学、建築計画、測量、インテリアデザイン
2. 学部授業担当科目  
前期：構造力学Ⅱ、測量学、インテリア計画、  
後期：構造力学Ⅰ、住宅設計論、インテリアデザイン論、インテリアデザイン応用、住宅設計製図Ⅳ、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（2）名
4. 自己評価

### (1) 授業について

「構造力学」については毎時間前回の復習をしながら進めていった。基本に重点を置き、課題を増やしフィードバックすることによって少しでも学生の理解度が高まるよう心掛けた。頻繁に図や計算式を書く授業なので、特に学生には自分で見てもわかりやすい図がフリーハンドで描けるようになることが大事であると指導した。

「測量学」は、座学・外業・内業という一連の流れを通して知識としてだけでなく経験として身につく授業である。測量実習では学生たちは熱心にまた楽しそうに取り組んでいた。班に分かれての実習は協調・責任・達成感等十分成果があったと思う。

「インテリアデザイン応用」では、本年度前期に自分が設計した木造住宅のパース作成およびインテリアを含めた模型製作、そして自分が興味を持った有名なデザイナーの椅子と自分が考案した新作椅子 2 脚の模型製作、以上 4 テーマを課題とした。特に木造住宅や椅子の模型製作では、学生たちはお互いに教えあいながらまた考えながら興味を持って楽しく取り組んでくれた。

「住宅設計製図Ⅳ」では最後の設計製図として将来受験する建築士試験を見越しての課題を設定し、図面そして簡易パースの提出を課した。学生たちにはその建築物についてしっかり調べさせることから始めた。例年と同じく、構造、法規、設備上の問題等わからないところもたくさんあり当初なかなか考えがまとまらなかったようだが最後にはきちんと完成させることができた。

その他の科目に関しては、映像で理解度を深め、透視図等の描画実践を含めた課題のレポート提出で復習の機会を設けた。

学生にとって授業第一と考え、いろいろな方法を模索しながら進めている。今年度の反省の上に立ち、次年度も授業の進め方をしっかり考えていきたい。

### (2) 授業外について

ドローン操縦について、チャレンジラボで所属している学生たちと話をしながら練習を進めてきた。構内での練習は可能であるが、昨年暮れより免許法が変わり構外の場合によっては免許の問題が生じてくるようになった。このことについて今後学科内で話し合う必要がある。

## 研究領域

1. 専門研究領域：建築計画

2. 研究課題及び概要

研究課題：地域の状況から見える古民家の特徴についての調査に関する研究

研究概要：家の様相は過去から現在そして未来へと大きく変化していく。その変化の様子はかつてその地域に根ざした人々の生活の上にとって起こりうるものと考えられる。

私達のまわりの地域の歴史や特徴、そしてそこに住む人々の生活の状況並びにそこに現存するまたは過去に存在した古民家の特徴を調査・研究していく。

3. 令和4年度分 研究業績一覧（なし）

4. 知的財産権の出願・取得状況：（なし）

5. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：（なし）

6. 自己評価：研究についてはあまり成果を上げられなかった。

## 大学内運営

1. 活動報告

・ 建築デザイン学科4年担任

・ 学部選挙管理委員会委員

## 社会貢献

1. 学会等への貢献（なし）

2. 地域社会への貢献（なし）

## 第6節 心理学科

### 個人情報

1. 氏名：青木 宏
2. 職位：教授

### 教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床心理学、犯罪心理学等）
2. 学部授業担当科目  
前期：心理学概論、臨床心理学概論、学習・言語心理学、異常心理学  
後期：神経・生理心理学、教育相談、ジェンダー論、ライフサイクル論、  
専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文2名、修士論文1名
4. 自己評価
  - 1) 学生の興味を引き、知的好奇心を刺激するために、適宜映像や動画を活用した自作のプレゼンテーションを使用した。また、テーマによっては、グループディスカッションやロールプレイング、PGR 測定器を用いた実習なども実施し、主体的な取り組みを促した。ゲストスピーカーを招いての講義も実施した。
  - 2) 新たな取組としては、対面授業のほとんどを同時配信し、体調不良等の理由で受講できない学生のニーズに対応した。

### 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 研究課題及び概要  
「若者のストーカー被害実態調査」  
ストーカー対策を担当する警察官をゲストスピーカーとして招くなどして、研究結果の伝達と啓発活動を行っている。
3. 令和4年度分 研究業績一覧
  1. 論文  
該当なし。
  2. 学会発表  
該当なし
  3. 知的財産権の出願・取得状況  
該当なし
  4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
該当なし
  5. 自己評価  
主に研究結果の伝達と啓発活動を行い、ストーカーの被害・加害の防止に関して、一定の成果を上げたと考える。

## 大学内運営

- 1) 心理学科長
- 2) チューターとして学生の個別指導に当たった他、チューターでない学生からの相談事にも応じた。
- 3) オープンキャンパス等において学科説明，模擬授業を実施した。

## 社会貢献

- 1) 日本犯罪心理学会地方区理事(2021. 12～)
- 2) 徳島新聞のコラム「勁草を知る」(隔月)の執筆



## 個人情報

1. 氏名： 阿波 亨
2. 職位： 教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（家族心理学，福祉心理学，認知心理学等）
2. 学部授業担当科目  
学部  
前期：社会・集団・家族心理学（家族心理学），福祉心理学，心理統計学演習  
後期：知覚・認知心理学（認知心理学），専門ゼミナール  
大学院  
前期：人格心理学特論  
後期：投映法特論，臨床心理基礎実習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学部学生等：該当なし
4. 自己評価：
  - 1) 学部の授業では，毎回，最初に前回の授業の内容の簡単な説明を行い，最後にその日の授業の概要の説明を再度行うとともに，最後の回では全体の内容の説明を再度行うという具合に，同じ内容を繰り返し説明することで記憶の定着を図った。また，できるだけ視聴覚教材を活用し，90分間という授業の中で飽きがこないように工夫した。
  - 2) 大学院の授業では，学生が10人と小規模であることから，心理検査を体験する機会を設けたり，順番に発表する場を与えたりして，授業への積極的な参加を促した。

## 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学，犯罪心理学
2. 研究課題及び概要  
ブリーフ・セラピー，マイクロカウンセリングそして動機づけ面接法は，考え方や技法にかなり共通する点があるので，それらの共通点や相違点を整理しつつ，本学の臨床心理相談室における実践と大学院生への指導に生かす。
3. 令和4年度分 研究業績一覧
  1. 論文  
該当なし
  2. 学会発表  
該当なし
  3. 知的財産権の出願・取得状況  
該当なし
  4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：  
該当なし
  5. 自己評価：

授業を担当する家族心理学及び福祉心理学について、それぞれ日本家族心理学会及び日本福祉心理学会の会員となり、大会や研修に参加するなどして専門性の向上を図った。

### 大学内運営

- 1) インターンシップ推進委員会委員
- 2) 心理学科学生 36 名のチューター
- 3) オープンキャンパスにおける模擬授業
- 4) 保護者会における保護者との面談
- 5) 総合選抜型入試にかかる業務
- 6) 大学入学共通テストにかかる業務

### 社会貢献

#### 学会活動

- 1) 日本犯罪心理学会会員
- 2) 日本家族心理学会会員
- 3) 日本福祉心理学会会員
- 4) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会
- 5) 日本ブリーフセラピー協会会員

## 個人情報

1. 氏名：伊藤 泰彦
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、障害者心理学、健康心理学
2. 授業担当科目

### 学部

前期：発達障害論、心理学実験、心理実習Ⅰ

後期：コミュニティ心理学、健康・医療心理学、障害者・障害児心理学、  
心理実習Ⅱ、専門ゼミナール

### 大学院(研究科 心理)

前期：心理療法特論Ⅰ、臨床心理面接特論Ⅱ、心理実践実習Ⅱ

後期：心理実践実習Ⅱ

3. 直接に研究指導した学部学生等：

卒業論文：3名 修士論文：1名

4. 自己評価

- 1) 全講義・全単元においてスライド教材やレジメを作成するとともに、補助的に映像教材を活用し、学生の理解を助け、飽きさせない、分かりやすい授業の説明に心掛けた。
- 2) 授業内容の定着をより一層図るため、毎回、授業終了時に感想・質問等を学生に記入させ、次回講義時において記入された内容について集約もしくは抜粋して共有し、大事なポイントを復習した。
- 3) 心理実習の事務手続き全般（施設との事前打合せや調整・依頼状・実習証明書等の作成発送）を担当した。実習先との協議が必要なため、コロナウィルスの感染状況の影響を受けて、実習要領を変更したりするなどに時間と労力を要したが、心理学科教員の指導・協力もあって年間を通して、学生にとって有意義な心理実習を実施することができた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学

2. 研究課題及び概要

- 1) 描画法、特に樹木画テストのアセスメントとしての解釈枠組や妥当性、教授方法についての研究
- 2) 心理療法における短期療法に位置付けられる解決指向アプローチを取り入れることによる相談活動の充実

## 令和4年度分 研究業績一覧

1. 論文

「樹木画テストの読み取りを学ぶ方法についての一考察」徳島文理大学相談室紀要

2. 学会発表

該当なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

5. 自己評価

解決志向アプローチ研修や描画療法・描画テスト学会への参加等により、自己の専門性の向上を図ることができた。

### 大学内運営

- 1) 臨床心理相談室長
- 2) 自己評価委員会委員
- 3) 総合選抜型入試の面接試験官
- 4) 公募制推薦入試の試験官
- 5) オープンキャンパスにおける学科説明・模擬授業
- 6) 保護者会における保護者との面談
- 7) 公務員試験の個別指導
- 8) 学部心理学科1～4年生チューター（32名）  
1年チューター（7名）、2年チューター（12名）、3年チューター（4名）、  
4年チューター（9名）
- 9) 大学院心理学専攻修士1年学年担任（10名）

### 社会貢献

1. 学会等への貢献
  - 1) 日本心理臨床学会会員
  - 2) 日本描画テスト・描画療法学会会員
  - 3) 日本発達障害学会会員
  - 4) 日本犯罪心理学会会員
2. 地域社会への貢献
  - 1) 徳島中央警察署管内犯罪被害者支援連絡協議会会員
  - 2) ライフサポーター指導員（徳島県教育委員会）
  - 3) 大津少年鑑別所地域援助協議会講師
  - 4) 法務省高松管区内心理技官研修講師

## 個人情報

1. 氏名 貴志 知恵子
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：教科教育学・保健
2. 学部授業担当科目  
前期：事前・事後指導、養護概説、救急処置及び看護法Ⅰ、養護学特講、卒業研究、  
学校ボランティア  
後期：救急処置及び看護法Ⅱ、養護実践演習、教職実践演習、専門ゼミナール、  
健康相談活動、学校保健、卒業研究、学校ボランティア
3. 直接に研究指導した学部学生： 4名、その他4名
4. 自己評価  
卒業論文については将来、教職志望学生であり教育現場での研究活動に繋がる課題、または心理学関連の知見を教育に生かした題目などを選んだ学生が多かった。また、養護実習やボランティア活動等での子ども達との関わりや社会体験から幅広い学修を含めた内容となったが、今後の教職生活に生かすことができるのではないかと考える。

## 研究領域

1. 専門研究領域：性教育、健康相談、アクティブ・ラーニング
2. 研究課題及び概要
  - 1) 性教育と人権の問題について、将来、養護教諭を目指す学生への指導において、学校教育の中で、性の多様性を学ぶことで自己を見つめることや他者理解を進め、心情に配慮したきめ細かい教育がおこなえるような方策について検討している。
  - 2) 養護教諭のおこなう健康相談活動において、これまでのカウンセリング的対応に加えて、思考パターン、言語パターン、反応パターン等に気づきやり方や行動を変えるコーチングのアプローチを取り入れることで生きる力の具現化をはかる方策を志向する。
  - 3) 授業ではアクティブ・ラーニングを重視した展開にし、学修の一部を予習として行い本時では、think-pair-share を参考に個人活動—グループ活動—全体活動の展開とし、学生の主体性を大事にしている。
3. 令和4年度分 研究業績一覧
  1. 論文・著作  
学校における養護活動の展開 改訂9版、共著、2022、ふくろう出版
  2. 学会発表  
該当なし
  3. 知的財産権の出願・取得状況  
該当なし
  4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

#### 5. 自己評価

研究では、性教育関連や健康相談、さらにアクティブ・ラーニングについて検討した。今後は、科学研究費補助獲得に向けて、研究をすすめたい。

#### 大学内運営

- 1) 教職課程委員会委員
- 2) 教員養成推進委員会委員
- 3) 教員養成対策委員会委員
- 4) 人権教育推進委員会委員
- 5) 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- 6) 教員免許更新講習 講師
- 7) 学部：1・2・3・4年生チューター（36名）

#### 社会貢献

##### 1. 学会等への貢献

- 1) 日本養護教諭養成大学協議会代表評議員
- 2) 日本養護実践学会理事
- 3) 日本学校保健学会代議員

##### 2. 地域社会への貢献

- 1) 救急救命指導員として救急救命講習活動に参加
- 2) 徳島県養護教諭初任者研修として学校での救急救命講習を実施
- 3) 徳島県養護教諭5年次研修として学校での授業力向上研修を実施
- 4) 徳島大学医学部栄養学科3年次に対して「健康教育の進め方」授業を実施
- 5) 徳島県名西郡保育研究会において「保護者対応」講演を実施

## 個人情報

1. 氏名：土中 幸宏
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 授業担当科目  
学部  
前期：司法・犯罪心理学、心理学的支援法、心理演習Ⅱ  
後期：人間発達学、心理演習Ⅰ、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、  
専門ゼミナール、臨床心理学（理学療法学科）、人間発達学（理学療法学科）  
大学院  
前期：心理統計法特論、心理実践実習Ⅱ  
後期：心理実践実習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文：6名 修士論文：3名
4. 自己評価
  - 1) 授業形態はおおむね対面式に戻ったものの、登校に困難を来す学生のために、オンライン・対面のハイブリッド方式の形態を採用し、授業への出席率の向上を図ったほか、工夫を凝らしたプレゼンテーションを使用した講義を実践した。
  - 2) 絵本や絵画、映画を題材に用いることにより、学習への意欲を喚起するように試みた。
  - 3) フリップボードを活用したグループワーク等の実践により、学生が相互に積極的な意見提出を促すよう工夫した。

## 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 研究課題及び概要  
芸術療法・認知行動療法の実践・研究，実務と連動した心理査定のある方、進化心理学の進展を踏まえた人間発達学の展望等について
3. 令和4年度分 研究業績一覧
  1. 論文  
該当なし
  2. 学会発表  
該当なし
  3. 知的財産権の出願・取得状況  
該当なし
  4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
該当なし
  5. 自己評価  
研究活動はやや停滞気味であるものの、前年度に引続き、他大学の研究者の協力

者として、科研費申請した事案がある（不採択）。今後も研究を推進していく意向である。

### 大学内運営

- 1) 心理学科 3 年学年担任
- 2) 心理学科 1～4 年計 35 名のチューター
- 3) 心理学科入学試験にかかる業務
- 4) オープンキャンパスでの模擬授業担当
- 5) 全学入学試験委員会
- 6) 専攻科入学試験にかかる業務

### 社会貢献

1. 地域社会への貢献
  - 1) 岡山就実大学非常勤講師夏期集中講義（司法・犯罪心理学）担当
  - 2) 徳島大学総合科学部非常勤講師（司法・犯罪心理学）担当
  - 3) 徳島大学大学院創成科学研究科臨床心理学専攻非常勤講師（犯罪心理学特論）担当
2. 学会等への貢献  
日本犯罪心理学会編集委員



## 個人情報

1. 氏名：中嶋 英治
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（発達，臨床，犯罪），関係行政論（心理職）
2. 学部授業担当科目  
学部  
前期：心理アセスメントⅡ（心理検査法Ⅱ），心理学実験，公認心理師の職責  
後期：心理学特論，専門ゼミナール，発達心理学，関係行政論，  
心理学統計法（心理統計学），心理学A  
大学院  
前期：心理療法特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅰ），心理実践実習Ⅱ，特別  
研究  
後期：発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開），心理実践実習Ⅱ，  
臨床心理実習Ⅱ，特別研究
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文：1名、修士論文：2名
4. 自己評価  
より分かりやすいプレゼンテーション資料の作成と丁寧な説明に尽力しつつ講義を進めた。詳細は以下のとおり。
  - 1) 心理学特講では，公務員試験，教員採用試験，企業の一般常識試験に向けて実戦的な授業となるように工夫した。
  - 2) 心理学統計法では，（不得意とする者が多い）統計法への関心を高めるため，より身近な事例を取り上げて説明するなど，講義内容を工夫した。
  - 3) 心理学Aでは，心理学を専攻科目としない学生が心理学の基本的な知識を習得できるよう，映像資料を活用したり，質問紙法検査を体験させたりするなど，印象に残る授業になるように工夫した。
  - 4) 関係行政論では，既存の参考図書を活用しつつ，政府のHPにおいて最新の施策の運用状況を確認した上で講義を行った。
  - 5) グーグル・クラスルームを活用し質問に対する回答を行うなど，学生の疑問に対し真摯に対応した。

## 研究領域

1. 専門研究領域  
心理学（発達，臨床，犯罪）
2. 研究課題及び概要  
発達過程を踏まえた非行少年の心理アセスメントについて
3. 令和4年度分 研究業績一覧
  1. 論文  
該当なし

2. 学会発表

該当なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

5. 自己評価

2年目の勤務であり、講義の充実及び論文指導を優先しているところ、研究活動には着手できていないが、関連資料の収集等を継続している。

### 大学内運営

- 1) 退学者防止対策委員会委員
- 2) 合理的配慮提供に関するWGメンバー
- 3) 人間生活学部学生指導委員会委員
- 4) 人間生活学部教育研究委員会委員
- 5) 心理学科4年担任
- 6) 心理学科1～4年生計36名のチューター
- 7) 心理学科入学試験にかかる業務
- 8) 専攻科入学試験にかかる業務
- 9) オープンキャンパスにおける模擬授業

### 社会貢献

徳島県再犯防止推進協議会委員長

## 個人情報

1. 氏名： 新見 員子
2. 職位： 准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域： 教育臨床心理学、臨床心理学
2. 学部授業担当科目  
学部  
前期：児童心理学、青年心理学、心理実習Ⅰ、  
後期：感情・人格心理学、学校心理学/教育・学校心理学Ⅱ、専門ゼミナール、  
心理実習Ⅱ  
大学院  
前期：学校臨床心理学、臨床心理学研究法特論、臨床心理実習Ⅰ、特別研究、  
心理実践実習Ⅱ  
後期：心の健康教育に関する理論と実践、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ、  
特別研究
3. 直接に研究指導した学部学生等：3年生ゼミナール 5名、大学院生 1名
4. 自己評価：
  - 1) パワーポイントや、視聴覚教材を活用し、学生に分かりやすい授業を心掛けながら知識の伝達にとどまらず、1時間の授業の中で、読む・書く・話す等の活動場面を設定した。
  - 2) 一斉講義だけでなく、学生が主体的に学ぶことができるアクティブラーニング形式の授業を行い、学生の意欲喚起に努めた。
  - 3) 授業のはじめには、絵本の読み聞かせを行い、学生の感性や言語能力の育成を目指した。授業終了時には、「振り返りシート」を用いて、本時の学びを確認させ、次の授業でフィードバックを行った。
  - 4) 大学院生の修士論文指導においては、倫理的配慮について、慎重に期する必要性を感じた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：教育臨床心理学、臨床心理学
2. 研究課題及び概要
  - 1) 学校教育の課題における心理学的理解と支援
  - 2) 絵本の読み聞かせの効果
  - 3) 箱庭療法を通してのカウンセラー育成
3. 令和4年度分 研究業績一覧
  1. 論文  
該当なし
  2. 学会発表  
該当なし

4. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

5. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

該当なし

6. 自己評価：

今年度は、勤務して1年目ということもあり、授業準備にほとんどの時間を有した。そのため、研究については、ほとんど着手できていないが、心理臨床学会と箱庭療法学会への（zoom）学会参加を行った。今後は、学生の育成と共に研究の充実を図り自己研鑽に努めたい。

## 大学内運営

1. 活動報告

- 1) 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- 2) オープンキャンパスにおける模擬授業の実施
- 3) チューター 1年生から4年生まで、36名
- 4) 進学説明会（新居浜市）への参画
- 5) 入学試験にかかる業務
- 6) 保護者会における保護者面接

## 社会貢献

1. 学会への貢献

- 1) 日本心理臨床学会会員
- 2) 日本カウンセリング学会会員
- 3) 日本箱庭療法学会会員

2. 地域社会への貢献

併設の臨床心理相談室相談員として外部（地域社会）からの相談に携わっている。

## 個人情報

1. 氏名：原田 耕太郎
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：社会心理学、教育心理学
2. 授業担当科目

### 学部

前期：学校・教育心理学（教育心理学）、教育心理学、  
社会・集団・家族心理学（社会心理学）、心理学実験、心理学A、心理演習Ⅱ、  
心理実習Ⅰ

〈以上、徳島キャンパス〉

心理学A、図書館総合演習

〈以上、香川キャンパス〉

後期：専門ゼミナール、産業・組織心理学、心理学研究法、心理実習Ⅱ、  
心理演習Ⅰ、生徒指導（進路指導を含む）

〈以上、徳島キャンパス〉

医療コミュニケーション学Ⅰ、教育心理学、教職実践演習

〈以上、香川キャンパス〉

### 大学院

前期：心理学特別演習、心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅰ  
心理学特別研究

後期：心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅰ、特別研究  
産業・労働分野に関する理論と支援の展開

3. 直接に研究指導した学生

卒業論文4名、修士論文1名

4. 自己評価

卒業論文の指導については、受講生が本学大学院への進学を希望していたので、修士論文作成の予行練習という位置づけで指導を行った。合わせて、大学院の受験指導も行った。なお、当該学生は、Ⅰ期入試およびⅡ期入試で合格を獲得し、来年度大学院に入学予定である。担当講義においては、指定のテキストをベースにしたオリジナルの資料を用いている。内容としては、基本的な内容を分かりやすく説明するとともに、適宜時事問題や、視聴覚資料、一部高度な内容を盛り込むなど、単調にならないように配慮している。この試みは、おおむね成功していると判断している。

## 研究領域

1. 専門研究領域：社会心理学
2. 研究課題及び概要

社会的公正知覚に関する研究。社会的公正とは社会活動を維持させ機能させる上で重要な規範の一つであり、社会的動機の一つだということもできる。しかし、「公

正か否か」に関する客観的あるいは絶対的基準はなく、あくまでも知覚者の主観によって決定される。それゆえに、公正をめぐる対立やバイアスの介在といった、心理学上興味深い事象が存在する。つまり、社会的公正知覚の研究は、心理学の観点からの社会活動の理解につながる。

### 3. 令和4年度分 研究業績一覧

#### 1. 論文

柴山千尋・原田耕太郎（共著） 「児童の学級適応と学級機能に関する一考察 — hyper Q-U における学級満足度を指標として—」 徳島文理大学臨床心理相談室 紀要 第22号 pp. 59-66. 徳島文理大学

#### 2. 学会発表

該当なし

#### 3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

#### 4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

#### 5. 自己評価

共著論文 1 本は修士論文の指導過程において、徳島市教育研究所と徳島市内小学校の協力を得てデータを収集したものである。紀要論文として公表することとなったが、外部機関の協力を得て研究を実施できた意義は大きいと評価している。

## 大学内運営

- 1) 自己点検・自己評価委員会委員
- 2) 新入生セミナー委員
- 3) 教職教養講座 講師
- 4) 公認心理師実習指導員
- 5) 臨床心理相談室相談員
- 6) 修士論文副査5件
- 7) 学部1年生担任
- 8) 学部チューター担当（1年～4年）
- 9) 大学院心理学専攻2年担任
- 10) オープンキャンパスミニ講義担当
- 11) 大学院受験希望者への面談および進路説明
- 12) 大学学部入学試験業務
- 13) 大学院入試業務

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

該当なし

### 2. 地域社会への貢献

放送大学面接授業「心理学実験1」非常勤講師

## 個人情報

1. 氏名 福本浩行
2. 職位 教授

## 教育情報

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床，発達，教育，産業）
2. 授業担当科目

### 学部

前期：心理療法演習Ⅱ，発達障害論，心理的アセスメントⅠ，臨床心理学  
後期：専門ゼミナール，心理演習Ⅰ，心理検査法実習Ⅰ，心理検査法実習Ⅱ，  
卒業研究

### 大学院

前期：臨床心理面接特論Ⅰ，心理実践実習Ⅱ，臨床心理査定演習Ⅰ  
後期：心理実践実習Ⅱ，臨床心理学特論Ⅱ，臨床心理実習Ⅱ，心理実践実習Ⅱ

3. 直接に研究指導した学生：卒業論文2名，その他16名
4. 自己評価：

毎講時，自己制作のプレゼンテーション用スライド及び視聴覚教材を活用したほか，授業の重要事項に関する詳細な解説を盛り込んだ補助教材を配布し，受講生の理解を深めさせた。授業内容とは別に，折に触れ公認心理師資格試験に係る情報を提供したり，過去の試験問題を解説したりするなどし，資格試験に対する動機付けを高める工夫をした。

## 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学，犯罪心理学，神経心理学
2. 研究課題及び概要

### 1) 犯罪者プロファイリング研究

通り魔や迷宮化した事件の捜査に資するため，警察と共同し，犯行現場等から得られる数少ない犯人情報を多変量解析し，過去に蓄積したデータベースとの照合により犯人の特定化を行う方法について考究している。また，ここで得られた知見を活かし，SNSによる人権侵犯事案加害者の心理的分析及び被害防止の広報等を行っている。

### 2) 虐待の連鎖に係る研究

慶応大学において作成された日本版 I Feel Pictures テストを用いて，乳児の表情読み取りエラーが生じる資質負因等を研究している。また，表情の読み取りエラーを発生させる資質負因が虐待の加害に及ぼす影響や，虐待の被害から表情の読み取りエラーが起こる要因等を考察している。

### 3) マイノリティ共感

LGBTQ等の性的マイノリティを有した人たちに対して，それを共感して受け入れる人と受け入れがたい人との違いは何かについて，鳴門教育大学において作成された尺度を用いて研究している。

### 3. 令和4年度分 研究業績一覧

#### 1. 論文

該当なし

#### 2. 学会発表

該当なし

#### 3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

#### 4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

該当なし

#### 5. 自己評価

法務省退官後、矯正施設被収容者のデータを収集することには制約が生じているものの、臨床ゲシュタルト療法学会や日本心理臨床学会等各種学会に入会することにより学会誌の論文等に自ら啓発を受けるとともに、学会の新鮮な情報を専門ゼミの学生に還元している。

### 大学内運営

- 1) 心理学科広報委員として、大学案内の作成やオープンキャンパスの実施等を行い、心理学科の広報を行った。また、オープンキャンパスでは、心理学科の学科説明や模擬授業を実施した。
- 2) 心理学科各学年のチューターとして学生の個別指導に当たったほか、チューターでない学生からの相談にも応じた。
- 3) 臨床心理相談室の担当官として、一般外来のクライアントに対するカウンセリングを継続して行った。
- 4) 学生からの要望により、学年・所属ゼミ等を問わず、広く希望者を募り、自主勉強会「ニューロダイバーシティ勉強会」を毎週1回開催している。

### 社会貢献

- 1) 児童自立支援施設「徳島学院」の安全委員会の副委員長をつとめた。
- 2) 板野郡中学校生徒指導主事研究会にアドバイザーとして参加した。
- 3) さぬき薔薇会に所属し、高松市が管理する公共公園内の薔薇園を、年間を通してボランティアで整備した。



## 個人情報

1. 氏名：松本新功
2. 職位：准教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：物理学，数学，情報処理
2. 授業担当科目  
前期：情報処理，数学 A，情報処理・統計学演習(2 クラス)，PC 文書作成実習 I，  
PC 文書作成実習 II  
後期：情報科学，情報処理・統計学(2 クラス)，物理学 A，PC データ活用実習 I，  
PC データ活用実習 II
3. 直接に研究指導した学生：なし
4. 自己評価
  - ・ Google Meet を使って，対面・遠隔のハイブリッド形式で講義を実施した．健康観察期間中など通学が困難な学生にも，対面に近い形で遠隔講義を受講できる環境を提供できたと考えている．
  - ・ 数学や Excel など，苦手な学生が多い科目に関しては，Meet で録画した講義動画を編集の上，Classroom にアップした．講義内容を動画で復習できるように配慮した．
  - ・ 講義中は pdf 等の電子ファイルを画面共有で学生に見せながら講義を行っている．その際に，講義中にコメントを資料ファイルに追記しながら説明をする．このコメントなどを追記した資料を，講義後に Classroom で配布した．復習時の利便性に配慮できたと考えている．
  - ・ 全学センターの Student Assistant (SA) による講座(マンツーマン講座)にて，One time 講座と名付けた新たな講座を開始した．昨年度までは長期受講を前提とした講座のみの提供であったが，One time 講座の導入によって，一度きり実施の単発講座を提供できるようになり，学生の選択肢を増やすことができた．しかしながら，新講座開講にあたって Web システムを新たにプログラミングする必要があり，作業に多大な時間を要した．研究活動を含め，他の業務を圧迫してしまった．

## 研究領域

1. 専門研究領域 プラズマ物理学，核融合学，量子ビーム科学
2. 研究課題及び概要
  - 1) 水素負イオン(H<sup>-</sup>)源プラズマ内における H 輸送の実験研究
  - 2) 水素負イオン源プラズマ内における低エネルギー電子輸送の実験研究
  - 3) プラズマ診断のための，低エネルギー電子銃の装置開発
  - 4) Particle-In-Cell (PIC) 法を用いた，イオン源プラズマの数値シミュレーション
  - 5) PIC 法を用いた，低エネルギー電子銃の数値シミュレーション
3. 令和 4 年度分 研究業績一覧
  1. 論文・著書

Matsumoto Y, Nakano H, Kisaki M, Shinto K, Sasao S and Wada M, " Analysis of electron behaviour around a spring-shape filament inside a low-energy electron gun" , J Phys. Conf. Ser. 2244 012084 (2022)

## 2. 学会発表

なし

## 3. 知的財産権の出願・取得情報

なし

## 4. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

- 1) 核融合科学研究所 一般共同研究(実験研究)・代表・採択
- 2) 核融合科学研究所 一般共同研究(実験研究)・協力者・採択
- 3) 核融合科学研究所 一般共同研究(数値計算研究)・代表・採択

## 5. 自己評価

- ・負イオン源プラズマ内での電子輸送の物理を明らかにするため、新たなプラズマ計測法の開発を目指している。その用途で必要となる特殊な電子銃を開発中である。本年度は、Particle-In-Cell(PIC)シミュレーションの計算結果を受けて、新たな電極を銃内に埋め込んだ。狙い通り、この電極による銃内の電場制御によって電子の流れが整い、電子ビーム電流量増加へと繋がる可能性を示唆する実験結果を得ることができた。
- ・PIC コードに対して、プラズマ内粒子の衝突効果(荷電粒子間のクーロン衝突、および荷電粒子-中性粒子間の弾性衝突)の追加作業を行った。スーパーコンピュータへの最適化を念頭に置いた場合にアルゴリズムの設計が複雑になること、加えて、今年度は教育へのエフォートが高く作業時間の確保が困難であったこともあり、作業を完了させることができなかった。来年度も引き続き、プログラミング作業を行う。

## 大学内運営

- 1) 全学共通教育センター・マンツーマン講座(SA 講座)の運営  
(面接等 SA 採用業務, SA の指導, ホームページの作成,  
業務管理用 Web システムのプログラミング等)
- 2) 公務員試験対策講座(数的推理・2回)
- 3) 幼保試験対策講座(数的推理・1回)
- 4) 入学試験作題(I期AおよびB, II期, III期)
- 5) 大学入学共通テスト・試験監督
- 6) 日商 PC 検定・試験監督及び事務業務(8回)
- 7) オープンキャンパス・入試過去問(数学)の解説講義(6回)

## 社会貢献

### 1. 学会等への貢献

- 1) 日本物理学会 会員
- 2) プラズマ・核融合学会 会員

## 個人情報

1. 氏名：渡邊 悟
2. 職位：教授

## 教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、心理査定
2. 授業担当科目

### 学部

前期：老年心理学、心理演習Ⅱ

後期：臨床心理学、パーソナリティ障害論、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、  
専門ゼミナール、卒業研究

### 大学院

前期：臨床心理学特論、臨床心理基礎実習Ⅰ、心理実践実習Ⅰ、特別研究

後期：臨床心理査定実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ、特別研究

3. 直接に研究指導した学生：卒業論文 6 名、修士論文 2 名
4. 自己評価

担当授業については、パワーポイントにより授業を行い、それを印刷して補助教材として活用した。また、授業終了時にコメントシートの記載と提出を求め、授業の理解度を確認するとともに、次回授業の冒頭で、そのいくつかを紹介し、前回授業の振り返りに役立てた。

## 研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学、心理査定
2. 研究課題及び概要  
非行・犯罪臨床における心理査定のあり方
3. 令和 4 年度分 研究業績一覧

### 1. 論文等

- 1) 村井奈々、渡邊 悟 「トラウマ体験として受け止めている出来事が不安に及ぼす影響について」 徳島文理大学臨床心理相談室紀要 第 22 号 pp. 48-58 (2022. 3)
- 2) 渡邊 悟 「定年退職」 心理臨床の広場 第 14 巻第 2 号(通巻 28 号) pp. 124 日本心理臨床学会 (2022. 3)
- 3) 渡邊 悟(分担執筆) 臨床心理学中辞典 遠見書房(2022. 12)

### 2. 学会発表

Hiroko Sasaki, Hiroshi Kuroda, Munechika Ito, Satoru Watanabe, Tomoko Muramatsu.  
The history and the development of the Rorschach in Japan. XXIII Congress of the International Society of Rorschach and Projective Methods (2022. 7)

### 3. 学会等主催研修会出席

- 1) 国際ロールシャッハ及び投映法学会第 23 回大会(2022. 7)
- 2) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第 28 回大会(2022. 7)

- 3) 日本犯罪心理学会第 60 回大会(2022. 9)
  - 4) 一般社団法人 日本公認心理師協会司法・犯罪分野委員会研修会(2022. 10) 司  
会
  - 5) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会認定資格研修会(2022. 11) 講師
  - 6) 一般社団法人 日本公認心理師協会専門研修 I(2022. 12) 講師
  - 7) 日本公認心理師学会第 2 回学術集会(2022. 12)
  - 8) 日本犯罪心理学会四国地区研究会(2023. 2) 講師
4. 知的財産権の出願・資格取得状況  
該当なし
5. 令和 4 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況  
該当なし
6. 自己評価：  
査読論文はないものの、国際学会大会での発表、学会大会や研修会への参加等  
により、自己の専門性の向上を図った。

#### 大学内運営

- 1) 大学院研究科心理学専攻主任
- 2) 臨床心理相談室相談員
- 3) 心理学科就職支援委員
- 4) 修士論文主査及び副査
- 5) 大学院及び学部入学試験にかかる業務
- 6) 心理学科 1~4 年生のチューター
- 7) オープンキャンパスでの学科説明・模擬授業
- 8) 保護者会での保護者との面談

#### 社会貢献

- 1) 一般社団法人日本公認心理師協会 理事、司法・犯罪分野委員会委員長、専門認定委  
員会委員長
- 2) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会 副会長、研究助成審査委員会委員長
- 3) 日本犯罪心理学会 全国区理事、編集委員、研究奨励賞審査委員
- 4) 徳島県警察留置施設視察委員会委員
- 5) 徳島県ときわプラザ相談室スーパーバイザー
- 6) 徳島県ライフサポーター指導員
- 7) 徳島ロールシャッハ・テスト研究会代表
- 8) 法務省矯正研修所法務技官(心理)応用科研修での講義(2022. 11)
- 9) 徳島県警察学校専科研修での講義(2022. 11)
- 10) 法務省高知少年鑑別所地域援助推進会議での講義(2022. 12)

## 編集後記

令和4年度はコロナ禍も3年目となり、もうそろそろこの感染症も落ち着きを見せてきたかと思いましたが、お盆以降再度感染者が急増し、今までにない3,182人の感染者ができました。

学外の臨地実習でも影響を受け、一度コロナ感染症が落ち着いて受け入れ可能となったが、再度、中止となるなど大変な一年となりました。令和5年5月からは、5類感染症の位置づけとなりますので、少しずつ以前の生活に戻って欲しいと思います

自己点検・自己評価報告書は、人間生活学部の活動の記録であり、今後のよりよい教育研究活動へと活用されることを願っております。

徳島文理大学人間生活学部

令和4年度 自己点検・自己評価委員会

人間生活学科	竹内 理恵
食物栄養学科	犬伏 知子 (委員長)
児童学科	岡 直樹
メディアデザイン学科	長濱 太造
建築デザイン学科	山田 宰
心理学科	原田 耕太郎

編集責任者：犬伏 知子